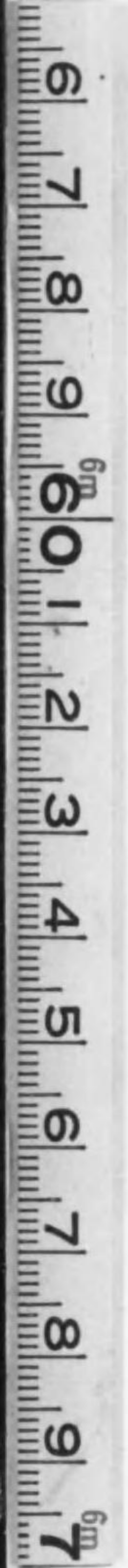


無邊光照禪師遺錄

特 257

526



始



無邊光照禪師小影



燕 登 次 照 輪 袖 小 笠

無邊光照禪師真蹟

風池應是起喜風
瑞色遍輝天下中
身且悠於先獻
奇偏祈寶祚
與無窮

丁丑元旦祝聖

悠於道海

符 257
526



照禪師遺錄



落	離	禪	祖	
處	弦	裏	中	遺
那	一	絕	無	偈
邊	箭	禪	祖	

落	離	禪	祖	遺
處	弦	裏	中	偈
那	の	禪	祖	
	一	を	無	
邊	箭	絶	く	



序
 勅賜無邊光照禪師。初坐於羽之寶鏡。甲之大泉。相之最乘諸道場。轉大法輪。後陞武之大本山總持寺。猊座。廣度群生。而現般涅槃。一化六十七年。法臘五十八夏也。禪師資性慧悟。禪機滑脫。宏量容人。福德兼備。其在能大本山僧堂也。苦修練行。一朝大悟。受杉本道山禪師印可。其見大本山遭祝融之災也。挺身入火。搬出重寶。功績拔群。爲石川素童禪師所推重。其及大本山移轉之時也。見拔擢爲副寺。爾來多年。苦心慘愴。拮据經營。大本山之有今日。可歸禪師之功者居多。蓋亦禪師禪定福德力之所現乎。

序
 勅賜無邊光照禪師、初に羽の寶鏡、甲の大泉、相の最乗の諸道場に坐して大法輪を轉じ、後に武の大本山總持寺の猊座に陞つて、廣く群生を度して般涅槃を現す。一化六十七年、法臘五十八夏也。禪師資性慧悟、禪機滑脫、宏量人を容れ、福德兼ね備はる。その能大本山の僧堂に在るや、苦修練行、一朝大悟して杉本道山禪師の印可を受く。その大本山祝融の災に遭ふを見るや、身を挺して火に入り、重寶を搬出して功績拔群、石川素童禪師の推重する所となる。その大本山移轉の時に及びてや、拔擢せられて副寺となり、爾來多年、苦心慘愴、拮据經營、大本山の今日ある、禪師の功に歸すべきもの多きに居る。蓋亦禪師の禪定福德力之所現か。禪師又



禪師又禪餘嗜詩偈。雖非其本領。亦足以窺其一面。隨徒等得之而珍重。寂後一年。纂輯名遺錄。而刊行焉。余乃隨喜。代同人而作序云。

昭和辛巳七月

參學 永光智璨謹識

禪餘詩偈を嗜む。その本領に非ずと雖も、亦以て其の一面を窺ふに足れり。隨徒等之を得て珍重す。寂後一年、纂輯し遺錄と名けて刊行す。余乃ち隨喜し、同人に代つて序を作るといふ。

昭和辛巳七月

參學 永光智璨謹みて識す

例言

一、無邊光照禪師。一代行持。以禪爲本面目。如其詩偈。唯應其所要。而不顧巧拙。豈爲其所長耶。今編本錄。全出自隨徒等。渴仰之情。不得已。願莫及累禪師。

一、本錄所集。概係大雄山主及大本山總持寺貫首時代之作。其間或有散逸者。今編其所得者。分類祝聖。上堂。仰高。示衆。祈禱。開光。慶讚。授戒。香語。頌古。題贊。祝賀。贈答。感懷。疏銘。韻餘。如其中列次。或從輕重。或從年所。或從長短。或從季節。只本便宜而已。不必一其標準。

例言

一、無邊光照禪師、一代の行持禪を以て本面目とす。其の詩偈の如き、たゞ其の所要に應じて巧拙を顧みず。豈その長する所とせんや。今本錄を編するは、全く隨徒等渴仰の情已むを得ざるより出づ。願はくは累を禪師に及ぼすなからんことを。

一、本錄集むる所、概ね大雄山主及び大本山總持寺貫首時代の作に係る。その間或は散逸するものあり。今その得る所のものを編し、類を祝聖・上堂・仰高・示衆・祈禱・開光・慶讚・授戒・香語・頌古・題贊・祝賀・贈答・感懷・疏銘・韻餘に分つ。その中の列次の如き、或は輕重に従ひ、或は年所に従ひ、或は長短に従ひ、或は季節に従ふ。たゞ便宜に本づくのみ。必ずしも其標準を一にせず。

一、本錄所編。主集詩偈。蓋由其未公於世也。禪師所著。有峩山禪師行實。常濟大師御傳記。人生問答。禪的處世法。後醍醐天皇勅問奏對謹解等。流布江湖。今不編之也。

一、大本山總持寺監院孤峯老師。隨喜本錄出版。作序見寄。因得以飾卷頭。道誼深甚。不堪感謝。

一、本錄編輯刊行。關係其事者不少。余只不過代表之也。

昭和十六年七月 編者 鏡島宗純識

一、本錄編する所、主として詩偈を集む。蓋その未だ世に公にせざるに由るなり。禪師著す所、峩山禪師行實・常濟大師御傳記・人生問答・禪的處生法・後醍醐天皇勅問奏對謹解等あり。江湖に流布す。今之を編せざるなり。

一、大本山總持寺監院孤峯老師本錄の出版に隨喜し、序を作つて寄せらる。因つて以て卷頭を飾るを得たり。道誼深甚感謝に堪へず。

一、本錄編輯刊行、其の事に關係する者少からず。余はたゞ之を代表するに過ぎざるなり

昭和十六年七月 編者 鏡島宗純識す

目次

祝	頌	香	投	慶	開	祈	示	仰	上	祝	
賀	贊	古	語	戒	讚	光	禱	衆	高	堂	聖
.....	(一)(二)(三)(四).....
二七	二七〇	二六一	一〇一	二	三	三	三	二六	二四	五	一

贈答	三〇五
感懷	三〇六
疏銘	三〇五
韻餘	三〇六
小影	
真蹟	
遺偈	
序文	
例言	
附錄	
行實	
略年譜	
內容要目	

無邊光照禪師遺錄

大泉宗純等編

祝聖

祝聖。壬申元旦

曉色鷄聲新一年。春風應滿鳳城天。山僧欲獻無量壽。修得金剛不壞禪。

同。癸酉元旦

普天率土入青陽。搖曳煙霞五色光。護國最乘禪寺裏。先祈聖壽萬年長。

祝聖。壬申元旦
曉色鷄聲一年を新にす、春風まさに滿つべし鳳城の天。山僧獻せんと欲す無量の壽。修し得たり金剛不壞の禪。

同。癸酉元旦
普天率土青陽に入つて、搖曳す煙霞五色の光。護國最乘禪寺の裏、先づ祈る聖壽萬年の長きを

同。甲戌元旦

御柳含煙五彩生。春風應早滿皇城。僧家欲獻金剛壽。祝聖心香盡至誠。

同。乙亥元旦

上苑東風御柳煙。恩光早已到無邊。獻香先祝新春曉。聖壽泰山安萬年。

同。丙子元旦

東海生霞天地新。惠風吹遍仰堯仁。焚香先獻金剛壽。寶祚萬年春又春。

同。丁丑元旦

鳳池應是起春風。瑞色遍輝天下中。歲旦總持先獻壽。偏祈寶祚照無窮。

同。甲戌元旦

御柳煙を含んで五彩生ず、春風まさに早く皇城に滿つべし。僧家獻ぜんと欲す金剛の壽、祝聖の心香至誠を盡す。

同。乙亥元旦

上苑の東風御柳の煙、恩光早く已に無邊に到る。獻香先づ祝す新春の曉、聖壽泰山萬年安きを

同。丙子元旦

東海霞を生じて天地新なり、惠風吹き遍うして堯仁を仰ぐ。香を焚いて先づ獻す金剛の壽、寶祚萬年春又春。

同。丁丑元旦

鳳池まさに是れ春風を起して、瑞色遍く天下の中に輝くべし。歳旦總持先づ壽を獻じて、偏に祈る寶祚の無窮を照すを。

同。戊寅元旦

乾坤回曆入春風。知自禁庭瑞氣通。先仰皇威輝宇宙。金剛寶壽祝無窮。

同。己卯元旦

天地春回瑞靄霧。皇威遙照八紘雲。山中恭獻金剛壽。祝聖心香無限芬。

入山祝聖

只管勤修護國禪。皇恩欲報大如天。入山恭獻金剛壽。寶算無窮萬々年。

祝聖

明如日月照無疆。德似天地大叵量。祝聖獻來眞福聚。金剛寶壽萬年香。

同。戊寅元旦

乾坤曆を回して春風に入る、知んぬ禁庭より瑞氣の通するを。先づ皇威の宇宙に輝くを仰いで金剛の寶壽無窮を祝す。

同。己卯元旦

天地春回つて瑞靄霧たり。皇威遙に照す八紘の雲。山中恭しく獻す金剛の壽、祝聖の心香限り無く芬し。

入山祝聖

只管に勤修す護國の禪、皇恩報いんと欲すれば大なること天の如し。入山恭しく獻す金剛の壽寶算無窮萬々年。

祝聖

明なること日月の如く無疆を照す、徳天地に似て大なること量りがたし。祝聖獻じ来る眞の福聚、金剛寶壽萬年の香。

國師號宣下建築費香華料下賜祝聖
國師勅下耀宗門。聖澤更加靈殿尊。今日忝斯
天上賜。千秋萬歲拜皇恩。

國師號宣下建築費香華料
下賜祝聖
國師勅下つて宗門耀き、聖澤更
に加はつて靈殿尊し。今日斯の
天上の賜を忝うして、千秋萬歲
皇恩を拜す。

上堂

晋山上堂

山門

誰人彈指。開總持關。光明普照。綠水青山。

僧堂

清淨大海。不立纖塵。同住和敬。三世主賓。

佛殿

歷劫應化。三界獨尊。入我々入。水月無痕。

伽藍神

重佛付囑。作威德神。江山長鎮。護法安人。

祖堂

晋山上堂

山門

誰人か彈指して、總持の關を開く。光明普く照す、綠水青山。

僧堂

清淨の大海、纖塵を立せず。同じく和敬に住せん、三世の主賓

佛殿

歷劫の應化、三界の獨尊。入我我入、水月痕無し。

伽藍神

佛の付囑を重んじて、威徳の神と作る。江山長へに鎮め、法を護し人を安んぜよ。

祖堂

聯燈續燄。四七二三。高山雲湧。大海波涵。

太祖二世

禪風無比達天聰。法脈分流四海通。曩祖儼然如在處。春山一路百花紅。

視篆

千古印璽。文彩分明。受用不盡。月白風清。

據室

靈鷲坐虛空。毘耶憑丈室。山僧有別傳。云何應拈出。

園林風暖柳青々。藍若春深花密々。

勅黃

天臨日照。雲上恩光。文彩燦々。感荷偏長。

聯燈續燄、四七二三、高山雲湧き、大海波涵す。

太祖二世

禪風無比天聰に達し、法脈流を分つて四海に通す。曩祖儼然として在すが如き處、春山一路百花紅なり。

視篆

千古の印璽、文彩分明、受用不盡、月白く風清し。

據室

靈鷲虛空に坐し、毘耶丈室に憑る。山僧別傳有り、云何が拈出すべき。

園林風暖かにして柳青々、藍若春深うして花密々。

勅黃

天臨み日照す、雲上の恩光。文彩燦々、感荷偏に長し。

山門疏

屋裏說話。語々是真。提吾面目。逼我精神。

直末疏

白字溪脈。千古流新。箇中有響。聲調和春。

道舊疏

無絃一曲。以心傳心。高山流水。千里知音。

道舊疏

參玄撥草。故舊難忘。肝膽相照。語話轉香。

拈衣

鷄足金欄。曹溪信衣。傳在這裏。一肩應機。

登座

須彌高廣。八萬由旬。燈王讓我。下風轉身。

山門疏

屋裏の說話、語々はれ眞。吾が面目を提げ、我が精神に逼る。

直末疏

白字の溪脈、千古流新なり。箇中響有り、聲調春に和す。

道舊疏

無絃の一曲、以心傳心。高山流水、千里の知音。

道舊疏

參玄撥草、故舊忘れ難し。肝膽相照して、語話轉た香し。

拈衣

鷄足の金欄、曹溪の信衣。傳へて這裏に在り、一肩機に應ず。

登座

須彌高廣、八萬由旬、燈王我に讓つて、下風に身を轉す。

看々。一踏々斷。喝散劫塵。

第一香

此一瓣香。鍾天地正大之氣。具日月清明之德。恭拈出薰向寶爐。端爲祝延。
今上天皇陛下。聖壽萬歲。仰冀寶祚長久。兆民永浴堯舜高大之聖澤。皇圖鞏固。萬邦齊仰。天壤無窮之國光。

第二香

此一瓣香。靈山微妙實在。曹洞甚深秘珍。金剛寶座上薰發。正法眼藏裏傳持。恭拈出薰向獅爐。供養大恩教主釋迦牟尼佛。高祖承陽大師。三國傳燈祖師。上酬慈恩。伏惟古佛眞如月。普

看よ看よ、一踏に踏斷して、劫塵を喝散するを。

第一香

此の一瓣香、天地正大の氣を鍾め、日月清明の德を具す。恭しく拈出して寶爐に薰向し、端に爲に祝延し奉る。
今上天皇陛下、聖壽萬歲。仰ぎ冀はくは、寶祚長久、兆民永く堯舜高大の聖澤に浴し、皇圖鞏固、萬邦齊しく天壤無窮の國光を仰がんことを。

第二香

此の一瓣香、靈山微妙の實在、曹洞甚深の秘珍。金剛寶座上の薰發、正法眼藏裏の傳持。恭しく拈出して獅爐に薰向し、大恩教主釋迦牟尼佛、高祖承陽大師、三國傳燈祖師に供養し奉り、上慈恩に酬いんことを。伏して惟みれば、古佛眞如の月、普く妙

現妙相于世。祖師三昧水。永施巨益於人天。

第三香

此一瓣香。固根幹六百年前。開枝條萬餘支分。高達九天。遠及率土。恭拈出薰向象爐。供養本山開祖洞上太祖常濟大師。本山二世大現宗猷國師。上酬慈恩。伏惟諸嶽高聳。禪風遙扇。大千之界。三松普蓋。法雨等潤諸根之機。

第四香

此一瓣香。一華開五葉。功德蓋古今。恭拈出薰向香爐。供養本山五院開基大和尚。獨住諸大和尚。上酬慈蔭。伏惟手撐嶽山。袈裟角重千鈞。禪護國家。神通力貫萬世。

相を世界に現じ、祖師三昧の水永く巨益を人天に施さんことを

第三香

此の一瓣香、根幹を六百年前に固め、枝條を萬餘の支分に開き高く九天に達し、遠く率土に及ぶ。恭しく拈出して象爐に薰向し、本山開祖洞上太祖常濟大師、本山二世大現宗猷國師に供養し奉り、上慈恩に酬いんことを。伏して惟みれば、諸嶽高く聳えて、禪風遙に大千の界に扇ぎ、三松普く蓋うて、法雨等しく諸根の機を潤さんことを。

第四香

此の一瓣香、一華五葉を開き、功德古今を蓋ふ。恭しく拈出して香爐に熱向し、本山五院開基大和尚、獨住諸大和尚に供養し奉り、上慈蔭に酬いんことを。伏して惟みれば、手撐嶽山を撐へて、袈裟角千鈞より重く、禪國家を護つて、神通力萬世を貫かんことを。

第五香

此香。祖門爛柯柴。不可以色相見。不可以音聲聞。昔時撥般若智火拾之。以收我衣裏。即今拈出投香爐。供養先師道孝元大和尚。酬撫育摩頂之恩。

垂語

格外玄機。超凡越聖。道上行業。釣月耕雲。是衲僧尋常之茶飯事。這裏有懸崖絕壁撒手。不涉咽喉唇吻而通消息底者麼。恁麼漢。出來商量。

提綱

函蓋乾坤。涉入微塵。絕大小量。芥子容須彌。混古今相。十世收一念。心境一如。雲犀玩月燦含

第五香

此の香、祖門の爛柯柴、色相を以て見るべからず、音聲を以て聞くべからず。昔時般若の智火を撥つて之を拾ひ、以て我が衣裏に收む。即今拈出して香爐に投じ、先師道孝元大和尚に供養し奉り、撫育摩頂の恩に酬いんことを。

垂語

格外の玄機、凡を超え聖を越え道上行業、月に釣り雲に耕す是れ衲僧尋常の茶飯事、這裏懸崖絶壁に手を撒し、咽喉唇吻に涉らずして消息を通ずる底の者ありや。恁麼の漢は出で來つて商量せよ。

提綱

乾坤を函蓋し、微塵に涉入し、大小の量を絶して芥子須彌を容れ、古今の相を混じて十世一念に收む。心境一如、雲犀月を玩んで燦として光を含み、諸法無

光。諸法無礙。木馬遊春駿不羈。法々本來有此性相。人々豈可無此機用。即今祝國開堂。洞上無雙禪苑。拈起無上大法。賜紫出世道場。激勵有用逸材。只要單傳禪風。當國家多事之際。指示一世趨向。沒量大人。立思想善導之時。現出百般神通。冀佛祖照鑑。試道一句。(良久曰)日々只知逢好日。花紅柳綠一天春。

謝語

恭惟。大本山永平寺貫首勅賜大規正信禪師。猊下。屈尊親降臨此會。空前恩光何日報。不堪感激之至。

恭惟。勅賜覺同行智禪師。前紫雲臺猊下。屈尊

礙、木馬春に遊んで駿にして羈されず。法々、來此の性相あり人々豈此の機用無かるべけんや即今祝國開堂、洞上無雙の禪苑に無上の大法を拈起し、賜紫出世の道場に有用の逸材を激勵す只要す、單傳の禪風、國家多事の際に當つて一世の趨向を指示し、沒量の大人、思想善導の時に立つて百般の神通を現出せんことを。冀はくは佛祖照鑑し給へ。試みに一句をいはん。(良久して曰く)日々只知る好日に逢ふことを、花紅柳綠一天の春。

謝語

恭しく惟みれば、大本山永平寺貫主勅賜大規正信禪師猊下、尊を屈して親しく此の會に降臨し給ふ。空前の恩光何れの日にか報いん。感激の至に堪へず。恭しく惟みれば、勅賜覺同行智禪師前紫雲臺猊下、尊を屈して

降臨此會。荷恩難報。感佩何竭。
恭惟。本宗管長。猊下。和光影嚮此道場。光榮如
何謝。不知感佩所盡。

拈 提

記得。太祖大師曰。祖師授手傳心。諸佛印證密
契。不可以言求。唯心證神契。乃命脉即通。超出
有空量之表。獨尊佛祖位之上。妙德尊寰宇。高
明朗大虛。正恁麼時。一切處是爾自己。一切處
是爾光明。一切處是爾坐道場。一切處是爾作
佛事。親言出自親口。恁麼丁寧。山僧欲重宣此
義。而說偈言。

證契即通超色心。始看謝德報恩深。青山綠

此の會に降臨し給ふ。荷恩報い
難し。感佩何ぞ竭きん。
恭しく惟みれば、本宗管長猊下、
光を和けて此の道場に影嚮し給
ふ。光榮如何が謝せん。感佩の
盡くる所を知らず。

拈 提

記得す。太祖大師曰く「祖師の
授手傳心、諸佛の印證密契、言
を以て求むべからず。唯心證神
契して乃ち命脉即通す。有空量
の表に超出し、佛祖位の上に獨
尊たり。妙德寰宇に尊く、高明
大虛に朗なり。正恁麼の時、一
切處是れ爾が自己、一切處是れ
爾が光明、一切處是れ爾が坐道
場、一切處是れ爾が作佛事」と
親言は親口より出づ。恁麼に丁
寧。山僧重ねて此の義を宣べん
と欲して偈を説いて言ふ。
證契即通色心を超えて、始め
て看る謝德報恩の深きを。青

水王三昧。一道光明照古今。

對 眞 上 堂

登 座

上戴日月。下踏風雲。須彌說話。任燈王聞。

拈 香

此一瓣香。覆載天地。包容山海。即今拈出金爐。
端爲奉祝延。
今上天皇陛下。玉體康寧。聖壽萬歲。欽願。寶算
無窮。踰芥城劫石之久。皇礎不動。安須彌鐵圍
之固。

此一瓣香。根蟠金剛座上。枝展扶桑國裏。即今

山綠水王三昧、一道の光明古
今を照す。

對眞上堂

登 座

上には日月を戴き、下には風雲
を踏む。須彌の說話、燈王の聞
くに任す。

拈 香

此の一瓣香、天地を覆載し山海
を包容す。即今金爐に拈出して
端に爲に祝延し奉る。
今上天皇陛下、玉體康寧、聖壽
萬歲。欽み願はくは、寶算窮
りなく、芥城劫石の久しきに踰
え、皇礎動ぜず、須彌鐵圍の固
きに安んぜんことを。
此の一瓣香、根は金剛座の上に蟠
り、枝は扶桑國裏に展ぶ。即今

薰翻寶爐。奉供養本山開祖常濟大師。二世大和尚。上酬慈恩。伏願。三松關頭。法雨普潤群類。諸嶽山上。祖風永扇十方。

此一瓣香。黑漆崑崙成本。五葉一華流芳。即今薰向寶爐。供養五院開基大和尚。伏惟。五派一靈源。碧潭清皎潔。潺湲日夜長。萬古流無竭。此一瓣香。培本鳳至峯頭。固根鶴見山上。世界瞻仰。皇國鎮護。即今拈出薰向寶爐。供養當山獨住第四世大圓玄致禪師牧牛素童大和尚。酬移轉興隆之功績。伏惟。圓明定慧。洞觀時機。移山興法。宗風長輝。此梅檀香。拈來投香爐。供養本願檀那定賢律

寶爐に薰翻して、本山開祖常濟大師、二世大和尚に供養し奉り上慈恩に酬いんことを。伏して願はくは、三松關頭法雨普く群類を潤し、諸嶽山上祖風永く十方に扇がんことを。
此一瓣香、黒漆の崑崙本を成し、五葉の一華芳を流ふ。即今寶爐に薰向して、五院開基大和尚に供養し奉る。伏して惟みれば、五派靈源を一にし、碧潭清うして皎潔、潺湲日夜長く、萬古流れて竭くること無し。
此一瓣香、本を鳳至峰頭に培ひ、根を鶴見山上に固うし、世界の瞻仰、皇國の鎮護、即今拈出して寶爐に薰向し、當山獨住第四世大圓玄致禪師牧牛素童大和尚に供養し、移轉興隆の功績に酬い奉る。伏して惟みれば、圓明の定慧、時機を洞觀し、移山興法、宗風長へに輝く。
此の梅檀香、拈じ來つて香爐に投じ、本願檀那定賢律師大和尚

師大和尚。以答檀度之功績。夫惟。三輪清淨。絕無纖埃。道場百世。覺樹花開。

釣語

左顧不得。右眄不得。住着中道。亦是依草附木精靈。總解脫。恁麼行履。試通一線路來。

提綱

本際解脫。固無生老病死。諸法皆空。何論苦集滅道。縱令說宗談說。總非寶所。只是挖泥帶水。枉作化城。不二法門。無言無說。無示無諱。真箇鉄漢。以心傳心。禮拜得髓。是故。肯來兩手相分付。擬去千尋不可攀。且道。如何是透脫自在。生死涅槃底。〔良久曰〕。翡翠踏翻荷葉雨。鷺鷥

に供養し、以て檀度の功績に答ふ。夫れ惟みれば、三輪清淨、絶えて纖埃なし、道場百世、覺樹花開く。

釣語

左顧することを得ず、右眄することを得ず、中道に住着するも亦是れ依草附木の精靈。總に恁麼の行履を解脫して、試みに一線路を通じ來れ。

提綱

本際解脫、固より生老病死なし諸法皆空、何ぞ苦集滅道を論ぜん。たとひ宗を説き説を説するも、すべて寶所にあらず、只是れ挖泥帶水枉げて化城を作す。不二の法門は無言無說無示無諱真箇の鉄漢は以心傳心禮拜得髓この故に肯ひ來らば兩手に相分付するも、擬し去らば千尋攀つべからず。しばらくいへ、如何なるか是れ生死涅槃に透脫自在なる底ぞ〔良久して曰く〕翡翠なる底ぞ〔良久して曰く〕翡翠

衝破竹林煙。

拈提

記得太祖大師有偈曰。自耕自種閑田地。幾度賣來買去新。無限靈苗繁茂處。法堂上見挿鋤人。山僧恭次韻以酬慈恩。

清規要徹本來真。嚴令山僧棒喝新。好是靈苗繁茂處。祖風應化普天人。

完戒上堂

登壇

法雨呈祥。香風匝地。善修有瑞。紫雲滿天。須彌峯上無邊奇特。觸目不會道。早是蹉過了。看々。

踏翻す荷葉の雨、鶯鷲衝破す竹林の煙。

拈提

記得す。太祖大師偈あり曰く、自ら耕し自ら種う閑田地。幾度か賣來り買去つて新なり。限り無き靈苗繁茂の處、法堂上に鋤を挿むの人を見ると、山僧恭しく韻を次して以て慈恩に酬い奉る。

清規本來の眞に徹せんこと要して、令を嚴にする山僧棒喝新なり。好し是れ靈苗繁茂の處、祖風まさに化すべし普天の人。

完戒上堂

登壇

法雨祥を呈して香風地を匝り、善修瑞ありて紫雲天に滿つ。須彌峰上無邊の奇特。觸目道を會せずんば、早く是れ蹉過了。看よ看よ。

祝聖拈香

此一瓣香。覆蓋乾坤。照耀古今。恭拈出蕪向金爐。端爲奉祝延。

今上天皇陛下。玉體康寧。聖壽萬歲。欽願。寶祚與天壤無窮。皇化及億兆光被。帝道彌昌。國威遐輝。

戒壇拈香

此一瓣香。根連西天靈山。枝翳東土扶桑。嫡々相承至我。即今拈出蕪向寶爐。供養華藏教主盧舍那佛。得戒本師釋迦牟尼佛。高祖承陽大師。太祖常濟大師。當寺開山大和尚。歷住諸大和尚。戒源師道孝元大和尚等。伏惟。一切戲

祝聖拈香

此の一瓣香、乾坤を覆蓋し古今を照耀す。恭しく拈出して金爐に蕪向し、端に爲に祝延し奉る。今上天皇陛下玉體康寧、聖壽萬歲。欽み願はくは、寶祚天壤と窮りなく、皇化億兆に及んで光被し、帝道彌昌んに、國威遐に輝かんことを。

戒壇拈香

此の一瓣香、根西天の靈山に連り、枝東土の扶桑に翳し、嫡々相承して我に至る。即今拈出して寶爐に蕪向し、華藏教主盧舍那佛、得戒本師釋迦牟尼佛、高祖承陽大師、太祖常濟大師、當寺開山大和尚、歷住諸大和尚、戒源師道孝元大和尚等に供養し奉る。伏して惟みれば、一切

論惡。悉由是處滅。諸佛薩婆若。悉由是處出。如來證明。炳焉照著。禪風永扇。有緣法界。戒光長照。無量衆生。

鈞語

持戒爲平地。禪定爲屋宅。禪戒一如。方是衲僧。這裏有恁麼龍象。試通消息來。

提綱

一義諦裏。何立寸塵。佛事門中。不捨一法。道本圓通。迥超修證。戒光清淨。豈滯持犯。是故。不取正戒相。亦無邪念心。纔有入頭分。護持無上意。相續精進力。始是報恩底。即今尸羅功德。如何體達。(拂一拂云)青山元不動。白雲自去來。

の戲論の惡は、悉くこの處に由りて滅し、諸佛の薩婆若は、悉くこの處に由りて出づと。如來の證明炳焉照著なり、禪風永く有緣の法界に扇ぎ、戒光長へに無量の衆生を照さんことを。

鈞語

持戒を平地と爲し禪定を屋宅となす。禪戒一如にして方に是れ衲僧たり。這裏恁麼の龍象あらば試みに消息を通じ來れ。

提綱

一義諦裏何ぞ寸塵を立せん、佛事門中一法を捨てず。道本圓通はるかに修證を超え、戒光清淨あに持犯に滯らんや。この故に正戒の相をも取らず亦邪念の心も無くして、纔に入頭分あり無上意を護持し精進力を相續して始めて是れ報恩底。即今尸羅功德如何が體達せん。(拂一拂して云く)青山元不動せず、白雲自ら去來す。

謝語

茲惟。教授師某大和尚。蘊德和光。以長補短。特本日金槌證明。更惟。引請師當山堂頭大和尚。發願此會。莊嚴道場。使四衆受戒。實是法海大明燈。又惟。隣峯宿德。諸山耆年。山門兩序。十方兄弟。各來儀和。敬隨喜。因得以告完戒。無堪感激之至。

拈則

記得。南陽忠圓師。有僧問曰。如何是本身盧舍那。國師云。與我過淨瓶來。僧將淨瓶到。國師云。却安舊處着。僧復問。如何是本身盧舍那。國師云。古佛過去久矣。國師恁麼親切。挖泥帶水。未

謝語

茲に惟みれば教授師某大和尚、徳を蘊み光を和げ、長を以て短を補ひ、特に本日金槌證明し給ふ。更に惟みれば引請師當山堂頭大和尚、此の會を發願し道場を莊嚴して、四衆をして受戒せしむ。實に是れ法海の大明燈たり。又惟みれば隣峯の宿徳諸山の耆年、山門の兩序十方の兄弟各と來儀して和敬隨喜せらる。因つて以て完戒を告ぐるを得たり。感激の至に堪ふる無し。

拈則

記得す。南陽の忠圓師、僧あり問うて云く、如何なるか是れ本身盧舍那。國師云く我がために淨瓶を過し來れ。僧淨瓶をもつて到る。國師云く却つて舊處に安ぜよ着。僧復た問ふ如何なるか是れ本身盧舍那。國師云く古佛過去すること久しと。國師恁麼に親切、挖泥帶水、未だ古佛

免使古佛過去。一場敗缺。若是山僧。直對他。打一棒云。汝是誰。現前菩薩衆會麼。不會則更諦聽山僧舉一偈。(拂一拂云)。

三輪清淨妙修完。廣大慈門是戒壇。各證佛身分手處。灣頭一碧漲春瀾。衆慈久立珍重。

完戒上堂

登壇

吾有禪機。逢強則弱。須彌燈王。看我作略。

祝聖拈香

此一瓣香。根幹覆蓋乾坤。枝葉瀾漫沙界。壽經三祇長。時涉芥劫久。今日恭拈出。燕向金爐。端

をして過去せしむることを免れず。一場の敗缺。若し是れ山僧ならば直に他に對して一棒を打して云はん。汝は是れ誰そと。現前の菩薩衆會すや。會せずんば更に山僧の一偈を舉するを諦聽せよ。(拂一拂して云く) 三輪清淨にして妙修完し。廣大の慈門は是れ戒壇。各々佛身を證して手を分つ處。灣頭一碧春瀾を漲らす。衆慈久立珍重。

完戒上堂

登壇

吾に禪機あり、強に逢うては則ち弱。須彌燈王、我が作略を看よ

祝聖拈香

此の一瓣香、根幹乾坤を覆蓋し枝葉沙界に瀾漫す。壽は三祇の長きを経、時は芥劫の久しきに渉る。今日恭しく拈出して金

爲奉祝延。

今上天皇陛下。玉體康寧。聖壽萬歲。欽願寶祚無窮。一天仰堯風舜德。皇化光被。萬邦共海晏河清。

戒壇拈香

此一瓣香。上超須彌。下徹金輪。三昧王三昧。思量非思量。卽今拈出。燕向寶爐。供養華藏教主。盧舍那佛。得戒本師。釋迦牟尼佛。高祖承陽大師。太祖常濟大師。當寺開山大和尚。歷住諸大和尚。戒源師道孝。元大和尚等。伏惟持戒平地。禪定屋宅。能生慧明。滅除痴闇。禪戒一如。長養菩提。

爐に燕向し、端に爲に祝延し奉る。

今上天皇陛下 玉體康寧 聖壽萬歲。欽願はくは、寶祚無窮、一天堯風舜德を仰ぎ、皇化光被、萬邦海晏河清を共にせんことを。

戒壇拈香

此の一瓣香、上は須彌を超え下は金輪に徹す。三昧王三昧、思量非思量、卽今拈出して寶爐に燕向し、華藏教主盧舍那佛、得戒本師釋迦牟尼佛、高祖承陽大師、太祖常濟大師、當寺開山大和尚、歷住諸大和尚、戒源師道孝、元大和尚等に供養し奉る。伏して惟みれば、持戒の平地、禪定の屋宅、能く慧の明を生じて痴闇を滅除し、禪戒一如、菩提を長養せんことを。

釣語

修證非無。染汚不得。誰是不涉染汚底之衲子。此中若有恁麼漢。試道取一句來。

提綱

道本圓通。說何持犯。宗乘自在。論何開遮。然毫釐誤分。千里蹉過。故背觸共離。取捨双超。始方得通氣息。若能勤精進。則耐爲報恩人。卽今尸羅功德如何道得。(拂一拂云)石長無根樹。山含不動雲。

謝語 [文略]

拈則

記得。嚴陽尊者問趙州。一物不將來時如何。州

釣語

修證は無きに非ず染汚することを得ず。誰か是れ染汚に涉らざる底の衲子ぞ。此の中若し恁麼の漢あらば試みに一句を道取し來れ。

提綱

道本圓通、何の持犯をか説かん宗乘自在、何の開遮をか論ぜん然れども毫釐も分を誤らば千里に蹉過す。故に背觸共に離れ取捨雙び超えて、始めてまさに氣息を通ずるを得ん。若し能く勤めて精進せば則ち報恩の人たるに耐へん。卽今尸羅の功德如何が道得せん。(拂一拂して云く)石は無根の樹を長じ、山は不動の雲を含む。

謝語 [文略す]

拈則

記得す。嚴陽尊者趙州に問ふ、一物不將來の時如何。州云く放

云放下著。嚴云一物不將來放下箇甚麼。州云恁麼則擔取去。嚴陽尊者未離取捨相。自繩自縛。趙州古佛奪他鋒而伐他。擒縱自在。殺活縱橫。人若向山僧問一物不將來時如何。則云惣是用不着。更問如何。乃打。現前諸菩薩會麼。山僧更有完戒一偈。試舉。

不用善財徒訪南。如々禪戒卽心參。主賓歡喜將分手。綠樹碧雲相映酣。衆慈久立珍重。

下着。嚴云く一物不將來このなにか放下せん。州云く恁麼ならば擔取し去れ。と。嚴陽尊者未だ取捨の相を離れず、自繩自縛。趙州古佛他の鋒を奪つて他を伐つ。擒縱自在殺活縱橫。人若し山僧に向つて一物不將來の時如何と問はゞ、則ち云はん惣は是れ用不着と。更に如何と問はゞ、乃ち打たん。現前の諸菩薩會すや。山僧更に完戒の一偈あり。試に舉す。
用ひず善財の徒らに南を訪ふを、如々の禪戒卽心に參す。主賓歡喜して將に手を分たんとすれば、綠樹碧雲相映じて酣なり。衆慈久立珍重。

仰高

後醍醐天皇御聖像拜刻式

心要有勅悟禪機。建武皇謨日月輝。御像新成諸嶽裏。人天萬世仰神威。

請看林邊春雪後。梅花萬點綴珠璣。

後醍醐天皇御靈殿立柱式

礎徹金輪大地堅。瑞生玉柱紫雲連。青山應有諸天護。靈殿光輝照萬年。

後醍醐天皇尊像開眼

聖明叡略德如天。復古親開建武年。珠冕袞龍留御影。神威千古轉巍然。

後醍醐天皇御聖像拜刻式

心要勅有り禪機を悟り、建武の皇謨日月輝く。御像新に成る諸嶽の裏、人天萬世神威を仰ぐ。

請ふ看よ林邊春雪の後、梅花萬點珠璣を綴る。

後醍醐天皇御靈殿立柱式

礎金輪に徹して大地堅く、瑞玉柱に生じて紫雲連る。青山まさに諸天の護あるべし、靈殿の光輝萬年を照す。

後醍醐天皇尊像開眼

聖明叡略徳天の如し、復古親しく開く建武の年。珠冕袞龍御影を留めて、神威千古うたゝ巍然

後醍醐天皇御供養

天機契處悟禪機。建武中興聖德輝。勅願道場恩旨在。千秋萬古仰稜威。

菊漲秋風一庭馥。楓懸霜葉滿林緋。

後醍醐天皇六百年御忌

庶政開春復古天。花明風暖紫宸前。御爐香惹無邊德。赫々神光六百年。

同

排來雲霧是神機。建武皇謨日月輝。天上春風花燦々。星霜六百仰稜威。

同

聖謨洪大德如天。日月明輝建武年。六百星霜

後醍醐天皇御供養

天機契ふ處禪機を悟り、建武中興聖徳輝く。勅願道場恩旨在り千秋萬古稜威を仰ぐ。

菊は秋風一庭の馥しきを漲らし、楓は霜葉滿林の緋を懸く

後醍醐天皇六百年御忌

庶政春を開く復古の天、花明に風暖なり紫宸の前。御爐香は惹く無邊の徳、赫々たる神光六百年。

同

雲霧を排し來るこれ神機、建武の皇謨日月輝く。天上の春風花燦々、星霜六百稜威を仰ぐ。

同

聖謨洪大徳天の如し、日月明に輝く建武の年。六百星霜歛んで

欽敬仰。神威赫々照無邊。

同

日月揚輝建武天。宏謨立處德風宣。威光赫々通今古。照耀乾坤六百年。

同

禪入上乘心萬機。拂雲見日是神威。星霜六百人天仰。建武光明赫々輝。

同

雲霧披來天日長。春風吹入御爐香。星移物換花如昔。六百年頭仰德光。

同

龍威鳳德五雲隨。建武中興是此時。六百星霜

敬仰す、神威赫々として無邊を照すを。

同

日月輝を揚ぐ建武の天、宏謨立つ處德風宣ぶ。威光赫々今古に通じて、乾坤を照耀す六百年。

同

禪は上乘に入り心は萬機、雲を拂つて日を見る是れ神威。星霜六百人天仰ぐ。建武の光明赫々として輝くを。

同

雲霧披き來つて天日長く、春風吹いて入る御爐の香。星移り物換つて花昔の如し、六百年頭德光を仰ぐ。

同

龍威鳳德五雲隨ふ、建武の中興これ此の時。六百星霜一彈指、

一彈指。恩光遍處拜尊儀。

大正天皇十三回御忌

叙明文武德如天。紹跡明治大業傳。鳳輦入雲知那處。臣民深憶十三年。

大塔宮護良親王六百回忌

出來大塔率神兵。建武中興功業成。六百星霜遺烈在。仰看令德日星明。

秋天廓處行雲靜。野色連邊流水清。

久邇宮殿下七回忌

玉葉金枝勳業芳。惟文惟武德無疆。望風水遠山高處。猶有昭々百世光。

林下丹楓含顫氣。籬邊黃菊放秋香。

恩光遍處尊儀を拜す。

大正天皇十三回御忌

叙明文武徳天の如し、跡を明治に紹いで大業傳ふ。鳳輦雲に入つて知んぬ那れの處ぞ、臣民深く憶ふ十三年。

大塔宮護良親王六百回忌

大塔を出で來つて神兵を率ひ、建武の中興功業成る。六百星霜遺烈在り、仰ぎ看る令徳の日星の如く明なるを。

秋天廓たる處行雲靜に、野色連る邊流水清し。

久邇宮殿下七回忌

玉葉金枝勳業芳しく、これ文とれ武徳疆りなし。風を望む水遠く山高き處、猶ほ昭々百世の光あり。

林下の丹楓顫氣を含み、籬邊の黃菊秋香を放つ。

示衆

壬申元旦示衆

曉樹晨鐘知歲新。煙霞滿目絕無塵。大雄峯上
王三昧。一箇禪牀天地春。

癸酉 同

古鐘聲裏搭袈裟。帶得新春一片霞。趺坐共修
清淨法。更生天地在禪家。

甲戌 同

斗星轉柄入新年。五色煙霞躡曉天。人若問吾
元旦意。白梅花裏最乘禪。

乙亥 同

壬申元旦示衆

曉樹晨鐘歳の新なるを知る。煙霞
滿目絶えて塵なし。大雄峯上
の王三昧、一箇の禪牀天地の春

癸酉 同

古鐘聲裏袈裟を搭して、帯び得
たり新春一片の霞。趺坐共に修
す清淨の法、更生の天地は禪家
に在り。

甲戌 同

斗星柄を轉じて新年に入り、五
色の煙霞曉天に躡く。人若し吾
に元旦の意を問はば、白梅花裏
最乗の禪。

乙亥 同

天上春風生曉暎。雲霞瑞色滿山門。袈裟重得
新年感。數點梅花佛祖恩。

丙子 同

霞拖三松關裏岑。春風禪榻曉鐘音。新年修到
跏趺坐。一點梅花一點心。

丁丑 同

鐘聲一杵是新年。曉搭袈裟帶瑞煙。好與梅花
俱面壁。六和敬裏打眞禪。

戊寅 同

春風吹到一袈裟。曉見祥雲伴瑞霞。趺坐共年
新面目。禪心却照白梅花。

己卯 同

天上の春風曉暎を生じ、雲霞の
瑞色山門に滿つ、袈裟重ね得た
り新年の感、數點の梅花佛祖の
恩。

丙子 同

霞は拖く三松關裏の岑。春風禪
榻曉鐘の音。新年修して到る跏
趺の坐。一點の梅花一點の心。

丁丑 同

鐘聲一杵はれ新年、曉に袈裟を
搭して瑞煙を帯ぶ。好し梅花と
面壁を俱にして、六和敬裏に眞
禪を打せん。

戊寅 同

春風吹き到る一袈裟、曉に見る
祥雲の瑞霞に伴ふを。趺坐年と
共に面目を新にして、禪心却つ
て照す白梅花。

己卯 同

正是新春到法門。跏趺須徹盡乾坤。王三昧裏
明心地。堪報皇恩與祖恩。

正に是れ新春法門に到る、跏趺
須らく盡乾坤に徹すべし。王三
昧裏心地を明らめて、皇恩と祖
恩とに報するに堪へたり。

祈
禱

壬申元旦祈禱

鳳曆回來風物新。禪林欲轉活機輪。願憑薩埵
威神力。現出山門復興春。

癸酉 同

薩埵殿前春色歸。大雄山上彩霞飛。神通若護
更生衆。開得國難揚國威。

甲戌 同

乾坤改曆彩霞頻。寶殿更祈威德新。大小國難
消滅盡。人々皆樂泰平春。

乙亥 同

壬申元旦祈禱

鳳曆回り來つて風物新なり。禪
林活機輪を轉せんと欲す。願は
くは薩埵の威神力に憑つて、山
門復興の春を現出せん。

癸酉 同

薩埵殿前春色歸り、大雄山上彩
霞飛ぶ。神通若し更生の衆を護
らば、國難を開き得て國威を揚
げん。

甲戌 同

乾坤曆を改めて彩霞頻なり。寶
殿更に祈る威徳の新なるを。大
小の國難消滅し盡して、人々皆
樂しまん泰平の春。

乙亥 同

煙霞有瑞曉風香。寶殿祝春祈吉祥。四海五湖皆靜謐。人增福壽國增光。

道了薩埵巡錫記念祈禱

現威神力滿街香。百萬人瞻薩埵光。便是去年巡錫處。祝來寶祚與天長。

祈禱

燦々摩訶般若光。善神守護是金剛。三千世界摧災厄。到處江山皆吉祥。

同

智劍降魔是絕倫。靈光照破六凡塵。空生巖畔天花墜。般若會中功德真。

某部隊武運長久祈禱

煙霞瑞有曉風香し、寶殿春を祝して吉祥を祈る。四海五湖皆靜謐、人は福壽を増し國は光を増さん。

道了薩埵巡錫記念祈禱

威神力を現じて滿街香しく、百萬の人は瞻る薩埵の光。すなはち是れ去年巡錫の處、祝し來る寶祚の天と與に長きを。

祈禱

燦々たり摩訶般若の光、善神の守護これ金剛。三千世界災厄を摧いて、到る處の江山皆吉祥。

同

智劍の降魔これ絶倫、靈光照破す六凡の塵。空生巖畔天花墜ち般若會中功德真なり。

某部隊武運長久祈禱

隊中將士盡誠忠。般若光明智劍功。好是諸天呵護下。發揮無礙大神通。

光照十方天日影。香吹滿地菊花風。

國難打開祈禱

國難時節國民情。感應道交惟至誠。開得滿天雲霧暗。山河到處見光明。

丸越謝恩大般若會

降伏災魔成善根。諸天神衆護家門。皆空法現無量福。般若德酬沙界恩。

護身符祈禱

諸天護處法雲長。惡鬼難窺無畏光。智劍神威般若德。百災皆化作禎祥。

隊中の將士盡く誠忠、般若の光明智劍の功。好しこれ諸天呵護の下、發揮せん無礙の大神通。

光は十方を照す天日の影、香は滿地を吹く菊花の風。

國難打開祈禱

國難の時節國民の情、感應道交たゞ至誠。滿天雲霧の暗きを開き得て、山河到る處に光明を見ん。

丸越謝恩大般若會

災魔を降伏して善根となし、諸天神衆家門を護る。皆空の法は現す無量の福、般若の德は酬ゆ沙界の恩。

護身符祈禱

諸天護る處法雲長く、惡鬼窺ひ難し無畏の光。智劍の神威般若の德、百災皆化して禎祥となる

戰勝祈禱

摩訶般若法尤尊。摧敵降魔神力存。一會嚴修功德聚。皇威無礙照乾坤。

同

眞空妙智現神機。般若光明隨處輝。只是大魔降伏日。八紘一字仰皇威。

同

善神所護有功名。般若空中威德明。降伏大魔摧大敵。永令東亞樂和平。

同

般若靈光排戰雲。善神威德護皇軍。天兵所向元無敵。捷報好令天下聞。

戰勝祈禱

摩訶般若法尤尊く、摧敵降魔神力存す。一會嚴修了功德聚、皇威無礙乾坤を照さん。

同

眞空の妙智神機を現じ、般若の光明隨處に輝く。たゞ是れ大魔降伏の日、八紘一字皇威を仰ぐ

同

善神護る所功名あり、般若空中威德明なり。大魔を降伏し大敵を摧き、永く東亞をして和平を樂しましめん。

同

般若の靈光戰雲を排し、善神の威德皇軍を護る。天兵向ふ所元敵なし、捷報好し天下をして聞かしめん。

同

滅除災禍到降魔。般若光明威德多。勇武皇軍全健闘。八紘一字致平和。

同

般若降魔最勝緣。金剛智劍可摧堅。排雲排霧威神力。皇日高輝東亞天。

同

靈光赫々起神通。何物能當般若空。應見皇軍前進處。旭旗制勝樹殊功。

同

將士出征勞苦多。皇威到處照山河。好加般若金剛劍。一掃妖雲降惡魔。

同

災禍を滅除して降魔に到る、般若の光明威德多し。勇武の皇軍健闘を全うして、八紘一字平和を致さん。

同

般若は降魔最勝の緣、金剛の智劍は堅きを摧くべし。雲を排し霧を排す威神の力、皇日高く輝く東亞の天。

同

靈光赫々として神通を起す、何物か能く般若の空に當らん。まさに見るべし皇軍前進の處、旭旗勝を制して殊功を樹つるを。

同

將士出征勞苦多し、皇威到處山河を照す。好し般若金剛の劍を加へて、妖雲を一掃し惡魔を降さん。

同
征途水複又山重。新報頻傳戰捷蹤。劍上好添
般若力。皇軍所向敵皆降。

同
護國降魔最勝光。神通威德是金剛。憑持無上
甚深咒。報捷羽書飛得忙。

同
征途水複り又山重る、新報頻に
傳ふ戦捷の蹤。劍上好し般若の
力を添へて、皇軍向ふ所敵皆降
らん。

同
護國降魔最勝の光、神通威徳こ
れ金剛。無上其深の咒を持する
によつて、捷を報ずる羽書飛び
得て忙し。

開光

吉祥院釋迦如來開眼

寶木栴檀彫像香。端嚴妙相白毫光。儼然猶見
法身佛。眞箇靈山斯吉祥。

釋迦佛像開眼

白毫烏瑟具因緣。功德莊嚴福智圓。三界獨當
獅子座。光明雲海照人天。

同

塵點劫前成道親。靈山會上雨華頻。閻浮又見
如來相。放白毫光照世人。
山色水光皆淨妙。花香月影共天真。

吉祥院釋迦如來開眼

寶木栴檀彫像香し、端嚴の妙相
白毫光、儼然猶ほ見る法身佛、
眞箇靈山はこれ吉祥。

釋迦佛像開眼

白毫烏瑟因縁を具し、功德莊嚴
福智圓なり。三界獨り獅子の座
に當つて、光明雲海人天を照す

同

塵點劫前成道親しく、靈山會上
雨華頻なり。閻浮又見る如來の
相、白毫光を放つて世人を照す
山色水光皆淨妙、花香月影共
に天真。

護國釋迦像開眼

護國丹心現佛身。諸天讚歎放光新。如來百福莊嚴相。將轉無量大法輪。

流水白雲秋過半。菊花楓葉自相親。

十一面觀音大士開眼

普門示現箇眞身。福聚海深弘誓頻。具足慈悲圓滿德。神通千古放光新。

只看淨信明心地。天上人間月一輪。

觀音大士開眼

度人救世大悲心。三十三身弘誓深。此地新看補陀落。梵音不斷海潮音。

涼生綠樹青苔地。秋在閑雲疎竹林。

護國釋迦像開眼

護國の丹心佛身を現じ、諸天讚歎す放光の新なるを、如來百福莊嚴の相、まさに無量の大法輪を轉せんとす。

流水白雲秋半を過ぎ、菊花楓葉自ら相親し。

十一面觀音大士開眼

普門示現すこの眞身、福聚海深うして弘誓頻なり。慈悲圓滿の徳を具足して、神通千古光を放つて新なり。

たゞ見る淨信の心地を明かにするを、天上人間月一輪。

觀音大士開眼

人を度し世を救ふ大悲の心、三十三身弘誓深し。此地新に看る補陀落、梵音斷えず海潮音。

涼は生ず綠樹青苔の地、秋は在り閑雲疎竹の林。

同

妙相端嚴有異香。現成福聚海無量。千林回首秋如錦。三十三身應化光。

星斗闌千秋露白。清風蕭颯菊花黃。

同

大悲手眼異香薰。相好光明映紫霧。菩薩神通無礙力。三千世界起慈雲。

清淨法身山色見。常恒梵唄海潮聞。

千丈溪觀音大士開眼

淨聖光顏明月圓。大悲妙德百花鮮。不離千丈溪頭座。法海早浮弘誓船。

阿僧祇劫慈悲雨。三十三身楊柳烟。

同

妙相端嚴異香あり、現成す福聚海無量。千林首を回らせば秋錦の如し、三十三身應化の光。

星斗闌千秋露白く、清風蕭颯菊花黄なり。

同

大悲の手眼異香薫じ、相好光明紫霧に映す。菩薩神通無礙の力三千世界に慈雲を起す。

清淨の法身は山色に見、常恒の梵唄は海潮に聞く。

千丈溪觀音大士開眼

淨聖の光顏明月圓かに、大悲の妙德百花鮮なり。千丈溪頭の座を離れず、法海早く浮ぶ弘誓の船。

阿僧祇劫慈悲の雨、三十三身楊柳の煙。

三十三身觀音大士開眼

三十三身在道場。大悲弘誓海無量。普門示現神通力。法界長看靈驗光。

跋陀婆羅菩薩開眼

彫得法身成相好。點來佛眼具慈悲。南無賢護大菩薩。威力神通無盡時。

愛染明王開眼

明王威德與天齊。招福除災誓不睽。般若之弓大悲箭。轉將煩惱作菩提。

有人來問無餘說。雲在青天水在溪。

韋馱尊天開眼

韋馱尊天奮迅威。神通妙用截流機。豁開五眼

三十三身觀音大士開眼

三十三身道場に在り、大悲弘誓海無量。普門に示現す神通力、法界長へに看る靈驗の光。

跋陀婆羅菩薩開眼

法身を彫り得て相好を成し、佛眼を點じ來つて慈悲を具す。南無賢護大菩薩、威力神通盡くる時なし。

愛染明王開眼

明王の威徳天と齊し、福を招き災を除いて誓願かず。般若の弓大悲の箭、煩惱を轉じもつて菩提となす。

人あり來り問はゞ餘説なし、雲は青天に在り水は溪に在り

韋馱尊天開眼

韋馱尊天奮迅の威、神通妙用截流の機。五眼を豁開して二輪完

二輪完。護法安人佛日輝。

豊公遺髮塚建碑開眼

身起庶民關白輝。戰塵一掃太平歸。塚前猶見英雄志。萬里天涯揚國威。

一天霽色嵐光滿。匝地香風空翠飛。

水戸部氏立碑開眼

清白家風自有光。聲譽名望久彌彰。立碑好是真功德。千古山高又水長。

し、法を護し人を安んじて佛日輝く。

豊公遺髮塚建碑開眼

身は庶民より起つて關白輝き、戰塵一掃して太平歸る。塚前猶ほ見る英雄の志、萬里天涯に國威を揚ぐるを。

一天の霽色嵐光滿ち、匝地の香風空翠飛ぶ。

水戸部氏立碑開眼

清白の家風自ら光あり、聲譽名望久しうして彌彰る。立碑好し是れ眞の功德、千古山高く又水長し。

慶讚

峨山禪師國師號宣下奉告

天上五雲光彩新。國師賜號照佳辰。眞儀應報皇恩厚。卽現曇華開處春。

同 國師號宣下奉讚

定慧圓明存大規。宗風興起得其時。鳳凰傳到皇恩渥。長使人天仰國師。

明治天皇聖蹟六十年慶讚（長久寺）

大政維新天業昌。乾坤悉是浴恩光。六龍曾駐雲車跡。聖地回頭六十霜。

建武中興六百年慶讚

峨山禪師國師號宣下奉告

天上の五雲光彩新なり、國師の賜號佳辰を照す。眞儀まさに皇恩の厚さに報いて、即ち曇華開く處の春を現すべし。

同 國師號宣下奉讚

定慧圓明大規を存して、宗風の興起其の時を得たり。鳳凰傳へ到る皇恩の渥きを、長く人天をして國師を仰がしむ。

明治天皇聖蹟六十年慶讚（長久寺）

大政維新天業昌なり、乾坤悉く是れ恩光に浴す。六龍曾て駐む雲車の跡、聖地頭を回らせば六十霜。

建武中興六百年慶讚

日月清明大義全。蒸民皆是戴堯天。只今懷古感無限。盛德宏謨建武年。

率土普天王化處。清風明月白雲巔。

拜登永平寺

來上祖山雲路遐。眞前白事一袈裟。恩光光被應無極。先見春風桃李花。

拜登總持寺

欲爲宗門把政綱。眞前一炷上心香。方知天地春風遍。諸嶽山頭仰祖光。

管長就任獻香

綱紀維新宗憲尊。當仁不讓對乾坤。興禪護國心期在。欲報皇恩與祖恩。

日月清明大義全し、蒸民皆これ堯天を戴く。只今懷古感限りなし、聖德宏謨建武の年。

率土普天王化の處、清風明月白雲の巔。

永平寺に拜登す

來つて祖山に上れば雲路遐なり眞前事を白す一袈裟。恩光光被して極りなかるべし、先づ見る春風桃李の花。

總持寺に拜登す

宗門の爲に政綱を把らんと欲して、眞前一炷心香を上つる。方に知る天地春風の遍きを、諸嶽山頭祖光を仰ぐ。

管長就任獻香

綱紀維新にして宗憲尊し、仁に當つて讓らず乾坤に對す。興禪護國心期在り、皇恩と祖恩とに報いんと欲す。

拜登大乘寺

踏來雲影又霞光。仰見金獅古道場。佛祖儼然同昔日。慇懃拜得捧心香。

拜登永光寺

洞谷悠悠千古蹤。湧空塔對梵天鐘。白雲黃葉秋闌日。來拜傳光五老峯。

兩祖真前入山獻香

傳持燈塔立山雲。只識雙肩重萬斤。精進更憑加被力。普天率土祖風薰。

入佛

又見諸天薰異香。散華會上紫雲長。佛身安住金剛座。世界三千應仰光。

大乘寺に拜登す

踏み來る雲影又霞光、仰ぎ見る金獅の古道場。佛祖儼然昔日に同じ、慇懃に拜し得て心香を捧ぐ。

永光寺に拜登す

洞谷悠悠々千古の蹤、空に湧く塔は對す梵天の鐘。白雲黃葉秋闌なる日、來つて拜す傳光の五老峯。

兩祖真前入山獻香

燈塔を傳持して山雲に立つ、只識る雙肩重きこと萬斤。精進更に加被力に憑つて、普天率土に祖風薰ぜん。

入佛

又見る諸天の異香を薰ずるを、散華會上紫雲長し。佛身安住す金剛座、世界三千まさに光を仰ぐべし。

永祥院入佛

伽藍金碧映山光。欲見雨花呈瑞香。妙相端嚴安寶所。永祥院上紫雲長。

天惠寺入佛

百福莊嚴德叵量。隨緣所在異香芳。佛身今入須彌座。塵刹無邊應仰光。

大康院入佛

殿閣凌空善美成。伽藍安佛放光明。端嚴相好眞微妙。堪對人天渴仰情。

大岳院開山堂入佛

堂閣莊嚴善美全。鳳爐龍燭吐香鮮。好安列祖千秋座。赫々法燈無限傳。

永祥院入佛

伽藍の金碧山光に映ず、見んと欲す雨花の瑞を呈して香しきを妙相端嚴寶所に安じて、永祥院上紫雲長し。

天惠寺入佛

百福莊嚴德量りがたし、隨緣所在異香芳し。佛身今入る須彌の座、塵刹無邊まさに光を仰ぐべし。

大康院入佛

殿閣空を凌いで善美成り、伽藍佛を安じて光明を放つ、端嚴の相好眞に微妙、人天渴仰の情に對するに堪へたり。

大岳院開山堂入佛

堂閣の莊嚴善美全く、鳳爐龍燭香を吐いて鮮なり。好し列祖千秋の座を安じて、赫々たる法燈無限に傳ふるに。

向雲寺入佛

金碧新成古道場。紫雲影裏雨華香。燈傳般若
輝三世。佛放光明照十方。
花紅柳綠香風暖。人語鳥聲春日長。

慶祥寺開山堂入佛

凌虛輪奐祖師堂。衆寶莊嚴薰妙香。尊影尊牌
位其處。人天共仰法燈光。
一陣薰風吹綠樹。慶祥寺裏自清涼。

入佛

五色雲中金碧堆。放光明像在華臺。人間天上
歸依處。感應道交功德開。
若識毫光周法界。黃花紅葉見如來。

向雲寺入佛

金碧新に成る古道場、紫雲影裏
雨華香し。燈は般若を傳へて三
世に輝き、佛は光明を放つて十
方を照す。
花紅柳綠香風暖に、人語鳥聲
春日長し。

慶祥寺開山堂入佛

虚を凌いで輪奐たり祖師堂、衆
寶莊嚴妙香を薰す。尊影尊牌其
の處に位して、人天共に仰ぐ法
燈の光。
一陣の薰風綠樹を吹いて、慶
祥寺裏自ら清涼。

入佛

五色雲中金碧堆し、放光明の像
は華臺に在り。人間天上歸依の
處、感應道交功德開く。
若し毫光の法界に周きを識ら
ば、黃花紅葉に如來を見ん。

長谷寺觀音開扉

大悲觀彼世間音。弘誓本來如海深。靈德昭々
天上月。普門照徹衆生心。

地藏菩薩開扉

神通弘誓佛天驚。忉利會聞囑累聲。寶錫摩尼
隨所願。一袈裟放大光明。

覺王山釋尊開扉

成無上道法輪清。傳不滅光悲願明。誰識化身
千百億。微塵刹海度群生。
華嚴色相春三月。般若空門鐘一聲。

道了薩埵開扉

金碧映空寶殿新。紫雲深處有眞身。打開鐵塔

長谷寺觀音開扉

大悲觀す彼の世間の音、弘誓本
來海の如く深し。靈德昭々たり
天上の月、普門照徹す衆生の心

地藏菩薩開扉

神通弘誓佛天驚く、忉利會で聞
く囑累の聲。寶錫摩尼所願に隨
つて、一袈裟は放つ大光明。

覺王山釋尊開扉

無上の道を成じて法輪清く、不
滅の光を傳へて悲願明なり。誰
か識る化身千百億、微塵刹海に
群生を度するを。
華嚴の色相春三月、般若の空
門鐘一聲。

道了薩埵開扉

金碧空に映じて寶殿新なり、紫
雲深き處眞身あり。鐵塔を打開

何神力。無限春風轉願輪。

鎮守大天狗供養

光明赫々熾威風。鎮護邦家立此中。五誓願深長救世。微塵刹裏起神通。

金氣動時風颯爽。秋天澄處月玲瓏。

釋尊大供養

雪山願行大悲心。成道度生輝古今。雙樹不藏常住德。三千世界法雲深。

目前山色便金相。不斷溪聲是梵音。

觀音菩薩供養

弘誓之船度衆生。深如海是大悲情。應機救世難思議。三十三身明月清。

す何の神力ぞ、限りなき春風願輪を轉す。

鎮守大天狗供養

光明赫々として威風熾なり、邦家を鎮護して此の中に立つ。五誓願深うして長へに世を救ひ、微塵刹裏に神通を起す。

金氣動く時風颯爽、秋天澄む處月玲瓏。

釋尊大供養

雪山の願行大悲の心、成道度生古今に輝く。雙樹藏さず常住の德、三千世界法雲深し。

目前の山色すなはち金相、不斷の溪聲これ梵音。

觀音菩薩供養

弘誓の船衆生を度し、深きこと海の如きは是れ大悲の情。應機救世思議し難く、三十三身明月清し。

起看淡々行雲影。坐聽潺潺流水聲。

同

眞如明月儘隨緣。願海常浮弘誓船。慈意妙雲沙界遍。無量功德潤人天。

妙覺寺地藏尊供養

定中觀察衆生機。六道化他金錫輝。菩薩現時皆脫苦。天風香裏紫雲飛。

同寺大佛供養

端嚴妙相悉圓成。慈眼雙懸照衆生。誰識現前尊佛德。無邊法界放光明。

法泉山禪德寺梵鐘供養

音聲佛事勝因緣。功德無量在法泉。雲外華鯨

起つては看る淡々たる行雲の影、坐しては聽く潺潺たる流水の聲。

同

眞如の明月まゝ隨緣、願海常に浮ぶ弘誓の船。慈意妙雲沙界に遍ねく、無量の功德人天を潤す

妙覺寺地藏尊供養

定中觀察す衆生の機、六道の化他金錫輝く。菩薩現する時皆苦を脱し、天風香裏紫雲飛ぶ。

同寺大佛供養

端嚴の妙相悉く圓成し、慈眼雙べ懸けて衆生を照す。誰か識らん現前尊佛の德、無邊法界に光明を放つことを。

法泉山禪德寺梵鐘供養

音聲の佛事勝因緣、功德無量法泉に在り。雲外の華鯨まさに一

方一吼。轉凡入聖界三千。

朝鮮總善寺開單式

古佛行持禪定光。圓融法界照雲堂。單前兀坐
王三昧。耐使衲僧成沒量。

元旦祖堂獻餅

乾坤改曆入新年。春色煙霞東海天。嘉節獻來
香餅供。梅花影裏祖師前。

同

天地春回霞繞岑。新年香餅古禪林。大悲願力
垂慈手。點却十方三世心。

清淨鎮火祭

般若神光燒葛藤。金剛靈水鎮炎蒸。不留一點

吼すれば、凡を轉じ聖に入る界三千。

朝鮮總善寺開單式

古佛の行持禪定の光、法界を圓融して雲堂を照す。單前兀坐王三昧、衲僧をして沒量とならしむるに耐へたり。

元旦祖堂獻餅

乾坤曆を改めて新年に入る。春色煙霞東海の天。嘉節獻じ來る香餅の供、梅花影裏祖師の前。

同

天地春回つて霞岑を繞る。新年の香餅古禪林。大悲の願力慈手を垂れて、十方三世の心を點却せんことを。

清淨鎮火祭

般若の神光葛藤を焼き、金剛の靈水炎蒸を鎮む。一點魔障の

魔障影。福德莊嚴歸最乘。

同

清淨火光般若明。金剛水印定心平。滅除業海
塵沙苦。福德無量法界生。

同

聖火炎々威德昭。魔障災厄一時銷。最乘更有
金剛水。百福莊嚴皆可招。

奥院參道開通式

路入白雲深處通。森嚴靈氣老杉風。石壇三百
三十級。歩々大悲弘誓中。

結界門開通式

清淨離塵靈域尊。飛流又有洗心存。御供橋上

影を留めず、福德莊嚴最乘に歸す。

同

清淨の火光般若明に、金剛の水印定心平なり。業海塵沙の苦を滅除して、福德無量法界に生ず

同

聖火炎々として威德昭に、魔障災厄一時に銷す。最乘更に金剛水あり、百福莊嚴皆招くべし。

奥院參道開通式

路は白雲深き處に入つて通ず、森嚴たる靈氣老杉の風。石壇三百三十級、歩々大悲弘誓の中。

結界門開通式

清淨離塵靈域尊し、飛流又洗心の存するあり。御供橋上山幽邃

山幽邃。聖者誰開結界門。

本堂開山堂起工式

佛光明與祖光明。欲照伽藍一段清。料識地神來獻礎。萬年應護法王城。

山月龍燈資悟道。松風澗水入經聲。

道了薩埵真殿上棟式

柱楹百尺向空摩。東海靈山是補陀。寶殿將成今上棟。三千界裏紫雲多。

薩埵靈光無際畔。一天明月照山河。

同 真殿立柱式

紫雲縹渺滿虛空。百尺起來真殿工。天衆護柱經護礎。人看薩埵大神通。

聖者誰か開く結界門。

本堂開山堂起工式

佛光明と祖光明と、伽藍一段の清きを照さんと欲す。料り識る地神の來つて礎を獻して、萬年まさに護るべし法王城。

山月龍燈悟道を資け、松風澗水經聲に入る。

道了薩埵真殿上棟式

柱楹百尺空に向つて摩す。東海の靈山これ補陀。寶殿まさに成らんとして今上棟す、三千界裏紫雲多し。

薩埵の靈光際畔なし、一天の明月山河を照す。

同真殿立柱式

紫雲縹渺として虛空に滿つ。百尺起し來る真殿の工。天衆柱を護り經礎を護る、人は看る薩埵の大神通。

法雨常澆飛瀑雨。威風永扇老杉風。

山門落慶式

雲外寶臺輝碧山。霞間玉闔隔塵寰。新通福慧莊嚴路。八字打開無字關。

淨浴室開浴

淨浴室成法界寬。香湯將使萬人歡。箇中誰是洗心垢。又入水因三昧觀。

石階建立地鎮式

高看真殿一峯青。聖域森々自有靈。此處石階當建立。地神冥護聚祥星。

百段石階落成式

石階百段界金繩。認得威神在上層。兜率天宮

法雨常に澆ぐ飛瀑の雨、威風永く扇ぐ老杉の風。

山門落慶式

雲外の寶臺碧山に輝き、霞間の玉闔塵寰を隔つ。新に福慧莊嚴の路を通じて、八字打開す無字の關。

淨浴室開浴

淨浴室成つて法界寬し。香湯まさに萬人をして歡ばしめんとす箇の中誰か是れ心垢を洗つて、又水因三昧の觀に入る。

石階建立地鎮式

高く看る真殿一峯の青きを、聖域森々として自ら靈あり。この處石階まさに建立すべし、地神冥護して祥星を聚めよ。

百段石階落成式

石階百段金繩を界とす、認め得たり威神の上層に在るを。兜率

惟咫尺。虛空歩々踏雲登。

防火工事起工式

要拂青山千歲災。白雲深處此工催。明神應是追先古。長與龍王護法來。

周泉寺山門開通式

三代相承見大成。聖凡隔界紫薨明。萬靈山上通玄路。飛闔開時說法聲。
人々脚下黃金地。綠水青山與佛行。

某寺山門落成式

飛闔凌空輪奐成。上方一路隔塵清。即今慶讚修般若。無限光明福壽生。

道了薩埵眞前退董陳白

天宮たゞ咫尺、虚空歩々雲を踏んで登る。

防火工事起工式

青山千歳の災を拂はんと要して白雲深き處此の工催す。明神まさはれ先古を追うて、長く龍王と法を護り來るべし。

周泉寺山門開通式

三代相承けて大成を見、聖凡界を隔て、紫薨明なり。萬靈山上玄路を通じて、飛闔開く時說法の聲。

人々脚下黃金地、綠水青山佛と與に行く。

某寺山門落成式

飛闔空を凌いで、奐成り、上方一路塵を隔てて清し。即今慶讚して般若を修し、無限の光明に福壽生ず。

道了薩埵眞前退董陳白

多歲惟憑薩埵光。復興業績漸將央。山僧臨別酬恩德。一片禪心一炷香。

多歲たゞ薩埵の光に憑つて、復興の業績漸くまさに央ならんとす。山僧別に臨んで恩德に酬ゆ一片の禪心一炷の香。

授戒

善修院啓建

三業離塵是道場。如々心地戒壇香。目前現出華藏界。白石青松共放光。

東海春風吹網代。一華百億紫雲長。

同完戒

三輪清淨妙修完。廣大慈門是戒壇。各證佛身分手處。灣頭一碧漲春瀾。

寶珠院啓建

莊嚴雲海漲天香。四衆淨心輝戒光。山有法身溪說法。寶珠刹土是華藏。

善修院啓建

三業離塵是れ道場、如々の心地戒壇香し。目前に現出す華藏界白石青松共に光を放つ。

東海の春風網代を吹き、一華百億紫雲長し。

同完戒

三輪清淨にして妙修完し。廣大の慈門は是れ戒壇。各々佛身を證して手を分つ處、灣頭一碧春瀾を漲らす。

寶珠院啓建

莊嚴雲海天香を漲らす。四衆の淨心に戒光輝く。山には法身あり溪には說法、寶珠の刹土は是れ華藏。

同完戒

修到戒光清淨身。便知三業自離塵。出門今日回頭見。滿目青山色相新。

香集寺啓建

人天修懺健稚鳴。雲海莊嚴忽現成。香集壇場戒香集。一華百億放光明。

永源寺啓建

燦然照耀戒壇光。法々塵々放異香。只見莊嚴功德海。永源精舍是華藏。

同完戒

本證妙修真佛風。戒壇皆入大神通。出門猶在華藏界。滿目溪山霜葉紅。

同完戒

修して到る戒光清淨身、すなはち知る三業の自ら塵を離るるを門を出でて今日頭を回らして見れば、滿目の青山色相新なり。

香集寺啓建

人天の修懺健稚鳴り、雲海莊嚴忽ち現成す。香集壇場に戒光集り、一華百億光明を放つ。

永源寺啓建

燦然として照耀す戒壇の光、法々塵々異香を放つ。只見る莊嚴功德海、永源精舍は是れ華藏。

同完戒

本證妙修真佛の風、戒壇皆大神通に入る。門を出でて猶ほ華藏界に在り。滿目の溪山霜葉紅なり。

松源院啓建

梵網光明寶戒開。百千菩薩一華臺。舍那身在松源會。心地法門顯現來。

滿目華藏無所覆。薰風綠樹又青苔。

同 完戒

不用善財徒訪南。如々禪戒即心參。主賓歡喜將分手。綠樹碧雲相映酣。

瑞泉寺啓建

四衆如雲修淨因。一心戒裏耐離塵。瑞泉會是華藏界。現出舍那眞法身。

同 完戒

登壇受戒了因緣。雲海光明轉燦然。菩薩法門

松源院啓建

梵網の光明寶戒開く、百千の菩薩一華臺。舍那身は松源の會に在り、心地の法門顯現し來る。

滿目の華藏覆ふに所なし、薰風綠樹又青苔。

同 完戒

用ひず善財の徒らに南を訪ふを如々の禪戒即心に參ず。主賓歡喜してまさし手を分たんとすれば、綠樹碧雲相映じて酣なり。

瑞泉寺啓建

四衆雲の如く淨因を修す、一心戒裏離塵に耐へたり。瑞泉の會は是れ華藏界、現出す舍那の眞法身。

同 完戒

登壇受戒了因緣を了す、雲海の光明轉た燦然。菩薩の法門禪の面

禪面目。現前楓葉菊花天。

福昌寺啓建

舍那壇上紫煙長。一々莊嚴見戒光。現出如來千百億。福昌禪寺是華藏。

同 完戒

華藏界裏共優游。得戒傳心入聖流。好是鐘聲分手處。四山紅葉一天秋。

本高寺啓建

刹土莊嚴薰戒香。本高蘭若五雲光。舍那佛在華臺上。百億皆將說法藏。

同 完戒

解脫戒香芬滿衣。身心歡喜對秋暉。應知霜樹

目、現前す楓葉菊花の天。

福昌寺啓建

舍那壇上紫煙長し、一々の莊嚴に戒光を見る。現出す如來の千百億、福昌禪寺は是れ華藏。

同 完戒

華藏界裏優游を共にし、得戒傳心聖流に入る。好し是れ鐘聲手を分つ處、四山の紅葉一天の秋

本高寺啓建

刹土莊嚴して戒香を薰ず、本高蘭若五雲の光。舍那佛は華臺の上に在り、百億皆まさしに法藏を説かんとす。

同 完戒

解脫の戒香芬として衣に滿ち、身心歡喜して秋暉に對す。まさ

白雲路。菩薩放光相伴歸。

永光寺啓建

結界設壇修羯磨。永光會上雨華多。現前四衆如雲集。頂禮本師盧舍那。

同 完 戒

得戒圓成清淨身。禪心法悅日應新。如今門外將分手。流水行雲都脫塵。

常安寺啓建

舍那古佛放千光。綠水青山薰戒香。只見春風吹百草。常安天地現華藏。

同 完 戒

修證一如禪戒全。得看心月本來圓。滿身法悅

に知るべし霜樹白雲の路、菩薩光を放つて相伴つて歸るを。

永光寺啓建

界を結び壇を設けて羯磨を修す永光會上に雨華多し。現前の四衆雲の如くに集りて、本師盧舍那を頂禮し奉る。

同 完 戒

得戒圓成す清淨身、禪心の法悦日にまさしに新なるべし。如今門外まさしに手を分たんとす、流水行雲すべて脱塵。

常安寺啓建

舍那の古佛千光を放ち、綠水青山戒香を薫す。只見る春風百草を吹いて、常安の天地華藏を現すること。

同 完 戒

修證一如禪戒全し、看ることを得たり心月の本來圓なるを。滿

應分手。正是桃紅李白天。

天德寺啓建

珠網有光禪戒開。春風天德紫雲堆。一華百億莊嚴裏。現出舍那身土來。

同 完 戒

淨修白業戒壇輝。法悅心中熟佛機。今日出門菩薩衆。百花深處踏光歸。

福應寺啓建

古佛戒壇光儼然。即身大覺結因緣。目前現出華藏界。福應寶藍花滿天。

同 完 戒

莊嚴雲海戒珠清。菩薩身心道自成。只識行持

身の法悦まさしに手を分つべし、正に是れ桃紅李白天。

天德寺啓建

珠網光あり禪戒開き、春風天德紫雲堆し。一華百億莊嚴の裏、舍那の身土を現出し來る。

同 完 戒

白業を淨修して戒壇輝き、法悦心中佛機を熟す。今日門を出づる菩薩の衆、百花深き處光を踏んで歸る。

福應寺啓建

古佛の戒壇光儼然たり。即身大覺因縁を結ぶ。目前に現出す華藏界、福應の寶藍花天に滿つ。

同 完 戒

莊嚴雲海戒珠清し、菩薩の身心道自ら成す。たゞ識る行持報恩

報恩在。人々脚下放光明。

本山啓建

蓮華臺現戒光前。四衆如雲集法筵。世界皆呈眞實相。清明時節百花鮮。

同 完戒

舍那身土戒壇輝。六度萬行修證巍。四衆皆成菩薩道。佛光明裏滿歡歸。

龍源寺啓建

廣大慈悲三昧門。禪戒現前無上尊。莊嚴雲海光明海。一會龍源是佛源。

同 完戒

淨修白業去心瑕。一戒光明佛位加。從此春風

在り、人々脚下光明を放つことを。

本山啓建

蓮花臺は現す戒光の前、四衆雲の如く法筵に集る。世界皆呈す眞實相、清明の時節百花鮮なり

同 完戒

舍那の身土戒壇輝き、六度萬行修證巍し、四衆皆菩薩の道を成じて、佛光明裏歡に満ちて歸る

龍源寺啓建

廣大の慈悲三昧の門、禪戒現前して無上に尊し。莊嚴雲海光明海、一會龍源は是れ佛源

同 完戒

白業を淨修して心瑕を去り、一戒光明佛位加はる。これより春

吹滿面。欲看到處有天花。

瑞松寺啓建

新殿莊嚴映佛光。尸羅會上報恩香。瑞松卽是華藏界。一戒々中現道場。

同 完戒

得戒登壇佛位成。會中四衆證心清。出門好踏紫雲路。滿目青山新綠明。

建福寺啓建

眼前得見佛神通。建福莊嚴彩翠中。臺上舍那將說戒。華藏世界滿香風。

同 完戒

體得戒光浴佛慈。滿身法悅自無涯。歸家堪對

風滿面を吹いて、看んと欲す到る處に天花有るを。

瑞松寺啓建

新殿莊嚴して佛光に映す、尸羅會上報恩の香。瑞松は卽ち是れ華藏界、一戒々中に道場を現す

同 完戒

得戒登壇佛位成じ、會中の四衆心を證して清し。門を出でて好し紫雲の路を踏むに、滿目青山新綠明なり。

建福寺啓建

眼前に見るを得たり佛の神通、建福の莊嚴彩翠の中。臺上の舍那まさに説戒せんとす、華藏世界香風に滿つ。

同 完戒

戒光を體得して佛慈に浴す、滿身の法悅自ら涯なし。家に歸つ

報恩事。正是薰風吹綠時。

菊泉寺啓建

結界修壇大會催。莊嚴滿地是華臺。菊泉可汲
舍那戒。雲集大乘菩薩來。

同 完 戒

大乘心地戒光鮮。人結卽身成佛緣。作禮出門
應返照。水晶花白麥秋天。

自得寺啓建

華藏世界戒光豐。燦爛莊嚴梵網中。盧舍那身
無覆處。重陰綠樹送香風。

同 完 戒

登壇得戒在祇林。菩薩方知入位深。自此送行

て對するに堪へたり報恩の事、正に是れ薰風綠を吹く時。

菊泉寺啓建

結界修壇大會催す、莊嚴滿地是れ華臺。菊泉汲むべし舍那の戒大乘の菩薩を雲集し來る。

同 完 戒

大乘の心地戒光鮮なり。人は結ぶ卽身成佛の緣。禮を作して門を出でばまさに返照すべし、水晶花は白し麥秋の天。

自得寺啓建

華藏世界戒光豊なり、燦爛たる莊嚴梵網の中。盧舍那身覆ふに處なし、重陰綠樹香風を送る。

同 完 戒

登壇得戒祇林に在り、菩薩まさに知る入位の深きを。これより

門外路。夏山翠色照禪心。

萬福寺啓建

修懺羯磨高戒壇。莊嚴雲海佛光寬。若人欲識
華藏界。萬福寺頭回首看。

同 完 戒

禪戒妙香薰座酣。登壇入位喜何堪。莊嚴菩薩
身心淨。天有青雲地翠嵐。

大岳院啓建

諸天雲影殿前香。露柱燈籠惹戒光。盧舍那身
臺上在。人看大岳是華藏。

同 完 戒

白業離塵德豈微。既參佛戒與禪機。認知脚下

送行門外の路、夏山の翠色禪心を照す。

萬福寺啓建

修懺羯磨戒壇高く、莊嚴雲海佛光寬し。若し人華藏界を識らんと欲せば、萬福寺頭首を回らして看よ。

同 完 戒

禪戒の妙香は座に薰じて酣なり登壇入位喜何ぞ堪へん。菩薩の身心を莊嚴して淨し、天に青雲あり地に翠嵐。

大岳院啓建

諸天の雲影殿前香しく、露柱燈籠戒光を惹く。盧舍那身臺上に在り、人は看る大岳の是れ華藏なるを。

同 完 戒

白業離塵德豈微ならんや、既に參ず佛戒と禪戒とに。脚下瑠璃

瑠璃地。歩々踏將珠玉歸。

寶泉寺啓建

法界須彌入道場。無量菩薩對華香。寶泉現出莊嚴海。盧舍那身放戒光。

同 完戒

禪戒一如無復疑。頭々物々有吾師。安心住信宜分手。恰是菊花楓葉時。

周泉寺啓建

戒光照破去來今。天地有情歸佛心。可見舍那臺上耀。周泉精舍紫雲深。

同 完戒

明月爲心玉作粧。人天得戒共生光。如雲四衆

の地なることを認知して、歩々珠玉を踏みもつて歸る。

寶泉寺啓建

法界須彌道場に入り、無量の菩薩華香に對す。寶泉現出す莊嚴海、盧舍那身戒光を放つ。

同 完戒

禪戒一如また疑ふ無し、頭々物々吾が師あり。心を安んじ信に住して宜しく手を分つべし、恰も是れ菊花楓葉の時。

周泉寺啓建

戒光照破す去來今、天地有情佛心に歸す。見るべし舍那の臺上に耀くを、周泉精舍紫雲深し。

同 完戒

明月を心となし玉を粧となす。人天得戒して共に光を生ず。雲

今將別。相好煌々秋氣香。

永源寺啓建

心地戒壇清淨光。曹溪山上現華藏。春風誦出如來偈。盧舍那身照十方。

同 完戒

毘尼聖苑法雲輝。四衆共成菩薩機。信受奉行今作禮。百花叢裏踏光歸。

東陽寺啓建

東陽寶刹現華臺。湧出莊嚴法界來。一々戒光無罣礙。春風吹處百花開。

同 完戒

戒壇功德絕塵清。四衆即今分手行。自有春風

の如き四衆今まさに別れんとす相好煌々として秋氣香し。

永源寺啓建

心地の戒壇清淨の光、曹溪山上に華藏を現す。春風誦し出す如來の偈、盧舍那身十方を照す。

同 完戒

毘尼の聖苑法雲輝き、四衆共に菩薩の機となる。信受奉行今作禮して、百花叢裏に光を踏んで歸る。

東陽寺啓建

東陽の寶刹華臺を現じて、莊嚴の法界を湧出し來る。一々の戒光罣礙なし、春風吹く處百花開く。

同 完戒

戒壇の功德塵を絶して清し、四衆即今手を分つて行く。自ら春

吹路上。百花深處認光明。

善寶寺啓建

天龍八部護毗尼。滿地春風香氣吹。正是舍那臺上現。華藏世界放光時。

同 完 戒

淨修三業戒壇中。法悅身心佛位通。自此鐘聲分手去。江山到處對春風。

慈光寺(金華山至德林)啓建

可知三業淨無塵。雲海莊嚴花滿春。至德林中禪戒照。金華山上佛光新。

同 完 戒

參來禪戒一如光。菩薩如雲在道場。信受奉行

風の路上を吹くあり、百花深き處光明を認む。

善寶寺啓建

天龍八部毗尼を護り、滿地の春風香氣を吹く。正に是れ舍那臺上に現じて、華藏世界光を放つ時。

同 完 戒

三業を淨修す戒壇の中、法悅の身心佛位に通ず。これより鐘聲手を分ち去らば、江山到る處春風に對せん。

慈光寺啓建

知るべし三業の淨うして塵なきを、雲海の莊嚴花春に滿つ。至德林中禪戒照し、金華山上佛光新なり。

同 完 戒

禪戒一如の光に參じ來つて、菩薩雲の如く道場に在り。信受奉

將却退。天風吹遍散華香。

願成寺(白馬山)啓建

修懺將開解脫關。戒光早已照人間。華藏世界知在此。福慧莊嚴白馬山。

同 完 戒

得道離塵白馬岑。滿身法悅戒光深。自今分手東西去。新樹香風菩薩心。

滿福寺啓建

諸天護處絕無塵。古佛舍那今現身。可見蓮華千葉上。釋迦百億放光新。

同 完 戒

登得戒壇開佛因。身心入信自離塵。蓋天蓋地

行まさに却退せんとす、天風吹き過うす散華の香。

願成寺啓建

修懺まさに開かんとす解脫の關戒光早く已に人間を照す。華藏世界知んぬこゝに在るを、福慧莊嚴す白馬山。

同 完 戒

得道離塵白馬の岑、滿身の法悅戒光深し。自今手を分つて東西に去らば、新樹の香風菩薩の心に去らば、新樹の香風菩薩の心

滿福寺啓建

諸天護る處絶えて塵なし、古佛舍那今身を現す。見る可し蓮華千葉の上、釋迦百億光を放つて新なるを。

同 完 戒

戒壇に登り得て佛因を開き、身心信に入つて自ら塵を離る。蓋

光明界。新樹香吹法悅人。

久昌寺啓建

菩薩法門禪道場。欲傳大戒捻心香。眼前奕葉華藏界。盧舍那身放妙光。

同 完 戒

身心入戒喜無窮。菩薩將歸西又東。回首須看天擁護。四山綠樹送薰風。

長慶寺啓建

天護毘尼法界芬。雨花呈瑞異香薰。萬年山上輝禪戒。長慶寺頭興紫雲。

同 完 戒

只知禪戒徹身心。會上人天法悅深。觸處生涯

天蓋地光明界、新樹の香は法悦の人を吹く。

久昌寺啓建

菩薩の法門禪の道場、大戒を傳へんと欲して心香を捻す。眼前の奕葉華藏界、盧舍那身妙光を放つ。

同 完 戒

身心戒に入つて喜窮りなし、菩薩まさに歸らんとす西又東。首を回らして須らく看るべし。天の擁護するを、四山の綠樹薰風を送る。

長慶寺啓建

天毘尼を護つて法界芬しく、雨花瑞を呈して異香薰す。萬年山上禪戒輝き、長慶寺頭紫雲を興す。

同 完 戒

只禪戒の身心に徹するを知つて會上の人天法悦深し。觸處生涯

皆佛事。梵音卽是海潮音。

福嚴院啓建

心地戒壇功德風。光明照耀到虛空。誰知千古華藏界。猶在福嚴蘭若中。

同 完 戒

白業同修般若臺。入菩薩戒見如來。自今綠樹薰風外。應是心華到處開。

龍興寺啓建

法身猶放白毫光。四衆如雲集十方。滿目莊嚴功德海。龍興會上是華藏。

同 完 戒

一心修懺淨無邪。霜露罪障慧日加。清衆等登

皆佛事、梵音は即ち是れ海潮音

福嚴院啓建

心地の戒壇功德の風、光明照耀して虚空に到る。誰か知らん千古の華藏界、猶ほ福嚴蘭若の中に在るを。

同 完 戒

白業同じく修す般若臺、菩薩戒に入つて如來を見る。今より綠樹薰風の外、まさに是れ心華到處に開くべし。

龍興寺啓建

法身猶ほ放つ白毫光、四衆雲の如く十方より集る。滿目莊嚴功德海、龍興會上是れ華藏。

同 完 戒

一心修懺淨うして邪なし、霜露の罪障慧日加はる。清衆等しく

諸佛位。滿身法悅向吾家。

禪德寺啓建

梵網戒光輝紫穹。華藏世界玉玲瓏。法筵龍象皆菩薩。功德莊嚴在此中。

同 完 戒

三業淨修塵垢離。戒珠正是放光時。入諸佛位安心決。四衆皆開歡喜眉。

高臺寺啓建

光明雲海異香堆。百福莊嚴大戒催。此會堪看千古佛。高臺蘭若是華臺。

同 完 戒

懺悔業障諸惡空。同修同證戒光中。只今作禮

登る諸佛の位、滿身の法悦吾が家に向ふ。

禪德寺啓建

梵網の戒光紫穹に輝く、華藏世界玉玲瓏。法筵の龍象皆菩薩、功德莊嚴此の中に在り。

同 完 戒

三業淨修して塵垢離る、戒珠正に是れ光を放つ時。諸佛の位に入つて安心決し、四衆皆開く歡喜の眉。

高臺寺啓建

光明雲海異香堆し、百福莊嚴大戒催す。この會看るに堪へたり千古の佛、高臺蘭若は是れ華臺

同 完 戒

業障・懺悔して諸惡空なり、同修同證「戒光」の中。只今作禮し

將分手。清涼氣入四邊風。

定光寺啓建

如雲菩薩是來機。法界莊嚴照四圍。盧舍那身方出現。定光會上戒光輝。

同 完 戒

白業修來黑業除。一心地戒是真如。人々法喜又禪悅。諸佛位中安住初。

開法寺啓建

法界莊嚴尤燦然。十方菩薩紫雲前。舍那古佛今猶在。開法華臺說戒鮮。

同 完 戒

心地法門禪戒親。正看感應道交新。人々皆在

てまさに手を分たんとす、清涼の氣は入る四邊の風。

定光寺啓建

雲の如き菩薩は是れ來機、法界の莊嚴四圍を照す。盧舍那身方に出現して、定光會上戒光輝く

同 完 戒

白業修し來つて黒業除く。一心地戒は是れ眞如。人々法喜又禪悦。諸佛位中安住の初。

開法寺啓建

法界の莊嚴尤も燦然たり。十方の菩薩紫雲の前。舍那古佛今猶在り、開法の華臺說戒鮮なり

同 完 戒

心地の法門禪戒親し、正に看る感應道交の新なるを。人々皆華

華藏裏。修證圓成菩薩身。

長松院啓建

如々禪戒欲方開。山碧水青奇瑞堆。現出莊嚴功德海。無量諸佛放光來。

同 完 戒

消除三業幾多障。得戒圓成行願光。菩薩出門新面目。清風滿地送秋香。

本山 啓 建

一心地戒戒香馨。可見華藏世界形。征戰不還人幾許。廻斯功德向英靈。

同 中 日 法 會

護國立功人。不回光明赫々紫雲堆。萬靈今在

藏裏に在り、修證圓成す菩薩身

長松院啓建

如々の禪戒まさに開かんと欲す山碧に水青うして奇瑞堆し。現出す莊嚴功德海、無量の諸佛光を放ち來る。

同 完 戒

三業幾多の障を消除して、得戒圓成す行願の光。菩薩門を出づれば面目を新にして、清風滿地秋香を送る。

本山啓建

一心地戒戒香馨し、見るべし華藏世界の形。征戰還らざる人幾許ぞ、この功德を廻らして英靈に向ふ。

同 中 日 法 會

國を護り功を立て、人回らず、光明赫々として紫雲堆し。萬靈

華藏界。資助菩提妙果來。

絲雨煙時新柳潤。春風吹處百花開。

同 完 戒

回向英靈焚妙香。同成菩薩法雲長。只看大會方圓滿。地有戒光天佛光。

瑞龍寺啓建

梵網戒文今打開。一華一國一如來。高岡山上春深處。現出舍那千佛臺。

同 完 戒

業障淨盡戒光輝。覺位妙香吹入衣。功德圓成無限意。一天新綠照歡歸。

瑞光寺啓建

今華藏界に在り、菩提の妙果を資助し來る。

絲雨煙る時新綠潤ひ、春風吹く處百花開く。

同 完 戒

英靈に回向して妙香を焚き、同じく菩薩と成つて法雲長し。只看大會まさに圓滿して、地に戒光あり天に佛光。

瑞龍寺啓建

梵網の戒文今打開す、一華一國一如來。高岡山上春深き處、現出す舍那千佛の臺。

同 完 戒

業障淨盡して戒光輝き、覺位の妙香吹いて衣に入る。功德圓成無限の意、一天の新綠歡を照して歸る。

瑞光寺啓建

蓮華臺上紫雲飛。功德莊嚴香霧翻。將說大乘菩薩戒。瑞光淨刹佛光輝。

同 完 戒

修懺登壇得戒全。共看心月本來圓。門頭今日歸家路。秋耀菊花楓葉天。

定光寺啓建

分身百億一華開。法界莊嚴大會催。性海若持無相戒。心田應是見如來。

同 完 戒

定光會裏戒光豐。入位人々圓覺同。四面應看歡喜住。菊花天地滿香風。

戒會供養

蓮華臺上紫雲飛び、功德莊嚴香霧翻たり。まさに説かんとす大乘の菩薩戒、瑞光の淨刹に佛光輝く。

同 完 戒

修懺登壇得戒全し、共に看る心月の本來圓なるを、門頭今日歸家の路、秋は耀く菊花楓葉の天

定光寺啓建

分身百億一華開き、法界莊嚴大會催す。性海若し無相の戒を持せば、心田まさには是れ如來を見るべし。

同 完 戒

定光會裏戒光豊なり、入位の人々圓覺に同じ。四面まさに見るべし歡喜に住するを、菊花の天地香風に滿つ。

戒會供養

一 一炷薰香法界新。莊嚴報土最眞淳。和風吹在乾坤裏。柳綠花紅滿目春。

二

功德莊嚴有彩霞。光明雲海照塵沙。異香吹遍菩提苑。一脉春風三世花。

三

報土莊嚴不着塵。戒香功德又前因。風傳鶯語眞如偈。花在春山古佛身。

四

修證好追千古蹤。菩提座上戒香濃。塵々刹々現功德。縹緲春風花外鐘。

一 一炷の薰香法界新なり、報土を莊嚴して最も眞淳。和風吹いて乾坤の裏に在り、柳綠花紅滿目の春。

二

功德莊嚴彩霞有り、光明雲海塵沙を照す。異香吹き遍らす菩提の苑、一脉の春風三世の花。

三

報土の莊嚴塵を着けず、戒香の功德又前因。風は鶯語を傳ふ眞如の偈、花は春山に在り古佛の身。

四

修證好し追ふ千古の蹤、菩提座上戒香濃なり。塵々刹々功德を現す、縹緲たり春風花外の鐘。

五 光明雲海戒香吹。報土莊嚴耀陸離。可見佛身周法界。春風正是百花時。

六 一乘唯有白牛車。趣向菩提曾不差。解脫香薰天地裏。春開千紫萬紅花。

七 戒香薰破大千中。燦爛光明天地通。報土莊嚴堪着眼。桃紅李白一春風。

八 禪戒一如成佛身。自他平等脫凡塵。莊嚴應識眞消息。鐵樹花開劫外春。

五 光明雲海戒香吹き、報土莊嚴耀いて陸離たり。見る可し佛身の法界に周きを、春風正に是れ百花の時。

六 一乗たゞ白牛車あり、菩提に趣向して曾て差はず。解脫の香は薰す天地の裏、春は開く千紫萬紅の花。

七 戒香薰破す大千の中、燦爛たる光明天地に通ず。報土の莊嚴眼を著くるに堪へたり、桃紅李白一春の風。

八 禪戒一如佛身を成じ、自他平等凡塵を脱す。莊嚴應に識るべし眞の消息、鐵樹花開く劫外の春

九 戒香薰處紫雲舒。報土莊嚴光有餘。鳥語風聲皆佛法。花紅柳綠共眞如。

十 溪聲山色活如來。相好光明無點埃。更有春風吹覺苑。莊嚴法界百花開。

十一 如々法界有心香。觸處現成眞道場。回首春風嚴飾甚。百花影放五雲光。

十二 戒香薰入法身觀。同證菩提心地安。諸法現來禪面目。春風吹在百花欄。

九 戒香薰する處紫雲舒ぶ、報土の莊嚴光餘あり。鳥語風聲皆佛法花紅柳綠共に眞如。

十 溪聲山色活如來、相好光明點埃なし。更に春風の覺苑を吹く有り、法界を莊嚴して百花開く。

十一 如々の法界心香あり、觸處現成す眞の道場。頭を回せば春風嚴飾甚し、百花の影は放つ五雲の光。

十二 戒光は薰じて入る法身觀、同じく菩提を證して心地安し、諸法現じ来る禪の面目、春風は吹いて百花の欄に在り。

十三

一炷薰香法界間。眞靈慕直脫塵寰。好看天地莊嚴意。萬里春風花滿山。

十四

寶爐一炷篆煙芬。報土莊嚴又十分。紅紫吐香春滿地。百花開處起光雲。

十五

法界菩提忽現前。戒香功德到無邊。桃紅李白皆開悟。山色溪聲共入禪。

十六

戒香一炷寶爐馨。報土莊嚴資覺靈。翠柳現來如是相。黃禽轉去許多經。

十三

一炷の薰香法界の間、眞靈慕直に塵寰を脱す。好し看る天地莊嚴の意、萬里の春風花山に滿つ

十四

寶爐一炷篆煙芬し、報土の莊嚴又十分。紅紫香を吐いて春滿地百花開く處光雲を起す。

十五

法界の菩提忽ち現前、戒香の功德無邊に到る。桃紅李白皆悟を開き、山色溪聲共に禪に入る。

十六

戒香一炷寶爐馨し、報土の莊嚴覺靈を資く。翠柳現じ來る如是の相、黃禽轉じ去る許多の經。

十七

回向至心沙界清。菩提功德紫雲明。高山堪見如來影。流水應聽說法聲。

十八

一色一香皆佛陀。菩提圓覺遍山河。大千世界春風裏。刹々塵々花氣多。

十九

解脫戒香智見燈。如々法界喚相應。眞空妙有深般若。柳綠花紅一佛乘。

二十

本證妙修超古今。可知萬法一如深。花光相見法身佛。春色單傳三世心。

十七

回向の至心沙界清く、菩提の功德紫雲明なり。高山見るに堪へたり如來の影、流水まさに聽くべし説法の聲。

十八

一色一香皆佛陀、菩提圓覺山河に遍し。大千世界春風の裏、刹々塵々花氣多し。

十九

解脫の戒香智見の燈、如々の法界喚べば相應ふ。眞空妙有深般若、柳綠花紅一佛乘。

二十

本證妙修古今を超ゆ、知るべし萬法一如の深きを。花光相見す法身佛、春色單傳す三世の心。

二十一
佛燈光影照天涯。一炷香煙生彩霞。無上菩提
堪等證。寶池開遍白蓮花。

二十二

功德光明輝剎塵。空華水月有勝因。好修淨信
清供養。現出菩提苑裏春。

二十三

燈明香淨道場中。回向菩提心自通。一念圓成
眞佛土。春吹芳艸百花風。

二十四

徧界難藏面目眞。薰香一炷自相親。和風吹入
菩提苑。芳草好花春色新。

二十一

佛燈の光影天涯を照し、一炷の香煙彩霞を生ず。無上菩提等しく證するに堪へたり、寶池開き遍らす白蓮花。

二十二

功德光明剎塵に輝き、空華水月勝因あり。好し淨信の清供養を修して、菩提苑裏の春を現出するに。

二十三

燈明かに香淨し道場の中、菩提に回向して心自ら通ず。一念圓成す眞の佛土、春は吹く芳艸百花の風。

二十四

徧界難し難し面目の眞、薰香一炷自ら相親し。和風吹き入る菩提の苑、芳草好花春色新なり。

二十五

功德甚深供養催。青山滿目是如來。儼然一會
威神力。樹々春風花自開。

二十六

瞻仰眞身立梵筵。香薰定慧戒壇前。醍醐法味
堪供養。水在青溪月在天。

二十七

莊嚴報土善根豐。優鉢華開在此中。解脫門頭
眞自在。風吹月處月吹風。

二十八

清淨法身超覺知。大光明海叵思議。莊嚴報土
修功德。劫外春開鐵樹枝。

二十五

功德甚深供養催す、青山滿目はれ如來。儼然一會威神の力、樹々の春風花自ら開く。

二十六

眞身を瞻仰して梵筵に立つ、香薰定慧戒壇の前。醍醐の法味供養するに堪へたり、水は青溪に在り月は天に在り。

二十七

報土を莊嚴して善根豊なり、優鉢華開いて此の中に在り。解脫門頭眞に自在、風月を吹く處月風を吹く。

二十八

清淨法身覺知を超え、大光明海思議しがたし。報土を莊嚴して功德を修すれば、劫外春は開く鐵樹の枝。

二十九

淨修供養上衣珠。甘露醍醐滿鉢盂。同入如來
圓覺裏。一天明月照昏衢。

三十

功德難思不換金。香爐一炷氣煙深。上方又有
眞如月。放大光明照寶林。

三十一

佛身猶放白毫光。花裏春風和戒香。修到精靈
供養處。千山萬壑法雲長。

三十二

古佛放光鐘外雲。薰香煙裏有金文。只看一片
清供養。枯木龍吟春十分。

二十九

供養を淨修して衣珠を上り、甘露醍醐鉢盂に滿つ。同じく如來圓覺の裏に入つて、一天の明月昏衢を照す。

三十

功德難思金に換へず、香爐一炷氣煙深し。上方又眞如の月あり大光明を放つて寶林を照す。

三十一

佛身猶ほ白毫光を放ち、花裏の春風戒香に和す。修して精靈供養の處に到つて、千山萬壑法雲長し。

三十二

古佛光を放つ鐘外の雲、薰香煙裏に金文有り。只看る一片の清供養、枯木龍吟して春十分。

三十三

祇樹春風心亦清。法輪淨處佛燈明。箇中修證
菩提德。流水落花三世聲。

三十四

一道光明法界由。磬聲鐘梵似相酬。菩提苑裏
花開處。滿地香風吹不休。

三十五

法供養淨佛前燈。一偈猶應斷葛藤。覺路迷途
何處在。千峯影落碧層々。

三十六

覺了性靈心不迷。桃花流水是菩提。請看法界
眞如境。日出東兮月落西。

三十三

祇樹の春風心も亦清く、法輪淨き處佛燈明なり。箇の中菩提の德を修證して、流水落花三世の聲。

三十四

一道の光明法界に由る。磬聲鐘梵相酬ゆるに似たり。菩提苑裏花開く處、滿地の香風吹いて休せず。

三十五

法供養は淨し佛前の燈、一偈猶ほまさに葛藤を斷つべし。覺路迷途何れの處にか在る、千峯影落ちて碧層々。

三十六

性靈を覺了して心迷はず、桃花流水是れ菩提。請ふ看よ法界眞如の境、日は東に出で月は西に落つ。

三十七

莊嚴報土道堪談。資助菩提禪可參。青嶂雨飛雲去逐。碧巖花落鳥來含。

三十八

一心供養徹靈源。般若智光三昧門。凡聖同時皆度脫。眞如明月照黃昏。

三十九

薰香一炷是禪機。功德莊嚴燦々輝。滿目青山何所有。白雲閑去又閑歸。

四十

欲修供養爲精靈。佛地燒香又誦經。無限春風吹覺路。千山萬壑自青々。

三十七

報土を莊嚴して可談するに堪へたり、菩提を資助して禪參すべし。青嶂雨飛んで雲去つて逐ひ碧巖花落ちて鳥來り含む。

三十八

一心の供養靈源に徹す、般若の智光三昧の門。凡聖同時に皆度脱して、眞如の明月黄昏を照す

三十九

薰香一炷是れ禪機、功德莊嚴燦々として輝く。滿目青山何の有る所ぞ、白雲閑に去り又閑に歸る。

四十

供養を修して精靈の爲にせんと欲し、佛地に香をたき又經を誦す。限りなき春風覺路を吹いて千山萬壑自ら青々。

四十一

色心不二聖凡融。生佛一如供養通。圓滿菩提嚴報土。黃梅時節綠陰風。

四十二

菩提供養法因緣。報土莊嚴功德圓。滿目風光皆了々。四山綠樹一聲鶉。

四十三

供養心通法界中。三千性相共圓融。塵々刹々成功德。綠樹青苔一徑風。

四十四

淨心供養豈其微。功德光明轉倍輝。等潤三根兼四衆。菩提法雨一霏々。

四十一

色心不二聖凡融じ、生佛一如供養通す。圓滿菩提報土を嚴る、黃梅時節綠陰の風。

四十二

菩提の供養法の因緣、報土の莊嚴功德圓なり。滿目の風光皆了々、四山の綠樹一聲の鶉。

四十三

供養の心は通す法界の中、三千の性相共に圓融。塵々刹々功德を成す、綠樹青苔一徑の風。

四十四

淨心の供養豈其れ微ならんや、功德光明轉輝きを倍す。等しく三根と四衆とを潤して、菩提の法雨一に霏々たり。

四十五

尸羅會上妙華開。供養之心功德恢。無盡色香歸一實。三千性相入如來。

四十六

菩提供養淨離塵。果海光明妙絕倫。空劫今時共超越。無邊風月一時新。

四十七

一場供養一香薰。法味醍醐特地芬。綠樹蔭成菩薩座。優曇華上有光雲。

四十八

大道本來無四門。香華供養似生痕。若人能達菩提意。始報生々世々恩。

四十五

尸羅會上妙華開き、供養の心功徳恢ふ。無盡の色香一實に歸し、三千の性相如來に入る。

四十六

菩提の供養淨うして塵を離れ、果海の光明妙にして倫を絶す。空劫今時共に超越して、無邊の風月一時に新なり。

四十七

一場の供養一香薰、法味醍醐特地に芬し。綠樹の蔭は菩薩の座となつて、優曇華の上に光雲あり。

四十八

大道本來四門なし。香華供養痕を生ずるに似たり。若し人能く菩提の意に達せば、始めて報ぜん生々世々の恩。

四十九

供養一場香一盤。無雙功德與人看。薰風綠樹菩提近。潮海雲山法界寬。

五十

至心供養不爲關。德滿華藏法界間。感應道交無所着。白雲一片落青山。

五十一

無邊功德入尸羅。供養圓通是補陀。滿目菩提道場法。薰風吹樹綠陰多。

五十二

供養之心無物遮。大圓覺裏佛光遐。威音劫外通消息。同看菩提第一花。

四十九

供養一場香一盤、無雙の功德人に與へて看せしむ。薰風綠樹菩提近く、潮海雲山法界寬し。

五十

至心の供養關を爲さず、徳は華藏に滿つ法界の間。感應道交所着無し、白雲一片青山に落つ。

五十一

無邊の功德尸羅に入る、供養の圓通は是れ補陀。滿目菩提道場の法、薰風樹を吹いて綠陰多し。

五十二

供養の心物の遮るなく、大圓覺裏佛光遐なり。威音劫外に消息を通じて、同じく看る菩提第一の花。

五十三

法界無邊供養場所。修功德是堂々。面前背後
菩提道。綠樹重陰吹碧香。

五十四

諸法因縁供養成。無邊功德一時生。青苔色裏
行雲影。翠柳風前飛燕聲。

五十五

山色法身吹翠馨。溪聲說法任人聽。誰知回向
菩提趣。雲在青天水在瓶。

五十六

法界壇場日月燈。尸羅一會有相承。菩提回向
如何說。雨竹風松是上乘。

五十三

法界無邊供養の場所。所修の功德
是れ堂々。面前背後菩提の道、
綠樹重陰碧香を吹く。

五十四

諸法の因縁供養成り、無邊の功
徳一時に生ず。青苔色裏行雲の
影、翠柳風前飛燕の聲。

五十五

山色の法身翠を吹いて馨しく、
溪聲の説法人の聴くに任ず。誰
か知らん回向菩提の趣、雲は青
天に在り水は瓶にあり。

五十六

法界の壇場日月の燈、尸羅の一
會相承有り。菩提回向如何が説
かん、雨竹風松はれ上乘。

五十七

一片香熏法界伴。菩提功德共時稠。薰風吹綠
迎梅夏。荷葉展青送麥秋。

五十八

慈雨悲雲蓋古今。慧山定海佛光深。尸羅供養
眞清淨。回向菩提三世心。

五十九

佛海無邊萬象涵。菩提功德若何參。風來松上
傳天樂。雨過山頭滴碧嵐。

六十

供養心清萬法銜。三千世界絕塵凡。尸羅大會
深功德。綠樹薰風吹碧巖。

五十七

一片の香熏法界伴しく、菩提の
功德時と共に稠し。薰風緑を吹
いて梅夏を迎へ、荷葉青を展べ
て麥秋を送る。

五十八

慈雨悲雲古今を蓋ひ、慧山定海
佛光深し。尸羅供養眞の清淨、
回向す菩提三世の心。

五十九

佛海無邊萬象涵す、菩提の功德
如何が參せん。風來つて松上天
樂を傳へ、雨過ぎて山頭碧嵐を
滴らす。

六十

供養の心清うして萬法を銜み、
三千世界塵凡を絶す。尸羅の大
會功德を深うし、綠樹薰風碧巖
を吹く。

六十一

無礙真心一炷香。善根功德叵思量。同歸阿耨菩提裏。流水白雲俱放光。

六十二

堪超生死苦輪流。廣大慈悲弘誓舟。回首無邊功德在。四山黃葉一天秋。

六十三

甚深功德徹靈源。法界盡開般若門。回向菩提無罣碍。光明雲海照乾坤。

六十四

箇中功德本來真。都作菩提淨妙因。心境如々何所似。一天明月轉霜輪。

六十一

無礙真心一炷の香、善根功德思量叵し。同じく歸す阿耨菩提の裏、流水白雲俱に光を放つ

六十二

生死苦輪の流を越ゆるに堪へたり、廣大の慈悲弘誓の舟。首を回らせば無邊の功德在り、四山の黄葉一天の秋。

六十三

甚深の功德靈源に徹し、法界盡く開く般若の門。回向菩提罣碍なし、光明雲海乾坤を照す。

六十四

箇中の功德本來真なり、都て菩提淨妙の因となる。心境如々何の似る所ぞ、一天の明月霜輪を轉す。

六十五

一會同乘功德船。菩提妙果有因緣。行雲流水無非道。雨竹風松皆是禪。

六十六

眞佛彌綸法界間。妙修功德脫塵寰。人々皆在菩提路。月白風清靈鷲山。

六十七

菩提福慧拈香焚。功德莊嚴法界芬。念々可看圓覺境。秋風紅樹萬山雲。

六十八

白露凝霜也太奇。清風明月共相宜。無量福慧眞供養。卽是菩提修證時。

六十五

一會同じく乗す功德の船、菩提の妙果因緣有り。行雲流水道に非るはなく、雨竹風松皆是れ禪

六十六

眞佛彌綸す法界の間、妙修の功德塵寰を脱す。人々皆菩提の路に在り、月白く風清し靈鷲山。

六十七

菩提の福慧香を拈じて焚く、功德莊嚴法界芬し。念々看るべし圓覺の境、秋風紅樹萬山の雲。

六十八

白露凝霜また太だ奇なり、清風明月共に相宜し。無量の福慧眞の供養、即ち是れ菩提修證の時

六十九

人天修懺爲菩提。解脫六輪輪轉迷。恰似無明夢初覺。曉天方聽一聲鷄。

七十

本來大道絕塵埃。心月清時佛智開。雲霧是衣湖海鉢。三千世界活如來。

七十一

妙修本證卽心安。佛果菩提一戒壇。諸法悉成眞實相。寂光界裏月團々。

七十二

佛燈輝處六塵銷。修到菩提功德饒。法界圓融無所滯。一天明月落秋潮。

六十九

人天の修懺菩提の爲にして、解脫す六輪輪轉の迷。恰も似たり無明の夢初めて覺めて、曉天方に聽く一聲の鷄。

七十

本來大道塵埃を絶す。心月清き時佛智開く。雲霧は是れ衣湖海は鉢、三千世界活如來。

七十一

妙修本證卽心安し。佛果菩提一戒壇。諸法悉く成る眞實相、寂光界裏月團々。

七十二

佛燈輝く處六塵銷す。修して菩提に到つて功德饒し。法界圓融滯る所なし、一天の明月秋潮に落つ。

七十三

薩婆若海鼓風濤。遍照光明是白毫。江上水流千里遠。天邊山在萬尋高。

七十四

衆生夢裏執情多。覺者悠々超自他。佛果菩提周法界。法身色相滿山河。

七十五

功德善根尤出群。淨修回向妙香薰。眼前皆是菩提相。紅葉黃花又白雲。

七十六

衆生身裏佛身成。具足如來活眼睛。箇々行深般若法。海潮又作梵音聲。

七十三

薩婆若海風濤を鼓す。遍照光明是れ白毫。江上水流れて千里遠く、天邊山在りて萬尋高し。

七十四

衆生夢裏執情多し。覺者悠々として自他を超ゆ。佛果菩提法界に周く、法身の色相山河に滿つ

七十五

功德善根尤も群を出で、淨修回向妙香薰す。眼前皆是れ菩提の相、紅葉黃花又白雲。

七十六

衆生身裏佛身成じ、具足す如來の活眼睛、箇箇深般若の法を行じて、海潮又梵音の聲と作る。

七十七

生死浮雲無相形。菩提妙果有心靈。乾坤皆入真空智。萬象都成古佛經。

七十八

放大光明輝法燈。伽藍諸佛影層層。菩提妙果堪修證。脫落身心禪上乘。

七十九

雲集人天在寶林。鐘聲々裏佛燈深。眞如明月菩提法。度脫衆生三世心。

八十

妙薰一炷把香拈。古佛光明仰可瞻。頓證如來無上覺。大乘悟入是華嚴。

七十七

生死の浮雲相形なく、菩提の妙果心靈あり。乾坤皆真空の智に入り、萬象都て古佛の經と成る

七十八

大光明を放つて法燈輝く。伽藍の諸佛影層々。菩提の妙果修證するに堪へたり、脫落身心禪の上乗。

七十九

雲の如くに集る人天は寶林に在り、鐘聲々裏佛燈深し。眞如の明月菩提の法、度脱す衆生の三世心。

八十

妙薰一炷香を把つて拈す、古佛の明仰いで瞻るべし。頓に證す如來の無上覺、大乘の悟入は是れ華嚴。

八十一

六塵解脫一心清。報土莊嚴功德明。諸法本來無染汙。白雲冉冉出山行。

八十二

一炷心香薰十方。所修功德海無量。秋風落葉回頭見。山自高兮水自長。

八十三

菩提遍在盡虛空。功德放光塵劫中。山上白雲孤雁影。林邊黃葉夕陽風。

八十四

一心供養法門開。功德海中無點埃。片石孤雲呈相好。溪聲山色現如來。

八十一

六塵解脫して一心清く、報土莊嚴して功德明なり。諸法本來染汚無し、白雲冉冉山を出でて行く。

八十二

一炷の心香十方に薰ず、所修の功德海の如くに無量なり。秋風落葉頭を回らして見れば、山は自ら高く水は自ら長し。

八十三

菩提遍く盡虚空に在り、功德光を放つ塵劫の中。山上の白雲孤雁の影、林邊の黄葉夕陽の風。

八十四

一心の供養法門開く、功德海中點埃無し。片石孤雲相好を呈し、溪聲山色如來を現す。

八十五

本來無悟又無迷。達者悠々超淤泥。諸法回頭成實相。飛華落葉是菩提。

八十六

白露清風古佛林。菩提妙趣共秋深。法身遍滿塵沙界。一念圓融天地心。

八十七

一炷紫煙香氣濃。三輪清淨是先蹤。心澄古佛燈前卷。境寂秋天霜後鐘。

八十八

法界圓融是此時。甚深功德妙難思。一輪明月當天照。無限清風匝地吹。

八十五

本來悟無又迷無し、達者悠々として淤泥を超ゆ。諸法頭を回らせば實相と成る、飛華落葉は是れ菩提。

八十六

白露清風古佛林、菩提の妙趣秋と共に深し。法身遍滿す塵沙界一念圓融す天地の心。

八十七

一炷の紫煙香氣濃なり、三輪清淨は先蹤。心は澄む古佛燈前の卷、境は寂なり秋天霜後の鐘

八十八

法界圓融は此の時、甚深の功德妙にして難思。一輪の明月天に當つて照し、限り無き清風地を匝つて吹く。

八十九

圓覺妙心離染汗。菩提法味作醍醐。堪看雲影隨鴻雁。應聽風聲入荻蘆。

九十

月色風聲共本眞。見聞一一得相親。從來解脫何疑着。無漏禪心是法身。

九十一

菩提供養戒香薰。法界行持初十分。只證身心眞解脫。自他共入妙光雲。

九十二

本證妙修宗趣尊。菩提功德蓋乾坤。白雲流水眞如理。明月清風般若門。

八十九

圓覺の妙心染汚を離れ、菩提の法味醍醐と作る。看るに堪へたり雲影の鴻雁に隨ふを、まさに聽くべし風聲の荻蘆に入るを。

九十

月色風聲共に本眞、見聞一々相親しきを得たり。從來解脫す何をか疑着せん、無漏の禪心は是れ法身。

九十一

菩提の供養戒香薰じ、法界の行持初めて十分。たと身心の眞解脫を證して、自他共に入る妙光の雲。

九十二

本證妙修宗趣尊し、菩提の功德乾坤を蓋ふ。白雲流水眞如の理。明月清風般若の門。

九十三

便爲菩提薰白檀。三昧心開如是觀。法々塵々
功德在。飛花落葉與人看。

九十四

淨心供養寶爐前。回向菩提了宿緣。江上有風
山有月。三千世界是吾禪。

九十五

一場供養遍塵沙。功德甚深何有涯。鐘送梵音
過法界。風吹落葉入秋霞。

九十六

圓融法界寶爐馨。燈燭香華幾卷經。公案現成
眞面目。秋風霜葉在禪庭。

九十三

すなはち菩提の爲に白檀を薫じて、三昧の心は開く如是の觀。法々塵々功德在り、飛花落葉人に與へて看せしむ。

九十四

淨心供養す寶爐の前、菩提に回向して宿縁を了す。江上に風有り山に月有り、三千世界是れ吾が禪。

九十五

一場の供養塵沙に遍し、功德甚深何ぞ涯有らん。鐘は梵音を送つて法界を過ぎ、風は落葉を吹いて秋霞に入る。

九十六

法界を圓融して寶爐馨し、燈燭香華幾卷の經。公案現成眞の面目、秋風霜葉禪庭に在り。

九十七

一炷薰香對佛燈。菩提功德喚如響。卽心卽佛
無疑著。雨竹風松入上乘。

九十八

解脫塵緣入聖流。菩提妙果及時收。眼前諸法
皆眞覺。體露金風天地秋。

九十九

菩提功德大而深。一色一香三世心。天地回頭
秋又老。疎雲片々出空林。

百

開得乾坤無盡藏。菩提果海捧心香。秋風落葉
飛雲影。都作法身清淨光。

九十七

一炷の薰香佛燈に對す、菩提の功德喚べば響ふるが如し。卽心卽佛を著無し、雨竹風松上乘に入る。

九十八

塵縁を解脫して聖流に入り、菩提の妙果時に及んで收む。眼前の諸法皆眞覺、體露金風天地の秋。

九十九

菩提の功德大にして深し、一色一香三世の心。天地頭を回らせば秋又老い、疎雲片々として空林を出づ。

百

乾坤の無盡藏を開き得て、菩提の果海に心香を捧ぐ。秋風落葉飛雲の影、都て法身清淨の光と作る。

香語 (一)

佛誕生會

光滿闔浮清絕塵。藍毘尼苑獨尊春。誰人又取
天甘露。灌得如來妙色身。

同

無憂花發一春風。甘露澍來龍護空。天上人間
獨尊句。到今猶響大千中。

佛誕二千五百年法要

春色毘藍園裏天。人間世界遇空前。二千五百
星霜昔。性海初看般若船。

法身無相周沙界。月露風雲皆入禪。

佛誕生會

光闔浮に滿ちて清うして塵を絶す、藍毘尼苑獨尊の春。誰人か又天の甘露を取つて、如來の妙色身に灌ぎ得ん。

同

無憂花發く一春の風、甘露澍ぎ來つて龍空を護る。天上人間獨尊の句、今に到つて猶ほ響く大千の中。

佛誕二千五百年法要

春色毘藍園裏の天、人間世界空前に遇ふ。二千五百星霜の昔、性海初めて看る般若の船。

法身無相沙界に周ねく、月露風雲皆禪に入る。

成道會

一點明星照大千。菩提樹下五更前。忽然坐破
金剛座。山色溪聲皆入禪。

同

觀樹思惟坐五更。金剛座上道初成。豁然看破
明星裏。無限乾坤一眼睛。

涅槃會

雙林日落法輪摧。天地失光群類哀。唯有禪人
能見得。花明柳暗是如來。

同

雙樹花凋雲帶愁。人天悲淚向誰流。跋提河畔
遺經在。傳白毫光萬古秋。

成道會

一點の明星大千を照す。菩提樹下五更の前。忽然坐破す金剛座。山色溪聲皆禪に入る。

同

觀樹思惟五更に坐して、金剛座上道初めて成す。豁然として看破す明星の裏、無限の乾坤一眼睛。

涅槃會

雙林日落ちて法輪摧け、天地光を失つて群類哀しむ。唯禪人の能く見得するあり、花明柳暗これ如來。

同

雙樹花凋んで雲愁を帯び、人天の悲涙誰に向つてか流る。跋提河畔遺經在り、白毫光を傳ふ萬古の秋。

同
沙羅林裏涅槃身。愁殺三千世界人。八塔誰言
分舍利。如來刹々滿塵々。

同

娑羅雙樹涅槃春。思昔衆生逢此辰。八塔誰言
收舍利。却成遍界不藏身。
化身百億梅花白。說法無量鳥語新。

觀音寺涅槃會

末後憐生轉法輪。雙林鶴白涅槃辰。誰知八十
人間壽。現出如來常住身。

山高水遠三千界。柳暗花明無限春。

太祖大師忌

同

沙羅林裏涅槃の身、愁殺す三千世界の人。八塔誰か言ふ舍利を分つと、如來刹々塵々に滿つ。

同

娑羅雙樹涅槃の春、思ふ昔衆生の此の辰に逢ふを。八塔誰か言ふ舍利を收むと、却つて遍界不藏の身となる。
化身百億梅花白く、說法無量鳥語新なり。

觀音寺涅槃會

末後生を憐んで法輪を轉ず、雙林鶴の如く白し涅槃の辰。誰か知らん八十人間の壽、現出す如來の常住身。

山高く水遠し三千界、柳は暗く花は明なり無限の春。

太祖大師忌

崑崙夜走是玄々。奏對放光騰九天。第一道場
諸嶽頂。乾坤萬古有真禪。

滿目秋風蘆葉影。半林紅葉夕陽煙。

同

崑崙夜走道無窮。却有紫雲天上通。乃祖光明
周遍界。塵々刹々仰禪風。

半夜天風結寒露。一林秋色入丹楓。

同

九重天上有宗通。吹起無雙禪苑風。只此靈苗
繁茂處。可看千古鬱葱々。

同

平常心道絕塵清。黑漆崑崙德愈成。自有禪風

崑崙夜走是玄々、奏對放光を放つて九天に騰る。第一道場諸嶽の頂、乾坤萬古真禪有り。

滿目の秋風蘆葉の影、半林の紅葉夕陽の煙。

同

崑崙夜走つて道窮りなし、却つて紫雲の天上に通ずるあり。乃祖の光明遍界に周し、塵々刹々禪風を仰ぐ。

半夜の天風寒露を結び、一林の秋色丹楓に入る。

同

九重天上宗の通ずるあり、吹き起す無雙禪苑の風。たゞ此の靈苗繁茂の處、看るべし千古鬱葱として葱々。

同

平常心の道塵を絶して清く、黒漆の崑崙の徳愈と成る。自ら禪風

天上達。乾坤長放大光明。

山月豈非圓相影。海潮都是梵音聲。

太祖大師授戒正當日忌

悟窮三昧入神通。禪達天閻契聖聰。出世道場雲紫色。人間長仰大師風。

春深諸嶽香雲滿。芳艸池塘綠映紅。

峩山禪師忌

兩箇月光空不空。丹霄靈鳳倚梧桐。獨修功德知多劫。天下伽藍仰祖風。

白雲無着溪山畔。明月分光天地中。

同

彈指一聲知兩月。是非不到都休歇。靈苗種草

の天上に達するあり、乾坤長く放つ大光明。

山月豈圓相の影に非ざらんや海潮すべて是れ梵音の聲。

太祖大師授戒正當日忌

悟は三昧を窮めて神通に入り、禪は天閻に達して聖聰に契ふ。出世道場雲紫色、人間長へに仰ぐ大師の風。

春諸嶽に深うして香雲満ち、芳艸池塘緑紅に映す。

峩山禪師忌

兩箇の月光空不空、丹霄の靈鳳梧桐に倚る。獨り功德を修す知んぬ多劫なるを、天下の伽藍祖風を仰ぐ。

白雲着するなし溪山の畔、明月光を分つ天地の中。

同

彈指一聲兩月を知る、是非到らずすべて休歇す。靈苗種草と

鬱芬々。山上五雲千古發。

山菊淨薰解脫香。林楓淡飾安禪窟。

同

隨侍師祖影相扶。諸嶽清規立軌模。衣鉢傳來支派盛。光明今古滿江湖。

同

幾個月明懸碧空。禪關透破入神通。不渝歷劫僧祇誓。常侍祖前揚祖風。

白露漸催三徑菊。秋霜欲染半林楓。

洞川開基無端祖環禪師五百五十回忌

洞川唱起祖師禪。諸嶽靈苗鬱盖天。赫々慧燈光不斷。定中五百五十年。

して芬々、山上の五雲千古に發く。

山菊淨く薰す解脫香、林楓淡く飾る安禪窟。

同

師祖に隨侍して影の如く相扶け諸嶽の清規軌模を立つ。衣鉢傳へ來つて支派盛んなり、光明今古江湖に滿つ。

同

幾個月の月明か碧空に懸り、禪關透破して神通に入る。歴劫僧祇の誓を渝へず、常に祖前に侍して祖風を揚ぐ。

白露漸く催す三徑の菊、秋霜染めんと欲す半林の楓。

洞川開基無端祖環禪師五百五十回忌

洞川唱へ起す祖師禪、諸嶽の靈苗鬱として天を蓋ふ。赫々たる慧燈光斷えず、定中五百五十

秋深寒露凝霜裏。人在白雲黃葉前。

最乘開山忌

袈裟懸在坐禪松。水石溪山靈氣鍾。一自神人來被化。法燈長照大雄峯。

山氣澄清殘月影。曉風吹入五更鐘。

同

懸一袈裟一樹松。安禪石上有靈蹤。傳燈不斷深山裏。東海叢林千古鐘。

白雲明月皆禪定。溪水松風共說宗。

同

坐禪石古碧苔香。智水傳流支派長。千古大雄峯上塔。熒々常放法燈光。

秋は深し寒露凝霜の裏、人は在り白雲黄葉の前。

最乘開山忌

袈裟懸けて坐禪松に在り、水石溪山靈氣鍾る。一たび神人の來つて化を被りしより、法燈長く照す大雄峯。

山氣澄んで清うす残月の影、曉風吹いて入る五更の鐘。

同

一袈裟を懸く一樹の松。安禪石上靈蹤あり。傳燈断えず深山の裏。東海の叢林千古の鐘。

白雲明月皆禪定、溪水松風共に宗を説く。

同

坐禪石古りて碧苔香しく、智水流を傳へて支派長し。千古大雄峯上の塔、熒々として常に放つ法燈の光。

春風如夢吹芳草。遲日和煙入翠楊。

同

依舊大雄山色青。法燈分耀四千庭。八年奉侍巾瓶下。遺德薰來衣鉢馨。

開祖眞儀猶可見。滿山老樹鬱亭々。

最乘二院忌

寶珠明玉燦相聯。自有德光千古傳。請見大雄峯上路。杉風吹入幾重天。

同

各揮隻手法燈挑。千樹老杉千尺喬。誰識金剛靈水滴。流成大海去來潮。

階前俱聽秋聲動。天上皆看月色饒。

春風夢の如く芳草を吹き、遅日煙に和して翠楊に入る。

同

舊に依つて大雄山色青く、法燈耀を分つ四千庭。八年奉侍す巾瓶の下、遺德薰じ來つて衣鉢馨し。

開祖の眞儀猶ほ見るべし、満山の老樹鬱として亭々。

最乘二院忌

寶珠明玉燦として相聯ねて、自ら徳光の千古に傳ふるあり。請ふ見よ大雄峯上の路、杉風吹いて入る幾重の天。

同

各隻手を揮つて法燈を挑げ、千樹の老杉千尺喬し。誰か識る金剛靈水の滴、流れて大海去來の潮となるを。

階前俱に聽く秋聲の動くを、天上皆看る月色の饒きを。

最乘獨住第五世第六世第七世忌

慈雨悲雲轉法輪。遺風猶是德光新。大雄山上
秋天月。遍照三千刹海濱。

暮潮曉籟天然偈。白石青山清淨身。

同 椀仙禪師卅三回忌。石禪禪師七回忌

回天定力世無儔。說法隨時石點頭。遺德千秋
應不盡。白雲流水共悠悠。

水碧夕陽孤雁岸。風清楓葉荻花秋。

昨上禪師征月忌

行持綿密道風尊。定力開來化度門。清淨法身
長不滅。慈雲無限蓋乾坤。

境清林下霜千畝。心寂天邊月一痕。

最乘獨住第五世第六世第七世忌

慈雨悲雲法輪轉。遺風猶是德光新。大雄山上秋
天月。遍照三千刹海濱。暮潮曉籟天然偈。白石青山
清淨身。

同 椀仙禪師三十三回忌
石禪禪師七回忌

回天の定力世に儔なく、說法隨時石點頭す。遺德千秋まさに盡きざるべし、白雲流水共に悠悠水は碧なり夕陽孤雁の岸、風は清し楓葉荻花の秋。

昨上禪師征月忌

行持綿密道風尊く、定力開き來る化度の門。清淨法身長へに滅せず。慈雲限り無く乾坤を蓋ふ境は清し林下の霜千畝、心は寂なり天邊の月一痕。

新井禪師征月忌

定入金剛智入神。溫風接衆德如春。獨遺道業
隨流偈。千古湛然住法身。

月白風幽將曉處。雲閑鐘冷履霜辰。

西有禪師二十七回忌

清風境界白雲心。定慧等持江海深。洞上宗乘
誰耐比。巨燈獨照去來今。

碧瓦霜凝生玉屑。寒林風過起龍吟。

石川禪師十七回忌

直截根源事々融。移山動壑有神通。固辭人擬
中興號。卓立祖師千古風。

三徑殘花時雨後。半林落葉夕陽中。

新井禪師征月忌

定は金剛に入り智は神に入る、溫風衆を接して徳春の如し。獨り道業隨流の偈を遺して、千古湛然として法身に住す。月白く風幽なりまさに曉けんとする處、雲閑に鐘冷なり霜を踏む辰。

西有禪師二十七回忌

清風の境界白雲の心、定慧等しく持して江海深し。洞上の宗乘誰か比するに耐へたる、巨燈獨り照す去來今。

碧瓦霜凝つて玉屑を生じ、寒林風過ぎて龍吟を起す。

石川禪師十七回忌

直に根源を截つて事々融じ、山を移し壑を動して神通あり。人の中興の號を擬するを固辭して卓立す祖師千古の風。三徑の殘花時雨の後、半林の落葉夕陽の中。

石川禪師十七回忌

日月雙輝定慧圓。至誠大德耐回天。獨留不滅
光明去。寶塔藏身十七年。

滿地秋香叢菊裏。一林霜葉夕陽前。

杉本禪師七回忌

金剛三昧固如山。誠諦至心無字關。已是七年
全在定。光明不斷照人間。

孤岫風收雲涌出。半林日暗鳥飛還。

栗山禪師一周忌

通幻法流靈覺資。圓成行智德無涯。白雲鎖定
過周歲。咸仰人天百世師。

暖日晴煙芳草綠。春風香霧落花遲。

石川禪師十七回忌

日月雙輝定慧圓。至誠大德回天耐。獨留不滅
光明去。寶塔藏身十七年。

滿地秋香叢菊裏。一林霜葉夕陽前。

杉本禪師七回忌

金剛三昧固如山。誠諦至心無字關。已是七年
全在定。光明不斷照人間。

孤岫風收雲涌出。半林日暗鳥飛還。

栗山禪師一周忌

通幻の法流靈覺の資、行智を圓
成して德涯なし。白雲定を鎖し
て周歲を過ぎ、みな仰ぐ人天百
世の師。

暖日晴煙芳草綠に、春風香霧
落花遅し。

善修院先住忌

蓮華臺上現春時。一炷薰香供二師。追憶遺風
長不滅。山高水遠德無涯。

春風幾脈桃花悟。夜月一痕流水知。

田中寺光天俊明大和尚廿三回忌

至淳風格唱眞禪。德化昭々與月圓。二十三年
歸寂後。光明不滅照人天。

滿目風光春織錦。花如燃處柳含煙。

善寶寺卅三世月圓禪山大和尚五十回

忌。卅五世法運禪教大和尚廿三回忌。

卅七世梅瑞月乘大和尚十三回忌

中興偉業月光圓。教上法燈端的禪。添得一枝
梅影瑞。太年門下道風全。

善修院先住忌

蓮華臺上春を現する時、一炷の
薰香二師に供す。追憶す遺風の
長へに滅せざるを、山高く水遠
くして德涯なし。

春風幾脈桃花悟り、夜月一痕
流水知る。

田中寺光天俊明大和尚

廿三回忌

至淳の風格眞禪を唱へ、德化昭
昭として月と圓なり。二十三年
歸寂の後、光明不滅人天を照す
滿目の風光春錦を織り、花燃
ゆるが如き處柳煙を含む。

善寶寺月圓禪山大和尚五

十回忌、法運禪教大和尚

廿三回忌、梅瑞月乘大和

尚十三回忌

中興の偉業月光圓なり、教上の
法燈端的の禪。一枝梅影の瑞を
添へ得て、太年門下道風全し。

落花影伴三春水。芳草風連萬里天。

虎嶽山開基永稱庵壽覺和尚五百回忌

千古開基虎嶽天。壽量劫石是真禪。法身不滅存靈德。水色山光五百年。

一簾暖日花添錦。萬里春風柳帶煙。

正覺寺開山悅堂宗穆大和尚報恩會

宗風唱起露堂々。正覺燈傳不滅光。鑽仰開山千古德。獻來一炷報恩香。

香靄罩天花影簇。春風吹地柳絲長。

正覺寺卅四世佛海悅瀧大和尚十七回忌

智慧金剛行足全。却乘弘誓善隨緣。佛功德海湛禪定。一入泥洹十七年。

落花の影は伴ふ三春の水、芳草の風は連る萬里の天。

虎嶽山開基永稱庵壽覺和尚五百回忌

千古の開基虎嶽の天、壽量劫石是れ真禪。法身不滅靈德を存して、水色山光五百年。

一簾の暖日花錦を添へ、萬里の春風柳煙を帯ぶ。

正覺寺開山悅堂宗穆大和尚報恩會

宗風唱へ起して露堂々、正覺燈は傳ふ不滅の光。鑽仰す開山千古の徳、獻じ來る一炷の報恩香。香靄天を罩めて花影簇り、春風地を吹いて柳絲長し。

正覺寺卅四世佛海悅瀧大和尚十七回忌

智慧金剛行足全く、却つて弘誓に乗じて善く縁に隨ふ。佛功德海禪定を湛へて、一たび泥洹に入つてより十七年。

流水桃花春杳々。和風暖日草芊々。

禪洞寺法雲普蓋禪師報恩法要

德厚風高百世師。法雲蓋處物皆知。慈悲遠及三千界。禪定猶輝十二時。

半簾飛雨禪心淨。一味涼風竹影吹。

青原寺堪宗老師、栗山禪師忌

護念祖山功叵量。紫雲衣上道風香。青原今日懷遺德。俱仰那伽大定光。

禪榻春和香篆靜。山門日暖鳥聲長。

繁久寺常恒會開關七周忌

寶刹光明因道風。衆生渴仰恰神通。行持能盡終身德。應化正存千古功。

流水桃花春杳々、和風暖日草芊々。

禪洞寺法雲普蓋禪師報恩法要

德厚く風高し百世の師、法雲蓋ふ處物皆知る。慈悲遠く及ぶ三千界、禪定猶ほ輝く十二時。半簾の飛雨禪心淨く、一味の涼風竹影吹く。

青原寺堪宗老師、栗山禪師忌

祖山を護念して功量り叵く、紫雲衣上道風香し。青原今日遺德を懷うて、俱に仰ぐ那伽大定の光。

禪榻春和にして香篆靜に、山門日暖にして鳥聲長し。

繁久寺常恒會開關七周忌

寶刹の光明は道風に因る、衆生の渴仰は恰も神通。行持能く盡す終身の徳、應化正に存す千古の功。

水村山郭春風遍。芳草落花望不窮。

天海皎月大和尚廿三回忌。享山謙光大和尚。大活天龍大和尚三十三回忌。

長天巨海現慈悲。謙德生光太陸離。又作眞龍方活躍。皆斯百世大宗師。

春風春水江山裏。正是百花繚亂時。

釋默笑師大練忌

護法愛宗無匹儔。立功現德幾春秋。入深禪定知何處。雲鎖空山蘭塔頭。

人間自有花開落。天上豈無雲去留。

觀音寺開山中華惠文大和尚忌

開闢空山說上乘。伽藍高入白雲層。觀音古刹

水村山郭春風遍く、芳草落花望窮らず。

天海皎月大和尚廿三回忌 享山謙光大和尚、大活天龍大和尚三十三回忌

長天巨海慈悲を現じ、謙德光を生じて太だ陸離。又眞龍となつて方に活躍す、皆これ百世の大宗師。

春風春水江山の裏、正にこれ百花繚亂の時。

釋默笑師大練忌

護法愛宗匹儔なし、功を立て徳を現す幾春秋。深禪定に入つて知んぬ何れの處ぞ、雲は鎖す空山蘭塔の頭。

人間自ら花の開落あり、天上豈雲の去留なからんや。

觀音寺開山中華惠文大和尚忌

空山を開闢して上乘を説き、伽藍高く入る白雲の層。觀音古刹

傳遺德。猶向千秋輝法燈。

風入溪山春色滿。氣通天地百花興。

潛龍開山鳳山得髓大和尚百五十回忌

潛龍躍動鳳山禪。濟世度生光燦然。百五十年風雨後。尙看赫々法燈傳。

紅花滿樹光含玉。翠柳垂條春帶煙。

龍源廿一世興學道隆大和尚十三回忌

興隆大道化風淳。觸處生涯轉法輪。不朽功存遺業跡。禪龕雲鎖十三春。

柳邊日暖陽炎動。花畔風和霞彩新。

菊泉開山朴鼎豐淳大和尚二百五十回忌

寶鼎昔時開菊泉。無邊德化利人天。塔前長有

遺德を傳へて、猶ほ千秋に向つて法燈を輝かす。

風溪山に入つて春色滿ち、氣天地に通じて百花興る。

潛龍開山鳳山得髓大和尚百五十回忌

潛龍躍動す鳳山の禪、濟世度生光燦然。百五十年風雨の後、尙ほ看る赫々法燈の傳ふを。

紅花樹に滿ちて光玉を含み、翠柳條を垂れて春煙を帯ぶ。

龍源廿一世興學道隆大和尚十三回忌

大道を興隆して化風淳く、觸處生涯法輪を轉す。不朽の功は存す遺業の跡、禪龕雲鎖す十三春柳邊日暖にして陽炎動き、花畔風和にして霞彩新なり。

菊泉開山朴鼎豐淳大和尚二百五十回忌

寶鼎昔時菊泉を開き、無邊の德化人天を利す。塔前長へに光明

光明照。二百春過五十年。

流水青山禪道在。飛雲片石佛心傳。

同 十二世梵隆碩鼎大和尚廿七回忌

信傳衣鉢熾師承。功業非凡德化弘。二十七年
深在定。山門永劫仰中興。

一天風色清無比。諸處山光翠欲凝。

永源開山自圓耕叟大和尚四百回忌

獨入青山拓福田。靈苗繁茂白雲邊。法身不滅
曹溪裏。燦放光明四百年。

花影幾重雲帶色。春風千里草生煙。

同 廿世猛勇賢丈大和尚。廿一世隣峯

國丈大和尚各廿三回忌

の照すあり、二百春は過ぐ五十
年。流水青山禪道在り、飛雲片石
佛心傳ふ。

同十二世梵隆碩鼎大和尚
廿七回忌

信衣鉢を傳へて師承熾なり、功
業非凡徳化弘し。二十七年深く
定に在り、山門永劫に中興を仰
ぐ。

一天の風色清比なし、諸處の
山光翠凝らんと欲す。

永源開山自圓耕叟大和尚
四百回忌

獨り青山に入つて福田を拓き、
靈苗繁茂す白雲の邊。法身滅せ
ず曹溪の裏、燦として光明を放
つ四百年。

花影幾重雲色を帯び、春風千
里草煙を生ず。

同廿世猛勇賢丈大和尚、
廿一世隣峯國丈大和尚各
廿三回忌

定慧雙々度衆生。明燈掲得共傳名。遺風二十
三春後。松籟猶成說法聲。

春色水村山郭裏。東風柳暗又花明。

瑞龍廿八世曹溪洞龍大和尚十七回忌

大悟之心衣鉢傳。慈雲慈雨說眞禪。遺風只有
王三昧。十七春過蘭若天。

芳草落花歸舊夢。香風新綠入啼鵲。

大森知言師追弔會

微妙玄談色即空。正偏提唱祖師風。一朝雲鎖
坐禪榻。何處相尋逢着公。

杜宇啼過雲樹上。薰風吹在綠陰中。

萬福寺開闢勅賜佛周禪師六百回忌

定慧雙々衆生を度し、明燈掲げ
得て共に名を傳ふ。遺風二十三
春の後、松籟猶ほ成す説法の聲
春色水村山郭の裏、東風柳暗
又花明。

瑞龍廿八世曹溪洞龍大和
尚十七回忌

大悟の心衣鉢傳ふ、慈雲慈雨
禪を説く。遺風只王三昧あり、
十七春は過ぐ蘭若の天。

芳草落花舊夢に歸し、香風新
綠啼鵲に入る。

大森知言師追弔會

微妙の玄談色即空、正偏提唱す
祖師の風。一朝雲鎖す坐禪の榻
何れの處にか相尋ねて公に逢着
せん。

杜宇啼き過ぐ雲樹の上、薰風
吹いて在り綠陰の中。

萬福寺開闢勅賜佛周禪師
六百回忌

悟道之心弘法身。開創佛刹度生親。青山不壞存遺德。寶塔星移六百春。

杜宇啼天高有響。薰風吹樹綠無塵。

同 開山物先長有大和尚四百五十回忌

雙全定慧法雲長。洞上宗風最大揚。四百五十年處古。燈々相繼放明光。

青溪水送花餘影。綠樹風傳天妙香。

自得寺開山歷住追恩

開闢雲山垂憲章。法燈奕代燦傳光。大寂空中神通力。堪爲人天分衆香。

雨過青山空翠滴。風吹夏木碧雲長。

泉流寺先住忌

悟道の心弘法の身、佛刹を開創して度生親し。青山壞せず遺徳を存し、寶塔星移る六百春。

杜宇天に啼いて高く響あり、薰風樹を吹いて緑に塵なし。

同開山物先長有大和尚四百五十回忌

定慧を雙べ全うして法雲長く、洞上の宗風最も大に揚る。四百五十年處古り、燈々相繼いで明光を放つ。

青溪の水は送る花の餘影、緑樹の風は傳ふ天の妙香。

自得寺開山歷住追恩

雲山を開闢して憲章を垂れ、法燈奕代燦として光を傳ふ。大寂定中の神通力、人天の爲に衆香を分つに堪へたり。

雨青山を過ぎて空翠滴り、風夏木を吹いて碧雲長し。

泉流寺先住忌

性海曾浮弘誓舟。度生濟世獨悠々。却留大寂定中影。長使人天斟法流。

幾處鵑聲疎雨後。一庭雲樹綠陰稠。

長慶廿世祖統佛彦大和尚七回忌

慧觀禪定兩無雙。金刹常恒建法幢。寂後七年人仰德。有山兀々水淙々。

慈雨悲雲充淨域。薰風綠樹對禪窓。

福嚴院開山悟了是察大和尚三百五十回忌

十七世天山大曉大和尚五十回忌

九世祖運滿山大和尚七回忌

定中三百五十年。慧日光明轉燦然。更有各師名世德。門風無限及人天。鳥聲蟲語無非道。山色水光皆是禪。

性海曾て浮ぶ弘誓の舟、度生濟世獨り悠々。却つて大寂定中の影を留めて、長く人天をして法流を斟ましむ。

幾處の鵑聲疎雨の後、一庭の雲樹綠陰稠し。

長慶廿世祖統佛彦大和尚七回忌

慧觀禪定兩つながら無雙、金刹常恒に法幢を建つ。寂後七年人徳を仰ぐ、山有り兀々水淙々。

慈雨悲雲淨域に充ち、薰風綠樹禪窓に對す。

福嚴院開山悟了是察大和尚三百五十回忌

十七世天山大曉大和尚五十回忌

九世祖運滿山大和尚七回忌

定中三百五十年、慧日の光明つた、燦然。更に各師名世の徳あり、門風限りなく人天に及ぶ。鳥聲蟲語道に非る無く、山色水光皆これ禪。

福嚴院十八世還山曉道大和尚卒哭忌

戒燭定香令道尊。禪風慧日度人溫。忌辰卒哭猶如在。遺德昭々照法門。

水流琴韻溪中響。雨過荷珠葉裏翻。

靈源寺開山德翁祖昌大和尚四百回忌。

廿三世寬應孝道大和尚廿三回忌

慧光定力結因緣。一脈靈源四百年。孝道老師猶現化。梅梢山上法燈鮮。

雲樹聲飛蘭若域。晴嵐影落寶林泉。

願成開山梅榮元香大和尚忌

半間禪榻五雲隨。綠水青山住大悲。千古梅花猶在此。香風不斷滿天涯。

福嚴院十八世還山曉道大和尚卒哭忌

戒燭定香道をして尊からしめ、禪風慧日人を度すること温なり。忌辰卒哭猶在すが如し、遺德昭々法門を照す。

水流れて琴韻溪中に響き、雨過ぎて荷珠葉裏に翻る。

靈源寺開山德翁祖昌大和尚四百回忌、廿三世寬應孝道大和尚廿三回忌

慧光定力因縁を結び、一脈の靈源四百年。孝道老師猶ほ化を現じて、梅梢山上法燈鮮なり。

雲樹聲は飛ぶ蘭若の域、晴嵐影は落つ寶林の泉。

願成開山梅榮元香大和尚忌

半間の禪榻五雲隨ひ、綠水青山大悲に住す。千古梅花猶ほ此に在り、香風斷えず天涯に滿つ。

蒲輪坐斷三千界。檀篆香飛十二時。

同 卅八世中興開山墨庵文雄大和尚忌

中興功業獨推師。天有紫雲山瑞芝。今日猶看方便力。大禪寂裏現慈悲。

古鐘清韻千峯響。新樹香風滿地吹。

久昌寺開山蘭翁嫩芝大和尚忌

圓明定慧現神通。能使山門千歲隆。祖室可看無限德。芝蘭不斷起香風。

同 二十一世中興法壽義岳大和尚小祥忌

禪慧圓明揭法燈。久昌蘭若作中興。高風依舊猶如在。山月溪雲喚欲響。

翠竹紅花禪面目。溪聲山色佛真乘。

蒲輪坐斷三千界、檀篆香飛ぶ十二時。

同三十八世中興開山墨庵文雄大和尚忌

中興の功業獨り師を推す、天に紫雲あり山に瑞芝。今日猶ほ看る方便力、大禪寂裏慈悲を現す。古鐘の清韻千峯に響き、新樹の香風滿地に吹く。

久昌寺開山蘭翁嫩芝大和尚忌

圓明の定慧神通を現じ、能く山門をして千歲隆ならしむ。祖室可看るべし限りなき德、芝蘭不斷に香風を起す。

同二十一世中興法壽義岳大和尚小祥忌

禪慧圓明にして法燈を掲げ、久昌蘭若に中興となる。高風舊に依つて猶ほ在すが如し、山月溪雲喚べば響へんと欲す。翠竹紅花禪の面目、溪聲山色佛の真乘。

慈光開山法富良品大和尚五百回忌

昔時開法碧巖憑。豎拂行香示上乘。五百星霜如一日。高風偉德照傳燈。

堪對暮雲歸未合。遠山無限碧層々。

同 三世天室忠大和尚四百五十回忌

同塵垂手應人天。方便力隨化度緣。自有慧光無限照。春風四百五十年。

新樹香吹千里野。孤雲影入一聲鶻。

少林寺開山世代回向

佛祖光明歷代新。少林現出鷲峯真。今時久遠全無隔。常住法燈輝萬春。

永祥院開山世代回向

慈光開山法富良品大和尚五百回忌

昔時法を開いて碧巖に憑り、豎拂行香上乘を示す。五百星霜一日の如し、高風偉德傳燈を照す暮雲の歸つて未だ合せざるに對するに堪へたり、遠山限りなく碧層々。

同三世天室忠大和尚四百五十回忌

同塵垂手人天に應じ、方便力は隨ふ化度の緣。自ら慧光の限りなく照すあり、春風四百五十年新樹香は吹く千里の野、孤雲影は入る一聲の鶻。

少林寺開山世代回向

佛祖の光明歷代新なり、少林現出す鷲峯の眞。今時久遠全く隔なし、常住の法燈萬春に輝く。

永祥院開山世代回向

青山開得始傳燈。奕世鼓吹禪上乘。人仰門風分法益。鐘聲常出白雲層。

染黒寺開山世代回向

創業守成俱有功。白雲明月舉宗風。大禪定裏袈裟影。百世照來無所窮。

聖徳寺開山大圓玄致禪師十七回忌

氣宇非凡大似天。開山興法鑑機先。金剛禪定光明智。好是高風萬世傳。

青山呈露眞身佛。白雨拈提一味禪。

永祥寺開山大應活道大和尚三回忌

廣度群生行解圓。入深禪定已三年。遺風餘德光明赫。百世應知照一天。

青山開き得て始めて燈を傳ふ、奕世鼓吹す禪の上乗。人は仰ぐ門風法益を分つて、鐘聲常に白雲の層より出づるを。

染黒寺開山世代回向

創業守成俱に功有り、白雲明月宗風を擧ぐ。大禪定裏袈裟の影百世照し來つて窮る所なし。

聖徳寺開山大圓玄致禪師十七回忌

氣宇非凡なること天に似たり開山興法機先を鑑む。金剛の禪定光明智、好し是れ高風萬世に傳ふるに。青山呈露す眞身の佛、白雨拈提す一味の禪。

永祥寺開山大應活道大和尚三回忌

廣く群生を度して行解圓なり、深禪定に入つて已に三年。遺風餘德光明赫たり、百世まさし知るべし一天を照すを。

一庭疎竹吹涼氣。半砌古苔生翠煙。

定光寺開山大光海雲大和尚五十回忌

禪風定力對群生。如意青山現梵城。法海慈雲長不盡。千秋應放大光明。

薰風涼雨心頭曠。綠樹青苔天地清。

同 開基悟山活定大和尚五十回忌

釧路好開精舍基。行持綿密有斯師。星霜五十禪寂後。猶見遺風轉馥時。

露氣半庭空翠滴。涼心一味竹風吹。

吉祥寺開基二世及四世中興忌

創業開基功有光。中興又是道風昌。共得佛祖傳燈意。惠海山頭遺德長。

一庭の疎竹涼氣を吹き、半砌の古苔翠煙を生ず。

定光寺開山大光海雲大和尚五十回忌

禪風定力群生に對し、如意青山梵城を現す。法海の慈雲長へに盡きず、千秋まさに放つべし大光明。

薰風涼雨心頭曠く、綠樹青苔天地清し。

同開基悟山活定大和尚五十回忌

釧路好し開く精舍の基、行持綿密この師あり。星霜五十禪寂の後、猶ほ見る遺風うたゝ馥しき時。

露氣半庭空翠滴り、涼心一味竹風吹く。

吉祥寺開基二世及四世中興忌

創業開基功有り、中興又是れ道風昌なり。共に得たり佛祖傳燈の意、惠海山頭遺德長し。

開法寺開創第一世梵光海音大和尚五十回忌

開法度生根室天。海潮山月說眞禪。流風遺德今猶古。入定光輝五十年。

一片孤雲空翠外。半窓涼氣海潮前。

高龍寺十八世大光海雲大和尚五十回忌

法輪轉處道馨香。禪定成風及十方。讀燄傳燈明德化。國華山上放遺光。

澗水玲瓏鳴玉淨。海雲縹緲起風涼。

吉祥寺開山大光海雲大和尚五十回忌

此地開山有夙緣。流通正法化人天。廣容無限光明海。定裏今過五十年。

開法寺開創第一世梵光海音大和尚五十回忌

開法度生根室の天、海潮山月眞禪を説く。流風遺德今猶ほ古のごとし、入定の光は輝く五十年一片の孤雲空翠の外、半窓の涼氣海潮の前。

高龍寺十八世大光海雲大和尚五十回忌

法輪轉する處道馨香しく、禪定風を成して十方に及ぶ。讀燄傳燈徳化を明にして、國華山上に遺光を放つ。

澗水玲瓏玉を鳴して淨く、海雲縹緲風を起して涼し。

吉祥寺開山大光海雲大和尚五十回忌

此の地山を開く夙縁あり、正法を流通して人天を化す。廣く無限の光明海を容れて、定裏今過ぐ五十年。

涼風聲齋芭蕉雨。幽鳥影分梧竹煙。

耕雲寺開創第一世智覺大惠大和尚
十三回忌

行持綿密起神通。蘭若開創獨建功。願力金剛
長不滅。十三年裏耀遺風。

忽見清風吹碧樹。漸知秋氣滿蒼空。

圓通寺矢野道淳大和尚三回忌

願行身心古佛風。圓通寺裏說圓通。人天相憶
過三歲。獨放光明在定中。

萬里水天澄月影。半宵風樹動秋聲。

吉祥寺佛海宗國大和尚七回忌

德行禪機共絕倫。中興功業放光新。無縫塔外

涼風の聲は齋す芭蕉の雨、幽鳥の影は分つ梧竹の煙。

耕雲寺開創第一世智覺大惠大和尚十三回忌

行持綿密神通を起し、蘭若の開創獨り功を建つ。願力金剛長へに滅せず、十三年裏遺風を耀かす。

忽ち見る清風の碧樹を吹くを漸く知る秋氣の蒼空に滿つるを。

圓通寺矢野道淳大和尚三回忌

願行の身心古佛の風、圓通寺裏圓通を説く。人天相憶うて三歳を過ぎ、獨り光明を放つて定中に在り。

萬里の水天月影を澄まし、半宵の風樹秋聲を動す。

吉祥寺佛海宗國大和尚七回忌

德行禪機共に絶倫、中興の功業光を放つて新なり。無縫塔外星

星霜七。却見本來眞法身。

寺邊香滿秋三界。天上光清月一輪。

長松廿三世佛海俊龍大和尚二十三回忌

佛智深廣海作量。眞龍神力化風昌。那伽大定
通今古。二十三年燦放光。

野外秋風千草露。山頭明月一天霜。

四天王寺四十八世禪道逸雄大和尚七回忌

禪唱眞風道最崇。慧光定力祖門雄。四天王寺
存遺德。赫々應輝千古中。

一樹秋聲通榻影。半天白露入金風。

長久寺開山天叟大良大和尚四百五十回忌

青山開闢法輪清。修竹長松對衆生。四百星霜

霜七、却つて見る本來の眞法身。寺邊香は滿つ秋三界、天上光は清し月一輪。

長松廿三世佛海俊龍大和尚二十三回忌

佛智深廣海を量となす、眞龍の神力化風昌なり。那伽大定今古を通じて、二十三年燦として光を放つ。

野外の秋風千草の露、山頭の明月一天の霜。

四天王寺四十八世禪道逸雄大和尚七回忌

禪眞風を唱へて道最も崇し、慧光定力祖門の雄。四天王寺遺徳を存して、赫々まさしく輝くべし千古の中。

一樹の秋聲榻影に通じ、半天の白露金風に入る。

長久寺開山天叟大良大和尚四百五十回忌

青山の開闢法輪清く、修竹長松衆生に對す。四百星霜五十を添

添五十。傳燈猶放大光明。

孤雲片石安禪影。溪水松風說法聲。

同 卅世慈海展宗大和尚卅三回忌

可知法海大慈舟。應化臨機度衆流。一入那伽禪定裏。傳光三十有三秋。

秋風黃葉天尤淨。流水行雲境自幽。

昌福十八世重興活宗哲禪大和尚一周忌

般若智輝禪最眞。四無礙辯度生新。常恒護念宗風重。法界更留清淨身。

白露漸催三徑菊。秋風早入一江蘋。

本高寺開山歷住供養

關山說法德風芳。傳道續燈功業昌。一會華藏

へて、傳燈猶は放つ大光明。孤雲片石安禪の影、溪水松風説法の聲。

同卅世慈海展宗大和尚卅三回忌

知るべし法海の大慈舟、應化機に臨んで衆流を度するを。一たび那伽禪定の裏に入つて、光を傳ふ三十有三秋。

秋風黄葉天尤も淨く、流水行雲境自ら幽なり。

昌福十八世重興活宗哲禪大和尚一周忌

般若の智輝いて禪最も眞に、四無礙辯度生新なり。常恒護念す宗風の重きを、法界更に留む清淨身。

白露漸く催ふ三徑の菊、秋風早く入る一江の蘋。

本高寺開山歷住供養

山を關き法を説いて徳風芳しく道を傳へ燈を續いで功業昌なり

嚴飾裏。梅檀香作報恩香。

半塢丹楓織秋錦。一籬黃菊傲清霜。

周泉寺再中興五世克宗佛元大和尚忌

踳跳佛地現機鋒。舉似宗風躡古蹤。蘊徳戢光今在定。龍華三會待相逢。

山清半壑楓樞美。秋老滿天霜露濃。

定光寺廿世禪海文山大和尚廿三回忌

大海無邊禪定心。青山歷劫法門岑。涅槃二十三年日。遺徳流風化導深。

布金竺土祇園寺。掛錦夕陽紅葉林。

吉祥院仙巖守鶴大和尚三百五十回忌

碧巖仙鶴夢猶平。古定禪師月正明。衣鉢法燈

一會華藏嚴飾の裏、梅檀香は報恩香となる。

半塢の丹楓秋錦を織り、一籬の黄菊清霜に傲る。

周泉寺再中興五世克宗佛元大和尚忌

佛地を踳跳して機鋒を現じ、宗風を舉似して古蹤を躡む。徳を蘊み光を戢めて今定に在り、龍華三會相逢ふを待つ。

山清うして半壑楓樞美しく、秋老いて滿天霜露濃なり。

定光寺廿世禪海文山大和尚廿三回忌

大海無邊禪定の心、青山歷劫法門の岑。涅槃二十三年の日、遺徳流風化導深し。

金を布く竺土祇園の寺、錦を掛く夕陽紅葉の林。

吉祥院仙巖守鶴大和尚三百五十回忌

碧巖の仙鶴夢猶は平かに、古定の禪師月正に明なり。衣鉢法燈

增輝處。松風長作梵音聲。

菊花黃白籬邊馥。雁影參差月下清。

禪榮柏明大和尚二十三回忌

恰如大柏聳虛空。偉德巍々道愈隆。二十三年
深入定。使人髣髴仰真風。

洞邊雲出半峯白。林下秋闌千樹紅。

道叟堂愛禪師五百五十回忌

龍洞打開無字關。經行觀樹白雲間。星霜五百
五旬後。尚見道風輝四山。

秋月林邊風浙瀝。白雲溪裏水潺湲。

大岳廿五世徹菴默底大和尚十七回忌

徹底如來直指禪。寂然昭著對人天。流風遺德

輝を増す處、松風長へに梵音聲をなす。菊花黃白籬邊馥しく、雁影參差月下清し。

禪榮柏明大和尚二十三回忌

恰も大柏の虛空に聳ゆるが如く偉徳巍々として道愈々隆なり。二十三年深く定に入つて、人をして髣髴として眞風を仰がしむ洞邊雲出でて半峯白く、林下秋闌にして千樹紅なり。

道叟堂愛禪師五百五十回忌

龍洞打開す無字の關、經行觀樹白雲の間、星霜五百五旬の後、尚ほ見る道風の四山に輝くを。秋月林邊風浙瀝、白雲溪裏水潺湲。

大岳廿五世徹菴默底大和尚十七回忌

如來直指の禪に徹底して、寂然昭著人天に對す。流風遺徳猶ほ

猶如昨。塔上雲深十七年。

雁背風清寒露節。樹頭秋好夕陽邊。

同 十五世英洲海靈大和尚百五十回忌

英靈鐵漢善先天。體得超凡越聖禪。百五十年
風月古。有人展轉續無絃。

松上常聞風颯々。泉源長見水涓々。

周泉開關中興四世普山克明大和尚忌

萬靈山上倚周泉。開關中興功可傳。清淨法身
長不滅。白雲明月共皆禪。

秋風落葉青苔地。歸鳥夕陽黃樹天。

同寺歷代回向

創業守成龍鳳資。法燈累世照無私。定中消息

昨の如きも、塔上雲深し十七年雁背風 清し寒露の節、樹頭秋は好し夕陽の邊。

同十五世英洲海靈大和尚百五十回忌

英靈の鐵漢善く大に先んじて、體得す超凡越聖の禪。百五十年風月古りて、人の展轉して無絃を續ぐあり。松上常に聞く風颯々、泉源長へに見る水涓々。

周泉開關中興四世普山克明大和尚忌

萬靈山上周泉に倚る、開關中興功傳ふべし。清淨法身長へに滅せず、白雲明月共に皆禪。秋風落葉青苔の地、歸鳥夕陽黃樹の天。

同寺歷代回向

創業守成龍鳳の資、法燈累世照して私なし。定中の消息人知る

人知否。護念群生住大悲。

風老漸吹翻錦葉。秋深猶見傲霜枝。

長松十五世俊山祖英大和尚十三回忌

家風高古唱眞禪。定力堅剛慧眼圓。一入光明常照裏。人間相憶十三年。

既會秋風寒露節。將看楓葉菊花天。

法雲寺開山大津鱗雄大和尚三百五十回忌

化龍神力法雲昌。福智莊嚴戒定香。三百星霜加五十。江陵山色燦傳光。

榮枯開落因緣法。天地古今無盡藏。

同二十世心孝貫量大和尚廿五回忌

大心至孝沒量人。般若光明轉法輪。二十五年

や否や、群生を護念して大悲に住す。

風老いて漸く吹く錦葉、翻す葉秋深うして猶ほ見る霜に傲る枝。

長松十五世俊山祖英大和尚十三回忌

家風高古眞禪を唱へ、定力堅剛慧眼圓なり。一たび光明常照の裏に入つて、人間相憶ふこと十三年。

既に會ふ秋風寒露の節、まさに看んとす楓葉菊花の天。

法雲寺開山大津鱗雄大和尚三百五十回忌

化龍の神力法雲昌なり、福智莊嚴す戒定香。三百星霜五十を加へて、江陵の山色燦として光を傳ふ。

榮枯開落因縁の法、天地古今無盡藏。

同二十世心孝貫量大和尚廿五回忌

大心至孝沒量の人、般若の光明法輪を轉す。二十五年深く定に

深入定。江陵依舊有法身。

白露清風法雲淨。秋天沙界月華新。

長松十四世法幢開闢大洞獨住五世己洲

道戒大和尚忌

道高德厚戒光優。開闢法幢隆法流。風化豈惟師一世。眞身住得照千秋。

一片秋雲歸玉岫。數行過雁入蘆洲。

法友會物故者供養〔於福昌寺〕

各唱宗風一代師。衣光鉢影那邊移。即今法友慇懃念。大寂定中相應時。

霜染寶林楓葉色。秋深禪苑菊花籬。

諸尊宿供養〔同上〕

入つて、江陵舊に依つて法身あり。

白露清風法雲淨く、秋天沙界月華新なり。

長松十四世法幢開闢大洞獨住五世己洲道戒大和尚忌

道徳高く徳厚うして戒光優なり、法幢開闢して法流を隆す。風化豈た一世に師たるのみならず。眞身住し得て千秋を照す。

一片の秋雲玉岫に歸り、數行過雁蘆洲に入る。

法友會物故者供養

各と宗風を唱ふ一代の師、衣光鉢影那邊にか移る。即今法友慇懃に念す、大寂定中相應する時

霜は染む寶林楓葉の色、秋は禪苑菊花の籬。

諸尊宿供養

定慧傳光道最尊。提撕猶憶大慈存。心香一炷華藏界。欲報無量德海恩。

白雲霜葉真如影。墜露秋風般若門。

永光寺開山忌

洞谷法流通四海。永光佛日滿虛空。讚歎曩祖無窮德。五老峯頭千古風。

法周曉露秋霜外。道在白雲黃葉中。

龍興仙定師追弔會

龍蛇筆下起雲煙。文字禪成悟道禪。只爲定中消息絕。人間空是哭蒼天。

雲飛古木空山裏。霜白曉風殘月前。

定慧傳光を尊へて道最も尊し、提撕猶憶大慈の存するを。心香一炷華藏界、報いんと欲す無量徳海の恩。
白雲霜葉真如の影、墜露秋風般若の門。

洞谷の法流四海に通じ、永光の佛日虚空に滿つ。讚歎す曩祖無窮の徳、五老峯頭千古の風。
法は周し曉露秋霜の外、道は在り白雲黄葉の中。

龍興仙定師追弔會
龍蛇筆下に雲煙を起し、文字の禪は悟道の禪となる。たゞ定中消息絶するが爲に、人間空しく是れ蒼天に哭す。
雲は飛ぶ古木空山の裏、霜は白し曉風残月の前。

香語 (二)

戰死者追弔會

戰塵捲地襲征衣。砲火燒天彈雨飛。一死盡忠何壯烈。功名千古放光輝。

三春村落花自發。一雨山溪水始肥。

同

驅逐砲煙彈雨間。出征何必欲生還。遺功長照胡砂外。無限青雲萬仞山。

一天霜外蘆花岸。半夜鐘前明月灣。

滿洲上海事變戰病死者追弔會

滿地風雲上海塵。硝煙劍雨任其身。往年事變

戰死者追弔會
戰塵地を捲て征衣を襲ひ、砲火天を燒いて彈雨飛ぶ。一死盡忠何ぞ壯烈、功名千古光輝を放つ。
三春の村落花自ら發き、一雨の山溪水始めて肥えたり。

同
驅逐す砲煙彈雨の間。出征何ぞ必ずしも生還を欲せん。遺功長く照す胡砂の外、限りなき青雲萬仞の山。
一天の霜外蘆花の岸、半夜の鐘前明月の灣。

滿洲上海事變戰病死者追弔會
滿地の風雲上海の塵、硝煙劍雨其の身を任す。往年の事變猶ほ

猶如昨。青史長傳護國人。

林下丹楓生色耀。籬邊黃菊吐香新。

同

義心鐵石向遙州。漠々戰塵吹劍矛。護國留神
長不滅。高山流水照千秋。

楓葉荻花秋水岸。鐘聲雁影月明舟。

大本山直修支那事變戰死者彼岸會

放送法會

堪仰忠誠照古今。拋身征戰奉公深。爲君開得
菩提道。一炷薰香三世心。

法雲彼岸鐘聲寺。金色秋陽黃葉林。

戰死者追弔會

昨の如し、青史長く傳ふ護國の
人。

林下の丹楓色を生じて耀き、
籬邊の黄菊香を吐いて新なり

同

義心鐵石遙州に向ひ、漠々たる
戰塵劍矛を吹く。護國神を留め
て長へに滅せず、高山流水千秋
を照す。

楓葉荻花秋水の岸、鐘聲雁影
月明の舟。

大本山直修支那事變戰死
者彼岸會放送法會

仰ぐに堪へたり忠誠の古今を照
すを、身、征戰に抛つて奉公深
し。君が爲に開き得たり菩提の
道。一炷の薰香三世の心。

法雲は彼岸鐘聲の寺、金色は
秋陽黄葉の林、

戰死者追弔會

身在劍光砲影間。異郷一去不生還。千秋無滅
誠忠志。護國精神重泰山。

明月清風禪面目。水光山色佛容顏。

同

突破瘴煙兼戰塵。皇軍出處豈思身。盡忠報國
惟一死。赫々靈光無限新。

千秋長有光明照。皎々懸天月一輪。

同

盡忠報國在皇軍。一死不還千載勳。當得如來
甘露法。莊嚴世界放光雲。

秋風吹處岸蘆白。顚氣清時山桂芬。

同

身は在り劍光砲影の間、異郷一
たび去つて生還せず。千秋滅す
る無し誠忠の志、護國の精神泰
山より重し。

同

突破瘴煙と戰塵と、皇軍出づ
る處豈身を思はんや。盡忠報國
たゞ一死、赫々たる靈光無限に
新なり。

千秋長へに光明の照すあり、
皎々天に懸る月一輪。

同

盡忠報國皇軍に在り、一死還ら
ず千載の勳。まさに如來甘露の
法、得て、莊嚴世界に光雲を放
つべし。

秋風吹く處岸蘆白く、顚氣清
き時、桂芬し。

同

出動縦横飛戰塵。義心一死奉公人。行持既合
菩提道。功德堪成護國神。
溪聲松韻皆禪偈。海月山雲是法身。

同

陸海長傳將士忠。捧來身命死生同。人間不滅
功名貴。萬古千秋護國風。
杜鵑啼過青山外。空翠滴來雲樹中。

同

義勇拔群期奉公。戰場一死盡誠忠。憑修無上
菩提法。爲報千秋不滅功。

同

義心鐵石氣如霓。只憶奉公生死齊。護國有靈

功不滅。清風明月入菩提。

同

遠征萬里冒煙塵。義勇能成護國神。因爲英靈
修供養。莊嚴世界法雲新。

同

身在皇軍意氣雄。金剛寶劍樹勳功。既完護國
臣民任。應入眞如法界中。

同

萬里征衣着戰塵。盡忠報國感人新。寄君般若
金剛智。無上菩提證法身。

同

金剛寶劍討群邪。義烈忠誠報國家。赫々光明

出動縦横飛戰塵を飛す、義心一死奉公の人。行持既に合す菩提の道。功德成るに堪へたり護國の神。
溪聲、松韻皆禪偈、海月山雲是れ法身。

同

陸海長く傳ふ將士の忠、身命を捧げ來つて死生を同じうす。人間滅せず功名の貴きを、萬古千秋護國の風。
杜鵑啼き過ぐ青山の外、空翠滴り來る雲樹の中。

同

義勇拔群奉公を期し、戰場一死誠忠を盡す。よつて無上菩提の法を修して、ために報ゆ千秋不滅の功。

同

義心鐵石氣霓の如し、只奉公を憶うて生死を齊しうす。護國靈

有り功滅せず、清風明月菩提に入る。

同

遠征萬里煙塵を冒し、義勇能く護國の神となる。英靈の爲に供養を修するによつて、莊嚴世界法雲新なり。

同

身は皇軍に在つて意氣雄なり、金剛の寶劍勳功を樹つ。既に完了す護國臣民の任、まさに入るべし眞如法界の中。

同

萬里の征衣戰塵を着く、盡忠報國人を感ずること新なり。君に寄す般若金剛の智、無上菩提法身を證せよ。

同

金剛の寶劍群邪を討ち、義烈忠誠國家に報ゆ。赫々たる光明長

長不滅。菩提應發妙心花。

同

進前當敵是誠忠。一死長存不朽功。法界正堪成聖衆。菩提樹下坐香風。

同

劍下砲前皆道場。忠心義膽是金剛。甚深微妙菩提在。等入莊嚴法界香。

同

欲盡忠誠報國家。不辭征戰斃天涯。好令法雨潤心地。開展菩提圓覺華。

同

征衣遙入戰場塵。彈雨砲煙拋一身。資薦英靈

へに滅せず、菩提まさに發くべし妙心花。

同

進前敵に當るこれ誠忠、一死長へに存、不朽の功。法界正に衆衆となつて、菩提樹下香風に坐するに堪へたり。

同

劍下砲前皆道場、忠心義膽これ金剛。甚深微妙菩提在り、等しく入る莊嚴法界の香。

同

忠誠を盡して國家に報いんと欲して、辭せず征戰天涯に斃るを、好し法雨をして心地を潤はしめて、開展せよ菩提圓覺の華

同

征衣遙に入る戰場の塵、彈雨砲煙一身を抛つ。英靈に資薦す香

香一炷。菩提果上勝因新。

同

金剛意氣至眞情。義勇奉公齊死生。赫々光輝長不滅。無窮天地錄功名。

同

金剛寶劍照誠忠。壯烈義心全奉公。千歲長留功業跡。菩提道在法雲中。

東林寺陸海軍戰病死者並檀信先亡供養

一死奉公忠勇全。從軍將士在何邊。東林大設無遮會。齊使群靈到覺天。

流水落花芳草後。青山雲樹杜鵑前。

日露戰役戰病死者三十三回忌

一炷、菩提果上勝因新なり。

同

金剛の意氣至眞の情、義勇奉公死生を齊しうす。赫々たる光輝長へに滅せず、無窮の天地、功名を録す。

同

金剛の寶劍誠忠を照し、壯烈の義心奉公を全うす。千歲長く留む功業の跡、菩提道は在り法雲の中。

東林寺陸海軍戰病死者並檀信先亡供養

一死奉公忠勇全し、從軍の將士何の邊にか在る、東林大いに設く無遮の會。齊しく群靈をして覺天に到らむ。流水落花芳草の後、青山雲樹杜鵑の前。

日露戰役戰病死者三十三回忌

征衣只任戰塵侵。異域抽身忠烈深。三十三春
如一夢。長存萬古不磨心。

法身可見青山色。天偈猶聽流水音。

日露役戰死者卅三回忌並支那事變戰死者

追悼會

異境馳驅戰亂塵。只思忠勇不思身。長留壯烈
功勳跡。共作千秋護國神。

自有薰風吹綠樹。天邊杜宇一聲新。

日露役三十三回忌

萬里出征心自豪。泰山義重命鴻毛。忠誠一死
能酬國。不朽功名北斗高。

同

征衣たゞ戰塵、侵すに任せ、異
域身を抽んて、忠烈深し。三
十三一夢の如し、長く存す萬古
不磨の心。
法身見るべし青山の色、天偈
猶は聽く流水の音。

日露役戰死者三十三回忌
並びに支那事變戰死者追
悼會

異境馳驅す戰亂の塵、たゞ忠勇
を思つて身を思はず。長く壯烈
功勳の跡を留めて、共に千秋護
國の神となる。
自ら薰風の綠樹を吹くあり、
天邊の杜宇一聲新なり。

日露役三十三回忌

萬里出征して心自ら豪なり、泰
山義重く命は鴻毛。忠誠一死能
く國に酬ゆ、不朽 功名北斗高
し。

同

英靈遙弔古禪林。三十三年感轉深。壯烈立功
拋身命。千秋護國至誠心。

同

異域高飛征戰塵。皆看義勇奉公人。星移物換
功無朽。天地長成護國神。

千古溪山知大道。無邊風月是天眞。

吉村氏法要

本具眞心是寶藏。摩尼珠德叵思量。積來歷劫
無邊福。都作菩提妙果光。

山崎氏法要速夜

本源支派萬靈親。功德莊嚴證果新。天上香風
吹不盡。菩提苑裏百花春。

英靈遙に弔す古禪林、三十三年
感つたゞ深し。壯烈功を立て、
身命を抛つ、千秋護國至誠の心

同

異域高く飛ばず征戰の塵、皆看
る義勇奉公の人。星移り物換つ
て功朽つることなし、天地長く
成る護國の神。

千古溪山知んぬ大道、無邊の
風月これ天眞。

吉村氏法要

本具の眞心是れ寶藏、摩尼珠の
徳思量しがたし。歴劫無邊の福
を積み來つて、都て菩提妙果の
光となす。

山崎氏法要速夜

本源支派萬靈親しく、功德莊嚴
證果新なり。天上の香風吹き盡
さず、菩提苑裏百花の春。

同 禺中

遠離顛倒是圓融。十界一如修證通。甘露法門多妙雨。菩提心地滿香風。

同 正當

積功累德盛家門。事々離塵道自尊。只見菩提無上法。莊嚴佛果照乾坤。水雲風月皆禪趣。語默動容都善根。

淺井氏法要

機前妙趣本來心。絃外堪知千古琴。好證菩提圓覺法。莊嚴世界百花深。

高源院威音民德居士大練忌

菩薩心兮居士身。齊家濟世德風淳。無端行入

同 禺中

顛倒を遠離すれば是れ圓融、十界一如修證通す。甘露の法門妙雨多し、菩提の心地香風に満つ

同 正當

積功累徳家門を盛にす、事々離塵道自ら尊し。たゞ見る菩提無上の法、佛果を莊嚴して乾坤を照す。

水雲風月皆禪趣、語默動容すべて善根。

淺井氏法要

機前の妙趣本來の心、絃外知るに堪へたり千古の琴。好し菩提圓覺の法を證するに、莊嚴世界百花深し。

高源院威音民德居士大練忌

菩薩の心居士の身、家を齊へ世を濟うて徳風淳し。端なく深般

深般若。獨步威音劫外春。

柳綠花紅禪面目。天高海濶佛精神。

積寶院殿福翁常滿大居士四百回忌

松波封域立清流。萬福大檀功德優。物換星移遺業在。法雲高仰古名侯。

法界諸天紫雲護。夏山萬樹綠陰稠。

華光院殿青蓮心蓮大居士孟蘭盆會

眞如皓月照靈臺。明鏡晴空絕點埃。觸目皆成無漏業。一心法界白蓮開。

風聲雲影涼如水。溪色山光碧作堆。

陶祖院殿慈光春慶大居士忌

宋地雲遊從大師。傳來陶法此開基。慈光遠照

若に行入して、獨歩す威音劫外の春。

柳綠花紅禪の面目、天高海濶佛の精神。

積寶院殿福翁常滿大居士四百回忌

松波の封域清流に立つ、萬福の大檀功德優なり。物換り星移つて遺業在り、法雲高く仰ぐ古名侯。

法界の諸天紫雲護り、夏山の萬樹綠陰稠し。

華光院殿青蓮心蓮大居士孟蘭盆會

眞如の皓月靈臺を照し、明鏡晴空點埃を絶す。觸目皆無漏の業となり、一心法界に白蓮開く。風聲雲影涼水の如し、溪色山光碧堆をなす。

陶祖院殿慈光春慶大居士忌

宋地の雲遊大師に従ひ、陶法を傳へ來つて此に基を開く。慈光

千秋下。功德昭々無盡時。

蘆上秋風吹古岸。天邊明月照清池。

偉功院殿萬岳光天大居士忌(磁祖)

鑊心彫髓道初通。磁法成家立偉功。出作遠驚環海外。留名長照汗青中。

長空似水秋雲白。霜葉如花夕照紅。

照月院秋林貞光大姉忌

多生積德善根翻。餘慶彩雲天上飛。觸處菩提宜着眼。眞如明月古今輝。

梧葉入風翻砌際。蘆花照水映秋磯。

故齋藤、高橋、渡邊三大官供養

報國盡忠風最醇。大乘境界在斯人。回頭齊見

遠く照す千秋の下、功德昭々として盡くる時なし。蘆上の秋風古岸を吹き、天邊の明月清池を照す。

偉功院殿萬岳光天大居士忌(磁祖)

鑊心彫髓道初めて通じ、磁法家を成して偉功を立つ。作を出して遠く環海の外を驚かし、名を留めて長く汗青の中を照す。長空水に似て秋雲白く、霜葉花の如く夕照紅なり。

照月院秋林貞光大姉忌

多生徳を積んで善根翻しく、餘慶の彩雲天上に飛ぶ。觸處菩提宜しく眼を着くべし、眞如の明月古今に輝く。

梧葉風に入つて砌際を翻り、蘆花水を照して秋磯に映す。

故齋藤、高橋、渡邊三大官供養

報國盡忠風最も醇し、大乘の境界この人に在り。頭を回らして

菩提道。綠水青山是法身。

碧雲流水秋天淨。白露清風飄氣新。

興泉寺開基甘糟氏三百五十回忌

獨修檀度道心香。蘭若開基護法長。三百春秋過五十。使人更仰幾重光。

秋霜滿地菊花傲。白露橫天鴻雁翔。

畠山家四百五十回忌

積功累徳幾生縁。護法安人資福田。一自大家深入定。春秋四百五十年。

色香味觸皆般若。水在溪邊月在天。

山岡鐵舟居士五十回忌

書劍禪心三昧人。雲煙飛動筆如神。長留洞谷

齊しく見る菩提の道、綠水青山これ法身。

碧雲流水秋天淨く、白露清風飄氣新なり。

興泉寺開基甘糟氏三百五十回忌

獨り檀度を修して道心香しく、蘭若基を開いて法を護ること長し。三百春秋五十を過ぎて、人をして更に仰がしむ幾重の光。秋霜地に滿ちて菊花傲り、白露天に横たはつて鴻雁翔る。

畠山家四百五十回忌

積功累徳幾生の縁、法を護り人を安んじて福田を資く。一たび大家の深く定に入つてより、春秋四百五十年。色香味觸皆般若、水は溪邊に在り月は天に在り。

山岡鐵舟居士五十回忌

書劍禪心三昧の人、雲煙飛動して筆神の如し。長く洞谷興隆の

興隆跡。不滅光過五十春。

尙有秋香存老菊。更看明月轉霜輪。

井伊直弼公忌

參徹清涼一味禪。修文開國又空前。長思勳業如天日。盛德洪名萬古傳。

壽梅院淑芳秀德法尼大練忌

三界悠悠無處尋。碧巖空立白雲深。回頭性海懸明月。本地照來觀世音。

風吹秋水蘆花岸。日落暮雲楓樹林。

秋清院哲心正學居士三回忌

夢幻任他前世緣。傷心風露是三年。菩提因入深般若。一炷香薰兜率天。

跡を留めて、不滅の光は過ぐ五十春。尙ほ秋香の老菊に存するあり更に明月の霜輪を轉ずるを見る。

井伊直弼公忌

參徹す清涼一味の禪、修文開國又空前。長へに思ふ勳業の天日の如くなるを、盛德洪名萬古に傳ふ。

壽梅院淑芳秀德法尼大練忌

三界悠悠として尋ねるに處なし碧巖空しく立てば白雲深し。頭を回らせば性海明月を懸けて、本地照し來る觀世音。

落つ暮雲楓樹林。

秋清院哲心正學居士三回忌

夢幻さもあらばあれ前世の緣、心を傷ましむる風露これ三年。菩提の因は入る深般若、一炷の香は薰す兜率天。

江楓漁火夕陽後。白露荻花明月前。

天真院覺巖隆道居士忌

本來風月是天真。水石雲巖覺慧因。心入三千大千界。道隆空劫以前春。

飛花落葉菩提種。山色水光清淨身。

故寺尾亨博士追弔會

菩薩法門心地清。慧光行願善隣情。只期圓覺懸明鏡。東亞千年照後生。

空翠現來真實相。海潮入得梵音聲。

故高村光雲翁追弔會

光生彫像異香稠。毘首羯磨千古秋。神鑿只今空絕響。白雲明月跡悠々。

江楓漁火夕陽の後、白露荻花明月の前。

天真院覺巖隆道居士忌

本來の風月これ天真、水石雲巖覺慧の因。心は入る三千大千界道は隆し空劫以前の春。

飛花落葉菩提の種、山色水光清淨身。

故寺尾亨博士追弔會

菩薩の法門心地清し、慧光行願善隣の情。只期す圓覺明鏡を懸けて、東亞千年後生を照すを。

空翠現じ來る真實の相、海潮入り得たり梵音の聲。

故高村光雲翁追弔會

光彫像に生じて異香稠し、毗首羯磨千古の秋。神鑿只今空しく響を絶つて、白雲明月跡悠々。

法身常住山高聳。功德無邊水遠流。

教員追弔會

風格音容何處尋。教壇回首白雲深。薰香一炷資供養。水遠山高萬古心。

林屋元祖百十年忌

積善可知家道全。無量慶福子孫傳。餘芳追憶修功德。元祖菩提百十年。

玉寶院慈德遍明貞鑑大姉資薦

菩薩行持蘭蕙芬。自天賜綬紀功勳。因緣已盡人間事。去入光明遍照雲。

同

八十一年薰德風。大悲誓願現神通。雲深不識

法身常住山高聳、功德無邊水遠く流る。

風格音容何れの處にか尋ねん、教壇首を回らせば白雲深し。薰香一炷供養に資す、水遠く山高し萬古の心。

林屋元祖百十年忌
積善知るべし家道の全きを、無量の慶福子孫に傳ふ。餘芳追憶して功德を修す、元祖の菩提百十年。

玉寶院慈德遍明貞鑑大姉資薦
菩薩の行持蘭蕙芬し、天より綬を賜うて功勳を紀す。因緣已に盡す人間の事、去つて入る光明遍照の雲。

同
八十一年德風薫しく、大悲の誓願神通を現す。雲深うして識ら

何邊去。只在眞如法界中。

漾蓉院連理貞操大姉資薦

游文據德玉芙蓉。留得人生一夢蹤。無限虛空何境界。月寒霜冷五更鐘。

殿鐘施主供養

音聲佛事戒乘兼。功德光明手可拈。好得菩提微妙道。共參法界大莊嚴。

露凝蘆荻風聲淨。秋入梧桐月影添。

瑞龍寺檀徒及護持會功勞者法要

勤修檀度道風敦。思念護持功德尊。好是法輪常轉處。高岡山上有禪源。

蟹精靈及漁撈者供養

す何れの邊にか去る、只眞如法界の中に在り。

漾蓉院連理貞操大姉資薦
文に遊び徳に據る玉芙蓉、留め得たり人生一夢の蹤。限りなき虛空何の境界ぞ、月寒く霜冷なり五更の鐘。

殿鐘施主供養
音聲の佛事戒乘を兼ねて、功德光明手に拈すべし。好し菩提微妙の道を得て、共に法界の大莊嚴に參するに。

露蘆荻に凝つて風聲淨く、秋梧桐に入つて月影添ふ。

瑞龍寺檀徒及護持會功勞者法要
檀度を勤修して道風敦く、護持を思念して功德尊し。好し是れ法輪常に轉する處、高岡山上禪源あり。

蟹精靈及び漁撈者供養

菩薩行中爲蟹身。施躬沙界善成仁。漁撈又是三輪淨。一切皆趨覺苑春。

大震災十年供養

天柱地軸忽將摧。玉石龍蛇歸劫灰。今日追懷十年事。一拈香捧萬靈來。

紫陌塵收秋氣動。長天雲卷月華開。

同 十三年供養

忽驚大地震轟然。劫火更燒關左天。今日萬靈應解恨。心香好弔十三年。

解脫六趣冥々苦。證來一心法界玄。

同 十五周年供養

悲慘追憶震災年。劫火所燒將及天。業苦萬靈

菩薩行中蟹身となつて、躬を沙界に施して善く仁を成す。漁撈又これ三輪淨し、一切皆趨く覺苑の春に。

大震災十年供養

天柱地軸忽ちまさに摧けんとして玉石龍蛇劫灰に歸す。今日追懷す十年の事、一拈の香は萬靈に捧げ來る。

紫陌塵收つて秋氣動き、長天雲卷いて月華開く。

同 十三年供養

忽ち驚く大地震つて轟然、劫火更に燒く關左の天。今日萬靈まさに恨を解くべし、心香好し弔す十三年。

六趣冥々の苦を解脫して、一心法界の玄を證し來る。

同 十五周年供養

悲慘追憶す震災の年、劫火燒くところまさに天に及ばんとす。

乘此法。好成圓覺大因緣。

秋聲漸入庭中樹。顥氣遙通江上煙。

天保飢饉餓死者百年忌

喪身飢饉若爲情。追憶當年盡至誠。好味如來甘露法。群靈齊是證無生。

山下風清秋色好。天邊雲遠月光明。

尾猿澤椿事追悼會

生死岸頭人可憐。偶然慘禍又因緣。好乘一炷薰香德。應見覺園開白蓮。

一心清淨眞如月。法界光明兜率天。

同

決潰堤塘濁水洪。生靈幾許又歸空。如今追弔

業苦の萬靈此の法に乗じて好し圓覺の大因緣を成ずるに。

秋聲漸く入る庭中の樹、顥氣遙に通ず江上の煙。

天保飢饉餓死者百年忌

身を飢饉に喪ふ若爲の情ぞ、當年を追憶して至誠を盡す。好し如來甘露の法を味うて、群靈齊しくこれ無生を證するに。

山下風清うして秋色好く、天邊雲遠うして月光明なり。

尾猿澤椿事追悼會

生死岸頭人憐れむべし、偶然の慘禍又因緣。好し一炷薰香の德に乗じて、まさに見るべし覺園に白蓮を開くを。

一心清淨眞如の月、法界光明兜率天。

同

堤塘を決潰して濁水洪いなり、生靈幾許か又空に歸す。如今追

當時變。一炷薰香覺苑中。
流水行雲成妙悟。清風明月入圓通。

弔す當時の變、一炷の薰香覺苑の中。
流水行雲妙悟を成じ、清風明月圓通に入る。

香語 (三)

太祖大師降誕奉祝會

接物應機乘夙緣。大師出現日東天。
宗風自此吹無限。四海歸依洞上禪。

恭惟。

太祖常濟大師。

淨聖權化。法海慈船。

夜裏走黑漆崑崙。勃跳佛地。

悟後喫尋常茶飯。耕種福田。

德聞九重。禪要法問雲翰下。

機契叡旨。道場嘉號鳳詔傳。

太祖大師降誕奉祝會

接物應機夙緣に乗じて、大師出現す日東の天。宗風此れより吹くこと限りなし、四海歸依す洞上の禪。

恭しく惟みれば

太祖常濟大師

淨聖の權化、法海の慈船。

夜裏黒漆の崑崙を走らせて、佛地を勃跳し、悟後尋常の茶飯を喫して、福田を耕種す。

徳九重に聞えて、禪要の法問雲翰下り、機契旨に契うて、道場の嘉號鳳詔傳ふ。

無數叢林。靈苗繁茂。
萬餘寺院。法燈連綿。

今日恭遇太祖大師降誕佳辰。謹獻薰香。以
伸慶讚微意。正與麼時。報恩一着。如何敷宣。

唵。

真空般若秋風後。黃葉袈裟古寺前。

太祖大師降誕奉祝會

獨乘救世大悲緣。聖者來生日域天。
可見宗風興四海。江山到處法燈傳。

恭惟。

太祖常濟大師。

無數の叢林、靈苗繁茂し、
萬餘の寺院、法燈連綿たり。

今日恭しく太祖大師降誕の佳
辰に遇うて、謹んで薰香を獻
じて以て慶讚の微意を伸ぶ。
正與麼の時、報恩の一着如何
が敷宣せん。

唵

真空の般若秋風の後、黄葉の
袈裟古寺の前。

太祖大師降誕奉祝會

獨り救世大悲の緣に乗じて、聖
者來り生る日域の天。見る可し
宗風四海に興つて、江山到る處
法燈傳ふるを。

恭しく惟みれば

太祖常濟大師

多劫古佛。希世聖賢。

赤肉團身。現成本來面目。
非思量地。耕種本分心田。

轉却黑漆崑崙。得法自在。
喚起從上佛祖。傳光儼然。

禪苑清規。綿密行取。
曹洞佛法。普天流宣。

恩蓋三界。德及遐年。

今也。

恭迎降誕之佳節。謹開獻芹之法筵。
即今奉祝之一着。如何涉言詮。

唵。

多劫の古佛、希世の聖賢。

赤肉團身、本來の面目を現成し、
非思量地、本分の心田を耕種す。

黑漆の崑崙を轉却して、得法
自在、從上の佛祖を喚起して、
傳光儼然。

禪苑の清規、綿密に行取し、
曹洞の佛法、普天に流宣す。

恩三界を蓋ひ、徳遐年に及ぶ。

今や

恭しく降誕の佳節を迎へ、謹ん
で獻芹の法筵を開く。

即今奉祝の一着如何が言詮に
涉らん。

唵

江水海潮皆說法。山雲溪月共參禪。

孤雲禪師大遠忌

六百五旬慧日鮮。慈雲影覆極東天。
一毫疇昔穿衆穴。遺德餘芳自聯綿。

恭惟。本山第二世孤雲懷笑大和尚禪師。

洞山遠裔。永平嫡傳。

奉巾瓶二十春。瞻仰師顏如同形影。

侍塔廟三十歲。珍重夜間和南曉天。

行藏綿密有誰比。副貳傳化無齊肩。

孤雲閣中轉機輪。有與有奪。

頻伽餅裏絕塵埃。無縛無纏。

江水海潮皆說法、山雲溪月共參禪。

孤雲禪師大遠忌

六百五旬慧日鮮なり。慈雲影は覆ふ極東の天。一毫疇昔衆穴を穿ちて、遺德餘芳自ら聯綿。

恭しく惟みれば、本山第二世孤雲懷笑大和尚禪師

洞山の遠裔、永平の嫡傳。

巾瓶に奉する二十春、師顏を瞻仰して形影に如同し、塔廟に侍する三十歳、夜間に珍重し曉天に和南す。

行藏綿密誰有りてか比せん、副貳傳化齊肩無し。

孤雲閣中機輪を轉じて、與あり奪あり、頻伽餅裏塵埃を絶して、縛なく纏なし。

光明三昧雲外瞭。正法眼藏特地圓。

即今有伴來儀那一著。如何涉言詮。

咦。

那伽定裏親容納。覆蔭兒孫應法筵。

眞應誠諦禪師密葬

八十三年垂釣竿。婆心片々碎心肝。

藏舟夜壑荒涼晚。蕭々悲風滿地寒。

恭惟。新般涅槃勅賜眞應誠諦禪師。

本山獨住第六世玄光道山大和尚。

禪機滑脫。氣宇宏寬。

曇華會中。高建法幢教宗旨盛。

光明三昧雲外に瞭に、正法眼藏特地に圓なり。

即今伴あり來儀の那一着如何が言詮に涉らん。

咦

那伽定裏親しく容納。兒孫を覆陰して法筵に應ず。

眞應誠諦禪師密葬

八十三年釣竿を垂れて、婆心片々心肝を碎く。舟を夜壑に藏す荒涼の晚、蕭々たる悲風滿地に寒し。

恭しく惟みれば、新般涅槃勅賜眞應誠諦禪師

本山獨住第六世玄光道山大和尚

禪機滑脫、氣宇宏寬。

曇華會中、高く法幢を建て、宗旨をして盛ならめ、眞田山裡、

眞田山裡。普注法雨令靈苗完。

豎銀拂於雄峰。有擒有縱。

卓金錫於諸嶽。無易無難。

呼地爲天。機輪轉々。

馬胎驢腹。隨類般々。

這是大禪師生涯遊戲三昧也。

即今向大火焰裏報恩一句。如何弄舌端。

咦。

師翁眞身去何處。三松明月秋將闌。

眞應誠諦禪師奠茶

瞻仰祖門大法王。馬胎驢腹往來忙。

普く法雨を注いで靈苗をし完からしむ。

銀拂を雄峰に豎つれば、擒あり縦あり、金錫を諸嶽に卓すれば、易なく難なし。

地を呼んで天となす、機輪轉々、馬胎驢腹、隨類般々。

這は是れ大禪師生涯の遊戲三昧なり。

即今大火焰裏に向つて報恩の一句如何が舌端を弄せん。

咦

師翁の眞身去つて何れの處ぞ三松の明月秋將に闌ならんとす。

眞應誠諦禪師奠茶

瞻仰す祖門の大法王、馬胎驢腹

無端驀地踏蹴去。餘得松關殘月光。

恭惟。勅賜眞應誠諦禪師。

本山獨住第六世玄光道山大和尚。

曹源滴水。添得香湯。松風鼓壑。腋下生涼。趙州

半盞。擎供禪床。淡中滋味。一任師嘗。于寒于熱

舌頭莫傷。於生於滅。漫休商量。

即今閉却唇吻。如何喫茶去而得穩當。

咦。

法界眞身何處去。萬紅千紫爲誰芳。

覺同行智禪師

定力堅剛慧眼明。慈悲行願度群生。

往來忙し。端なく驀地踏蹴し去つて、餘し得たり松關殘月の光。

恭しく惟みれば、

勅賜眞應誠諦禪師本山獨住

第六世玄光道山大和尚。

曹源の滴水、香湯を添へ得たり。松風壑に鼓し、腋下涼を生ず。

趙州の半盞、擎けて禪床に供す。淡中の滋味、師の嘗むるに一任す。寒に熱に、舌頭傷る莫れ。

生に滅に、漫に商量するを休めよ。

即今唇吻を閉却して、如何が喫茶去して穩當なるを得ん。

咦

法界の眞身何れの處にか去る萬紅千紫誰が爲にか芳しき。

覺同行智禪師

定力堅剛慧眼明かなり、慈悲の

三松關裏芳蹤在。滅後猶聽說法聲。

恭惟勅賜覺同行智禪師。

本山獨住第八世雷澍泰音大和尚。

德如江海。見比嵩衡。

隨緣受生。果報見善根熟。

出塵得度。剃染任道芽萌。

火聚一時臨。柏老漢爐舖。

韋編幾度絕。堺支校燈檠。

行解相應于智源。機鋒穎脫。

證契即通於長命。公案現成。

旃崖親隨。行道深感終生德。

大岡知遇。護法能竭渾身誠。

行願群生を度す。三松關裏芳蹤在り。滅後猶ほ聽く說法の聲。

恭しく惟みれば、勅賜覺同行智禪師本山獨住第八世雷澍泰音大和尚。

德江海の如く、見嵩衡に比す。

隨緣受生、果報善根の熟するを見、出塵得度、剃染道芽の萌すに任す。

火聚一時に臨む、柏老漢の爐舖、韋編幾度か絶つ、堺支校の燈檠。

智源に行解相應して、機鋒穎脱、長命に證契即通して、公案現成。

旃崖の親隨、行道深く終生の德を感じ、大岡の知遇、護法能く渾身の誠を竭す。

究事徹極微。固因燃犀史眼。
接衆到寶所。豈滯方便化城。
歷進要途。當洞門樞機任。
改修宗憲。期祖風百世榮。
有闔宗選推。四海法雷響。
揭獨住旌旆。諸嶽天鼓鳴。
忽唱左右逢源。般若行智。
乃現萬念休歇。涅槃雲程。
七十八年。金剛定中消息。
一心法界。師子王身遊行。
正與麼時。覺同行智禪師入般涅槃底之一着。使山僧如何露呈。

事を究めて極微に徹す、固に燃犀の史眼に因る、衆を接して寶所に到る、豈方便の化城に滯らんや。
要途に歷進して、洞門樞機の任に當り、宗憲を改修して、祖風百世の榮を期す。
闔宗の選推あり、四海法雷響き、獨住の旌旆を掲げて、諸嶽天鼓鳴る。
忽ち左右逢源を唱ふ、般若の行智、乃ち萬念休歇を現す、涅槃の雲程。
七十八年、金剛定中の消息、一心法界、師子王身の遊行。
正與麼の時覺同行智禪師入般涅槃底の一着山僧をして如何が露呈せしめん。

江上有山山遠近。波心無路路縱橫。

嘖。

泉岳寺四十一世普天靈明大和尚

四十年來道舊師。山雲海月竭情思。

一朝高奏還鄉曲。滿地風煙盡帶悲。

恭惟大本山總持寺顧問。

泉岳四十一世重興普天靈明大和尚。

護法誓願。綿密行持。

修業于麻溪學林。三乘一乘風清月白。

參禪于諸嶽淨域。實相無相山高水奇。

泉岳寺畔。開爐韜殆三十歲。

江上山あり山遠近、波心路なく路縱横。

嘖

泉岳寺四十一世
普天靈明大和尚

四十年來道舊の師、山雲海月情思を竭す。一朝高く奏す還郷の曲、滿地の風煙盡く悲を帶ぶ。

恭しく惟みれば、大本山總持寺顧問泉岳四十一世重興普天靈明大和尚

護法の誓願、綿密の行持。麻溪の學林に修業しては、三乘一乘風清く月白し、諸嶽の淨域に參禪しては、實相無相山高く水奇なり。

泉岳寺畔。爐韜を開く殆ど三十歲。

萬松山下。接緇素知幾千兒。

復古山門傾頽。顯重興功績。

革新宗門陋弊。完總務施爲。

今也齊仰普天慧日。豈圖倏戡靈明化儀。

上來是老大和尚七十三年遊戲三昧也。

即今轉身那一句如何上口碑。

嘖。

風收萬壑雲歸岫。春入千林月印池。

龍泰四十八世慈範絕聖大和尚

悟道之心温厚風。絕塵境界玉玲瓏。

獨觀化度因緣盡。忽入那伽大定中。

十歲。萬松山下、緇素を接する知んぬ幾千兒。

山門の傾頽を復古して、重興の功績を顯し、宗門の陋弊を革新して、總務の施爲を完うす。

今や齊しく普天の慧日を仰ぐ。豈圖らんや倏ち靈明の化儀を戡むるを。

上來は是れ老大和尚七十三年の遊戲三昧なり、即今轉身の那一句如何が口碑に上さん。

嘖

風萬壑に收つて雲岫に歸り、春千林に入つて月池に印す。

龍泰四十八世慈範絕聖
大和尚

悟道の心温厚の風、絶塵の境界玉玲瓏。獨り化度因緣の盡くるを觀じて、忽ち入る那伽大定の中。

恭惟大本山總持寺顧問
龍泰四十八世慈範絕聖大和尚。

法海耆宿。祖庭英雄。

菩提道心。夙入佛門求度。

衲僧行業。獨坐禪榻觀空。

麻溪在螢雪窓。討尋兩乘蘊奧。

學林當教育任。貢獻三寶興隆。

大澤龍泰住持。檀信仰風化。

朝鮮布教總監。官民厚歸崇。

任大本山監院職。德望重如鼎。

補大遠忌副總裁。事業善成功。

四辯說法餘。書畫時托風雅。

恭しく惟みれば、大本山總持寺顧問龍泰四十八世慈範絕聖大和尚

法海の耆宿、祖庭の英雄。

菩提の道心、夙に佛門に入つて度を求め、衲僧の行業、獨り禪榻に坐して空を觀す。

麻溪螢雪の窓に在てつは、兩乘の蘊奧を討尋し、學林教育の任に當つては、三寶の興隆に貢獻す。

大澤龍泰の住持、檀信仰風化を仰ぎ、朝鮮布教の總監、官民歸崇を厚うす。

大本山の監院職に任ぜられて德望重きこと鼎の如く、大遠忌の副總裁に補せられて、事業善く功を成す。

四辯説法の餘、書畫時に風雅を

一榻禪定後。詩酒或現神通。

濟度不着衆生。只看江畔蘆花白。

禮拜不執諸佛。閑對林邊楓葉紅。

上來是慈範絕聖大和尚今世七十二年之王

三昧也。即今遷化他界底之消息。如何涉圓融。

嘆。

秋入清風吹白露。天懸明月送飛鴻。

孝山蟠龍大和尚

定慧圓明心地寬。神通無礙法輪完。

慈悲方便深如海。濟度人天現涅槃。

恭惟……孝山蟠龍大和尚。

托し、一榻禪定の後、詩酒或は神通を現す。

濟度衆生に着せず、只江畔蘆花の白きを見る、禮拜諸佛に執せず、閑に林邊楓葉の紅なるに對す。

上來は是れ慈範絶聖大和尚今世七十二年の王三昧なり。即今化を他界に遷す底の消息如何が圓融に涉らん。

嘆

秋は清風に入つて白露を吹き天は明月を懸けて飛鴻を送る

孝山蟠龍大和尚

定慧圓明にして心地寬く、神通無礙にして法輪完し。慈悲方便深きこと海の如し、人天を濟度して涅槃を現す、

恭しく惟みれば……
孝山蟠龍大和尚

佛門柱石。法界旃檀。

得度發心。觸着自己面目。
 參禪學道。透入祖師肺肝。
 分座把箴。禪道拈提震選佛。
 入室嗣法。衣鉢傳持無遮欄。
 常泉初會拈華。龍象悅安居制。
 長樂常恒接衆。麟鳳滿趺坐單。
 三山住持。應歸依全化導。
 卅年宗務。處地方保平安。
 管內講布教方。推委員長。
 宗會當特選任。立者宿壇。
 業蹟多功。聲名可傳後世。

佛門の柱石、法界の旃檀。
 得度發心、自己の面目に觸着し、
 參禪學道、祖師の肺肝に透入す。
 分座箴を把る、禪道の拈提選
 佛を震はし、入室法を嗣ぐ、
 衣鉢の傳持遮欄なし。
 常泉初會の拈華、龍象安居の制
 を悦び、長樂常恒の接衆、麟鳳
 趺坐の單に滿つ。
 三山の住持、歸依に應じて化
 導を全うし、三十年の宗務、
 地方に處して平安を保つ。
 管内布教の方を講じては、委員
 の長に推され、宗會特選の任に
 當りては、耆宿の壇に立つ。
 業蹟功多し、聲名後世に傳ふ

恩衣彰德。道譽堪比金冠。
 智見超佛祖頂。長空風颯々。
 行願入菩薩道。遍界月團々。
 向去却來。花開花落微妙法。
 東湧西沒。雲卷雲舒如是觀。
 上來是孝山蟠龍大和尚七十三年來神通自
 在三昧也。即今遷化他方世界底之一着。如何
 涉言端。

嘆。
 般若空中看雪月。眞如海裏對波瀾。

西有三世慧音良光大和尚

可し、恩衣德を彰す、道譽金
 冠に比するに堪へたり。
 智見佛祖の頂を超えて、長空風
 颯々、行願菩薩の道に入つて、
 遍界月團々。
 向去却來、花開き花落つ微妙
 の法、東湧西沒、雲卷き雲舒
 ぶ如是の觀。
 上來は是れ孝山蟠龍大和尚七十
 三年來の神通自在三昧なり。即
 今化を他方世界に遷す底の一着
 如何が言端に涉らん。
 嘆
 般若空中雪月を看、眞如海裏
 波瀾に對す。

西有三世慧音良光大和尚

峭峻機鋒脫落心。願輪如海度生深。
只今金錫知何處。雲鎖光明第一岑。

恭惟西有三世慧音良光大和尚。

見等賢聖。氣吞古今。

得度本然。佛門中求心寶。
修行可睡。僧堂裏惜寸陰。

在維室古錐筵。禪機分半座。

入藏六老漢室。鉢水通一針。

宗門要人。尤重一去一就。

師家神力。豈止七縱七擒。

專門僧堂開單。香象頻到。

認可禪林創業。旃檀可尋。

峻峭の機鋒脱落の心、願輪海の如く度生深し。只今金錫知んぬ何れの處ぞ、雲は鎖す光明の第一岑。

恭しく惟みれば、西有三世慧音良光大和尚

見は賢聖に等しく、氣は古今を吞む。

本然に得度して、佛門中に心寶を求め、可睡に修行して、僧堂裏に寸陰を惜しむ。

維室古錐の筵に在つて、禪機半座を分ち、藏六老漢の室に入つて、鉢水一針を通す。

宗門の要人、尤も一去一就を重んず、師家の神力、豈七縱七擒に止まらんや。

専門僧堂の開單、香象頻りに到り、認可禪林の創業、旃檀尋ぬ可し。

四處住山。慈意大雲澍法雨。
一代行化。無孔鐵笛成龍吟。

觀樹思惟之牀。法界三昧。

同事利行之巷。塵刹知音。

正偏雙用來。功勳有人見。

光境俱忘去。禪定無物侵。

此是大和尚六十三年光明照耀之行履。

即今入般涅槃之端的。作麼生保任。

咳。

梵音偈頌一溪水。壞色袈裟黃葉林。

東印廿世騰雲龍稚大和尚

四處の住山、慈意の大雲法雨を澍ぎ、一代の行化、無孔の鐵笛龍吟を成す。

觀樹思惟の牀には、法界の三昧、同事利行の巷には、塵刹の知音。

正偏雙べ用ひ來つて、功勳人の見る有り、光境俱に忘じ去つて、禪定物の侵す無し。

此は是れ大和尚六十三年光明照耀の行履なり、即今入般涅槃の端的作麼生か保任せん。

咳

梵音の偈頌一溪水、壞色の袈裟黄葉の林。

東印廿世騰雲龍稚大和尚

護國袈裟挂鐵肝。金剛寶劍倚天寒。
鬼神驚見皇軍裏。現盡禪機入涅槃。
恭惟東印廿世騰雲龍稚大和尚。

心月光淨。戒珠德完。

練武是禪。端的霜嚴冰潔。
見軍即道。奮迅虎踞龍蟠。

鷲地單傳佛心。通證契極。

八年住持東印。現德化端。

勇躍出征。善財求道意氣。

猛進轉戰。不動降魔壯觀。

樹功西孤嶺頭。靈光赫々。

示寂黃龍山上。法雲漫々。

護國の袈裟鐵肝に挂く、金剛の寶劍天に倚つて寒し。鬼神も驚き見る皇軍の裏、禪機を現じ盡して涅槃に入るを。

恭しく惟みれば、東印廿世騰雲龍稚大和尚

心月光淨く、戒珠德完し。

武を練る是れ禪、端的霜嚴冰潔、軍を見る即ち道、奮迅虎踞龍蟠。

鷲地佛心を單傳して、證契の極に通し、八年東印に住持して、德化の端を現す。

勇躍出征、善財求道の意氣、猛進轉戰、不動降魔の壯觀。

功を西孤嶺頭に樹て、靈光赫々、寂を黃龍山上に示して、法雲漫々。

盡忠行持。隨時道高義重。
報國三昧。當處氣浩心安。

可謂。

戰塵中轉大法輪。化益無限。

彈雨裏行深般若。濟度方闌。

此是騰雲龍稚大和尚在世四十年間佛作佛業。即今入般涅槃一着。如何稱歎。

嘆。

不管白雲來與去。青山突兀任人看。

常光廿一世德山隣祥大和尚

圓明定慧法緣慈。弘誓海中深大悲。

盡忠の行持、隨時道高く義重し、報國の三昧、當處氣浩く心安し。

謂ひつ可し

戰塵中に大法輪を轉じて、化益限り無く、彈雨裏に深般若を行じて、濟度まさに闌なりと。

此は是れ騰雲龍稚大和尚在世四十年間の佛作佛行なり、即今入般涅槃の一着如何が稱歎せん。

嘆

白雲の來と去とに管せず、青山突兀人の看るに任す。

常光廿一世德山隣祥大和尚

圓明の定慧法緣の慈、弘誓海中

正是人天全化度。十方世界入真儀。

恭惟常光廿一世重興德山隣祥大和尚。

禪林巨匠。宗門名師。

受身人生。鳳雛具拔群相。

染衣蘭若。麟兒有超世姿。

分座瑞老筵。說破向上一路。

設拜芳翁室。見得列祖龐眉。

寶積唱禪。衆鳥啣花景仰。

常光說法。諸天送供護持。

傾至心準師家。點睛衲僧眼。

奉要職宗務所。盡力古佛規。

引請勝緣。普賢拈華香象。

大悲深し。正に是れ人天化度を全うして、十方世界真儀に入る。

恭しく惟みれば、常光廿一世重興德山隣祥大和尚

禪林の巨匠、宗門の名師。

身を人生に受けて、鳳雛抜群の相を具し、衣を蘭若に染めて、麟兒超世の姿あり。

座を瑞老の筵に分つや、向上一路を説破し、拜を芳翁の室に設くるや、列祖の龐眉を見得す。

寶積禪を唱ふれば、衆鳥花を啣んで景仰し、常光法を説けば、諸天供を送つて護持す。

至心を準師家に傾けて、衲僧の眼に點睛し、要職を宗務所に奉じて、古佛の規に盡力す。

引請の勝緣、普賢華を香象に拈

燒香芳躅。文殊開經金獅。

累德伽藍興隆。得山門重興號。

積功社會事業。拜天上恩賜資。

二十一世法灯。光明增耀。

六十八年世壽。願行無涯。

正與麼時。新般涅槃之消息如何涉言辭。

嘆。

野外陽炎從日暖。河邊柳絮任風吹。

常光五世祖心順教大和尚

剛氣欲令神鬼寒。護持大法碎心肝。

如今教界尤多事。喚不回頭入涅槃。

じ、燒香の芳躅、文殊經を金獅に開く。

徳を伽藍の興隆に累ねて、山門重興の號を得、功を社會の事業に積んで、天上恩賜の資を拜す。

二十一世の法燈、光明耀やきを増し、六十八年の世壽、願行涯なし。

正與麼の時、新般涅槃の消息如何が言辭に涉らん。

嘆

野外の陽炎日の暖なるに従せ河邊の柳絮風の吹くに任す。

常光五世祖心順教大和尚

剛氣神鬼をして寒からしめんと欲し、大法を護持して心肝を碎く。如今教界尤も多事、喚べども頭を回らさずして涅槃に入る。

恭惟常光五世祖心順教大和尚

鐵膽如斗。誠心是丹。

寤寐思念奉公。頭正尾正。

侃諤論議所信。言端語端。

參隨素童禪師。機輪現異彩。

省悟三松關下。見解立大觀。

自稱我是太祖徒。以祖風發揚爲任。

常謂法於本山貴。以山光照耀爲歡。

列社員于新聞。縱橫振才幹。

得知己于官府。信望想金蘭。

盡力各宗。一諾不辭水火。

捧身教界。功勞時值讚歎。

恭しく惟みれば、

常光五世祖心順教大和尚

鐵膽斗の如く、誠心是れ丹。

寤寐奉公を思念して、頭正尾正、

侃諤所信を論議して、言端語端。

素童禪師に參隨しては、機輪

異彩を現じ、三松關下に省悟

しては、見解大觀を立つ。

自ら稱す我は是れ太祖の徒と、

祖風の發揚を以て任となし、常

に謂ふ法は本山に於て貴しと、

山光の照耀を以て歡となす。

社員に新聞に列して、縱横才

幹を振ひ、知己を官府に得て、

信望金蘭を想はしむ。

力を各宗に盡しては、一諾水火

を辭せず、身を教界に捧げては、

功勞時に讚歎に値す。

常光移轉開基。資財獨自拋。
伽藍輪奐成美。華藏與人看。

山僧。

相識廿五年。既有肝膽相照。
告別一頃刻。豈無涕淚闌干。

雖然恁麼。

生死出離衲僧。開花落葉皆解脫。
遊化自在三昧。地獄天堂共平安。

回頭轉腦。三千刹土收方寸。

舉手投足。八萬法藏歸指彈。

即今遷化他界底之一着。如何涉悉檀。

咦。

常光の移轉開基、資財獨り自
ら拋ち、伽藍の輪奐美を成し、
華藏人に與へて看せしむ。

山僧

相識る廿五年、既に肝膽相照す
有り、告別一頃刻、豈涕淚闌干
たる無からんや。

然も恁麼なりと雖も

生死出離の衲僧、開花落葉皆
解脫、遊化自在の三昧、地獄
天堂共に平安。

回頭轉腦、三千の刹土方寸に收
り、舉手投足、八萬の法藏指彈
に歸す。

即今化を他界に遷す底の一着
如何が悉檀に涉らん。

咦

東風樹影香吹地。 春色梅花玉作團。

大忍孝謙和尚

慧眼禪心是衲僧。 獨堪法海揭明燈。
涅槃欲入無餘界。 臨別爲君資上乘。
恭惟大忍孝謙和尚

羅什玉鳳。 支遁俊鷹。

得度發心。 斷除周羅一結。
辨道修業。 學得投子三登。
占首版于最乘。 前後堂裏示伎倆。
拜面授於成願。 佛祖位中明嗣承。
脫落之心。 遠離顛倒夢想。

東風樹影香地を吹き、春色梅花玉團を作す。

大忍孝謙和尚

慧眼禪心是れ衲僧、獨り法海に明燈を掲ぐるに堪へたり。涅槃入らんと欲す無餘界、別に臨んで君が爲に上乘に資す。

大忍孝謙和尚

羅什の玉鳳、支遁の俊鷹。得度發心、周羅の一結を斷除し、辨道修行、投子の三登を學得す。首版を最乘に占めて、前後堂裏に伎倆を示し、面授を成願に拜して、佛祖位中に嗣承を明かにす。脫落の心、顛倒夢想を遠離し、

神通之力。 期待龍驤虎騰。

灰身滅智因緣。 莫倚寒巖枯木。
超佛越祖機要。 須拈白拂烏藤。
生死涅槃。 眞是如昨夢。
凡聖迷悟。 却知有人響。

上來是孝謙和尚一生二十七年受用底行履也。即今末後送別之一着。如何誦稱。

唵。

林邊氣冱金風起。 天上秋清白露凝。

默照圓通禪師三回忌

行解相雙轉法輪。 禪風默照道尤親。

神通の力、龍驤虎騰を期待す。

灰身滅智の因緣、寒巖枯木に倚ること莫れ、超佛越祖の機要、須らく白拂烏藤を拈すべし。生死涅槃、眞に是れ昨夢の如し、凡聖迷悟、却つて知る人の響ふる有るを。

上來は是れ大忍孝謙和尚一生二十七年受用底の行履なり、即今末後送別の一着、如何が誦稱せん。

唵。

林邊氣冱えて金風起り、天上秋清うして白露凝る。

默照圓通禪師三回忌

行解相雙んで法輪を轉じ、禪風默照道尤も親し。慧光まさに塵